

令和5年度
富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点検・評価
学 校 第 三 者 評 価

令和6年8月

富 良 野 市 教 育 委 員 会

目 次

I 点検・評価の概要

- 1. 教育委員会事務事業点検・評価 1
- 2. 学校評価 1
- 3. 点検・評価の手法及び公表 1

II 教育委員会の活動点検・評価

- 1. 教育委員会の活動の一覧 5
- 2. 教育委員会議 12
- 3. 教育委員会活動の評価 13

III 令和5年度教育委員会事務事業点検・評価

- 事務事業点検・評価一覧 15
- 教育委員会行政組織図 17
- 教育振興課所管事務事業点検・評価シート 18
- こども未来課所管事務事業点検・評価シート 50
- 虹いろ保育所所管事務事業点検・評価シート 54
- 生涯学習センター所管事務事業点検・評価シート 56
- 図書館所管事務事業点検・評価シート 60
- 富良野学校給食センター所管事務事業点検・評価シート 64

IV 令和5年度学校第三者評価 69

V 教育行政評価委員会の開催について

- 1. 教育行政評価委員会 83
- 2. 教育行政評価委員会における意見 84

- 資料1 富良野市教育行政評価委員会設置要綱 87
- 資料2 教育行政評価委員名簿 88
- 資料3 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 88
- 資料4 令和5年度富良野市教育推進計画 88

I 点検・評価の概要

1. 教育委員会事務事業点検・評価

富良野市教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の第 26 条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進と行政評価の透明性を図り市民への説明責任を果たすことを目的として、平成 20 年度より実施し、今年度も、令和 5 年度の教育に関する事務の管理及び執行状況として 51 事業に対する点検・評価を実施しました。

2. 学校評価

学校評価については、平成 19 年 6 月に学校教育法、同年 10 月に学校教育法施行規則の一部改正が行われ、学校自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者（市教育委員会）への報告が義務化されました。これを受け、富良野市教育委員会では平成 19 年度から試行的に学校評価に取り組み、平成 20 年度から本格実施をしています。

学校第三者評価については、平成 20 年に文部科学省より示された「学校評価ガイドライン」に基づき、当事者や関係者ではなく「学識経験のある知見を有する第三者」による学校評価を行うため、令和 5 年度評価においては評価項目 16 項目、25 観点について教育行政評価委員会において実施しました。

3. 点検・評価の手法及び公表

1) 教育委員会事務事業点検・評価報告

令和 5 年度に実施した教育委員会の主な事務事業の実績を「事務事業点検評価シート」にまとめ、それぞれの目標に照らし合わせた成果を基に必要性・有効性・効果性などを各分野別において点検し、今後の課題や改善策をまとめ、担当課により次の基準で達成度・効果度の評価を行い、その結果を教育行政評価委員会において説明し、各委員より意見をいただきました。

①達成度の評価

事業の進捗状況として、当該年度において事業がどの程度まで実施できたのかを評価する。

＜評価基準＞

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する、又は評価できず。

②効果度の評価

事業の実践により、当該年度に得られた効果がどの程度なのかを評価する。

＜評価基準＞

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される、又は評価できず。

2）学校第三者評価

学校第三者評価は、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、保護者や地域住民等の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて実施するもので、単に学校に点数を付けたり、格付けしたり、監視したり、教諭を評価するための仕組みではなく、より良い「開かれた学校」をめざして行っています。

評価の方法は、「学校評価ガイドライン」で示されている評価項目を重点化し、平成 23 年度に富良野市学校教育指導委員会より答申のあった 16 項目 25 観点について各学校で自己評価をし、これを受けて、教育行政評価委員が「学校自己評価」や「学校関係者評価」を参考に、学校訪問並びに学校関係者との意見交換を実施いたしました。

3）公表

公表は議会、市ホームページ等に掲載するとともに、市の主な公共施設でも報告書を閲覧できるようにいたします。

4) 評価結果

令和5年度の事務事業点検・評価の結果について、評価基準A～Dの4段階で集計を行いました。

◎事務事業評価

第1表 事務事業評価【達成度】

	A	B	C	D	計
件 数	36	15	0	0	51 事業
構成比 (%)	70.6	29.4	0	0	100%

評価基準 A : 実践が進み成果を上げている。

B : 実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。

C : 実践に努めているが、達成度は低いと判断される。

D : 努力を要する。又は、評価できず。

第2表 事務事業評価【効果度】

	A	B	C	D	計
件 数	47	4	0	0	51 事業
構成比 (%)	92.2	7.8	0	0	100%

評価基準 A : 期待どおりの効果が得られたと判断される。

B : やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。

C : 期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。

D : 期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。又は、評価できず。



第1回評価委員会議
(令和6年5月30日)



第2回評価委員会議
教育支援センター見学
(令和6年7月8日)



第2回評価委員会議
富良野西中学校訪問
(令和6年7月8日)



第2回評価委員会議
東小学校訪問
(令和6年7月8日)

Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

令和５年度の教育委員会の活動点検・評価については、「教育委員会会議」「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会独自による点検を行いました。

１．教育委員会の活動の一覧

教育委員会会議については、毎月１回教育委員協議会と定例会を、必要に応じ臨時会を開催し、教育に関する様々な案件について協議しました。定例会については、開催予定や傍聴、報道機関への案内をするとともに、市ホームページに会議の内容等を掲載しています。

以下、令和５年度の会議開催状況等を示し、それぞれの活動内容について報告します。

１）令和５年度教育委員会会議実施状況

(1) 開催回数

定例会：１２回（毎月）

臨時会：２回（随時）

委員協議会：１２回（毎月）

(2) 付議件数

条例、規則等に関する事 10 件

（議会の議決を経るべき議案に関する事 2 件）

人事に関する事 2 件

委員の委嘱等に関する事 20 件

その他の 23 件

２）教育委員会会議の開催状況

回	開催日	開催内容
第４回 定例会	４月 １９日	(1) 富良野市教育委員会の所管に係る富良野市個人情報に関する法律施行条例施行規則の制定について (2) 富良野市教育委員会事務局組織規則の一部改正について (3) 富良野市立小中学校適正規模及び適正配置に関する改正指針について (4) 令和５年度富良野市育英基金育英生の選考について

Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

		(5) コミュニティ・スクール協議会委員の任命について (6) 富良野市学校教育指導委員会委員の委嘱について (7) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について (8) 富良野市文化財保護審議会委員の委嘱について (9) 富良野市立学校施設利用に係る学校開放主事及び学校開放管理指導員の委嘱について (10) 富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について
第 5 回 定例会	5 月 29 日	(1) 富良野市教育行政評価委員の委嘱について (2) 富良野市社会教育委員の委嘱について (3) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について (4) 富良野市地域学校協働活動推進委員の委嘱について (5) 富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について (6) 富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について (7) 令和 4 年度富良野市一般会計補正専決報告（専決処分）について (8) 令和 5 年度富良野市一般会計補正報告（専決処分）について (9) 富良野市教育委員会職員等の人事報告（専決処分）について
第 6 回 定例会	6 月 26 日	(1) 令和 5 年度富良野市一般会計補正報告（専決処分）について
第 7 回 定例会	7 月 25 日	(1) 富良野市いじめ ZERO 推進基本方針の改定について
第 8 回 定例会	8 月 28 日	(1) 富良野地区結核等対策委員の委嘱について (2) 令和 4 年度富良野市教育行政評価報告書について (3) 令和 5 年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について (4) 令和 6 年度から使用する小学校教科用図書の採択について
第 9 回 定例会	9 月 29 日	(1) 令和 5 年度就学時健康診断員の委嘱について
第 10 回 定例会	10 月 30 日	(1) 令和 5 年度富良野市青少年表彰について

		(2) 令和 5 年度全国学力・学習状況調査の公表について (3) 富良野市教育委員会職員等の人事報告（専決処分）について
第 2 回 臨時会	11 月 20 日	(1) いじめの重大事態について
第 11 回 定例会	11 月 27 日	(1) 富良野市生涯学習センター設置条例の一部改正について (2) 富良野市立保育所苦情処理対策実施における第三者委員の委嘱について (3) 富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について (4) 富良野市児童扶養手当事務取扱規程の一部改正について (5) 富良野市教育委員会事務専決規程の一部改正について
第 12 回 定例会	12 月 28 日	(1) 富良野市学校管理規則の一部改正について (2) 令和 5 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について (3) 富良野市立学校通級指導要綱の一部改正について (4) 令和 5 年度富良野市一般会計補正報告（専決処分）について (5) 令和 5 年度富良野市一般会計追加補正報告（専決処分）について
第 1 回 定例会	1 月 26 日	(1) 富良野市こども通園センター設置条例の一部改正について
第 2 回 定例会	2 月 13 日	(1) 令和 6 年教育行政執行方針について (2) 富良野市こども通園センター運営規程の一部改正について (3) 令和 6 年度富良野市立保育所における嘱託医の委嘱について (4) 令和 5 年全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果の公表について (5) 令和 5 年度富良野市一般会計補正報告（専決処分）について

Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

第 1 回 臨時会 (書面会議)	2 月 16 日	(1) 令和 6 年度富良野市教育行政執行方針の修正について
第 2 回 臨時会	3 月 1 日	(1) 令和 5 年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査の一部 修正について (2) 教職員人事の内申について
第 3 回 定例会	3 月 26 日	(1) いじめの重大事態に係る学校調査結果について (2) 令和 6 年度富良野市教育推進計画について (3) 令和 6 年度富良野市スクールカウンセラーの委嘱につい て (4) 令和 6 年度富良野市子どもと親の相談員の委嘱について (5) 令和 6 年度富良野市学校医等の委嘱について (6) 富良野市立学校施設利用条例施行規則の一部改正につい て

3) 教育委員会委員協議会の開催状況

回	開催日	開 催 内 容
第 4 回 協議会	4 月 19 日	協議(1) 富良野市教育委員会の所管に係る富良野市個人情報に 関する法律施行条例施行規則の制定について 協議(2) 富良野市教育委員会事務局組織規則の一部改正につい て 協議(3) 富良野市立小中学校適正規模及び適正配置に関する改 正指針について 協議(4) 令和 5 年度富良野市育英基金育英生の選考について 協議(5) コミュニティ・スクール協議会委員の任命について 協議(6) 富良野市学校教育指導委員会委員の委嘱について 協議(7) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 協議(8) 富良野市文化財保護審議会委員の委嘱について 協議(9) 富良野市立学校施設利用に係る学校開放主事及び学校 開放管理指導員の委嘱について

		協議(10) 富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について 報告(1) 令和5年度学級編成及び学校職員について
第5回 協議会	5月 29日	協議(1) 富良野市教育行政評価委員の委嘱について 協議(2) 富良野市社会教育委員の委嘱について 協議(3) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について 協議(4) 富良野市地域学校協働活動推進委員の委嘱について 協議(5) 富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について 協議(6) 富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について 協議(7) 令和4年度富良野市一般会計補正専決報告（専決処分）について 協議(8) 令和5年度富良野市一般会計補正報告（専決処分）について 協議(9) 富良野市教育委員会職員等の人事報告（専決処分）について 報告(1) 2023版ふらの図書館要覧について 報告(2) こども読書週間おたのしみイベントの開催について
第6回 協議会	6月 26日	協議(1) 令和5年度富良野市一般会計補正専決報告（専決処分）について 報告(1) 富良野市議会第2回定例会について 報告(2) 道立特別支援学校（高等部）誘致期成会設立 報告(3) 学校法人吉田学園と富良野高校の連携協定
第7回 協議会	7月 25日	協議(1) 富良野市いじめZERO推進基本方針の改定について 報告(1) 令和5年度いじめの把握のためのアンケート調査結果（第1回） 報告(2) 教育委員会だより第14号について
第8回 協議会	8月 28日	協議(1) 富良野地区結核等対策委員の委嘱について 協議(2) 令和4年度富良野市教育行政評価報告書について 協議(3) 令和5年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 協議(4) 令和6年度から使用する小学校教科用図書の採択について 報告(1) 令和5年度全国学力・学習状況調査結果(速報値)について
第9回 協議会	9月 29日	協議(1) 令和5年度就学時健康診断員の委嘱について 協議(2) 令和5年度富良野市一般会計補正報告（専決処分）について 報告(1) 富良野市議会第3回定例会について 報告(2) 令和5年度新体力テスト分析ツール速報値について

Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

		報告(3) 令和4年度保育所自己評価について
第10回 協議会	10月 30日	協議(1) 令和5年度富良野市青少年表彰について 協議(2) 令和5年度全国学力・学習状況調査結果の公表について 協議(3) 富良野市教育委員会職員等の人事報告（専決処分）について 報告(1) 人権教育について（答申）
第11回 協議会	11月 27日	協議(1) 富良野市生涯学習センター設置条例の一部改正について 協議(2) 富良野市立保育所苦情処理対策実施における第三者委員の委嘱について 協議(3) 富良野市子ども・子育て会議委員の委嘱について 協議(4) 富良野市児童扶養手当事務取扱規程の一部改正について 協議(5) 富良野市教育委員会事務専決規程の一部改正について 報告(1) 島田家住宅主屋の登録有形文化財（建造物）の登録について 報告(2) 2023 図書館まつり実施報告書について
第12回 協議会	12月 28日	協議(1) 富良野市学校管理規則の一部改正について 協議(2) 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 協議(3) 富良野市立学校通級指導実施要綱の一部改正について 協議(4) 令和5年度富良野市一般会計補正報告（専決処分）について 協議(5) 令和5年度富良野市一般会計追加補正報告（専決処分）について 報告(1) 富良野市議会第4回定例会について 報告(2) 令和5年度いじめの把握のためのアンケート調査結果
第1回 協議会	1月 26日	協議(1) 富良野市こども通園センター設置条例の改正について
第2回 協議会	2月 13日	協議(1) 令和6年度教育行政執行方針について 協議(2) 富良野市こども通園センター運営規程の一部改正について 協議(3) 令和6年度富良野市立保育所における嘱託医の委嘱について

		協議(4) 令和 5 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の公表について 協議(5) 令和 5 年度富良野市一般会計補正報告（専決処分）について
第 3 回 協議会	3 月 26 日	協議(1) いじめの重大事態に係る学校調査結果について 協議(2) 令和 6 年度富良野市教育推進計画について 協議(3) 令和 6 年度富良野市スクールカウンセラーの委嘱について 協議(4) 令和 6 年度富良野市子どもと親の相談員の委嘱について 協議(5) 令和 6 年度富良野市学校医等の委嘱について 協議(6) 富良野市立学校施設利用条例施行規則の一部改正について 協議(7) 令和 5 年度富良野市一般会計補正報告（専決処分）について 協議(8) 令和 5 年度富良野市一般会計追加補正報告（専決処分）について 協議(9) 令和 6 年度富良野市一般会計当初予算の報告（専決処分）について 協議(10) 富良野市教育委員会職員等の人事異動報告（専決処分）について 報告(1) 富良野市議会第 1 回定例会について 報告(2) 教職員のモラル向上に向けて（不祥事防止に向けた取組み）策定について 報告(3) 富良野市教育支援センターの設置について 報告(4) 富良野市こども家庭センター設置について 報告(5) 教育委員会だより第 15 号について

4) 学校訪問・各種行事・会議・研修会等への参加

実施月日	行 事 内 容	開催場所
4 月 3 日 4 月 25 日	・教職員着任式 ・上川管内教育委員連合会総会・第 1 回委員研修会	文化会館 旭川市
5 月 19 日 5 月 24 日 5 月下旬～	・令和 5 年第 2 回臨時会 ・令和 5 年度少年の主張大会 ・各小中学校・義務教育学校運動会（5 月下旬～6 月上旬）	市役所議事堂 文化会館 各小中学校・義務教育学校

Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

5月29日	・教育委員学校訪問（東小）	東小学校
6月12日 6月15日 6月15日 6月26日	・令和5年第2回富良野市議会定例会開会 ・富良野市戦公没者追悼式 ・令和5年度富良野市音楽大行進 ・教育委員学校訪問（富良野小・西中・東中）	市役所議事堂 サンエーホール 市内 各小中学校
7月4日	・社会を明るくする運動啓発集会	フラノマルシェ
8月23日 8月28日	・北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会 ・教育委員学校訪問（扇山小・布部小中・山部小）	室蘭市 各小中学校
9月12日 9月中旬～ 9月29日 9月30日	・令和5年第3回富良野市議会定例会開会 ・各小中学校・義務教育学校学芸会、学校祭（9月中旬～10月下旬） ・教育委員学校訪問（鳥沼小） ・東小学校開校50周年記念式典	市役所議事堂 各小中学校・義務教育学校 鳥沼小学校 東小学校
10月18日 10月24日 10月30日	・富良野市小中学校音楽発表会 ・上川管内教育委員会連合会委員研修会 ・教育委員学校訪問（麓郷小中・樹海）	サンエーホール 旭川市 各小中学校
11月3日 11月21日 11月23日 11月24日	・富良野市条列表彰式 ・第15回富良野市子ども未来づくりフォーラム ・富良野市青少年表彰式 ・上川南部教育委員会委員研修会	サンエーホール サンエーホール 文化会館 占冠村
12月1日 12月5日	・第1回総合教育会議 ・令和5年第4回富良野市議会定例会	市複合庁舎 市役所議事堂
1月7日 1月9日 1月11日 1月26日	・令和6年富良野市はたちを祝う会 ・令和6年富良野市新年交礼会 ・令和6年山部地区新年交礼会 ・令和6年東山地区新年交礼会 ・令和6年第1回臨時会	サンエーホール 文化会館 山部福祉センター 東山公民館 市役所議事堂
2月3日 2月28日	・布部小中学校閉校式・惜別会 ・令和6年第1回富良野市議会定例会開会	布部小中学校 市役所議事堂
3月中旬～ 3月26日	・各小中学校・義務教育学校卒業式 ・教職員離任式	各小中学校・義務教育学校 文化会館

2. 教育委員会議

次に掲げる事項が、教育委員会議において議決が必要な事項で、それ以外の権限に属する事務は教育長に委任されている。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針を決定すること。
- (2) 学校その他教育機関の設置及び廃止すること。
- (3) 委員会規則その他委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。

- (4) 請願、陳情等の処理に関する事。
- (5) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する事。
- (6) 教科用図書の採択に関する事。
- (7) 学校その他教育機関の敷地の選定及び変更に関する事。
- (8) 委員会及び委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関する事。
- (9) 道費負担教職員の服務の監督の一般方針を定める事。
- (10) 条例又は委員会規則に基づく委員会表彰の受賞者の決定に関する事。
- (11) 法令、条例、規則に定める委員の任命又は委嘱する事。
- (12) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について市長に意見を申し出る事。
- (13) 通学区域を設定し、又はこれを変更する事。
- (14) 富良野市育英基金条例による貸与、若しくは給付対象者を決定する事。
- (15) 長の補助機関たる職員、若しくは長の管理に属する行政機関の長に教育委員会の権限に属する事務の一部を委任し、又は補助執行させる事。
- (16) 市文化財を指定し、又は指定を解除する事。
- (17) 児童生徒の出席停止に関する事。

3. 教育委員会活動の評価

1) 議事について

条例や規則の改正、各種委員の委嘱等、事務的な手続きによるもの以外については、各委員の高い識見と課題解決に向けた積極的な発言が多くありました。また、各委員への報告や事前相談・協議、情報提供等により、円滑な会議運営がなされました。

教育委員会は、教育の政治的中立性、継続性・安定性の確保、教育行政への多様な民意の反映、教育長及び事務局が執行する事務の評価・監視を果たしています。

2) 学校訪問等について

令和5年度は、教育委員と事務局職員により市内12校の小中学校を全て訪問し、校長・教頭からの説明及び児童生徒の学習の様子を見学しております。子どもたちの学びの様子や学校の概要、運営方針、施設、教育環境、授業等さまざまな視点から学校現場の実態と運営状況の把握に努めてまいりました。

3) 各種市内行事、会議、研修会等への参加

令和5年度は、各学校の運動会・体育祭・学芸会・学校祭や卒業式などに各委

Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

員が教育委員会を代表して出席し、また、教育委員会が主催する教職員着任式、はたちを祝う会、青少年表彰式、教職員離任式等の行事や式等に出席してまいりました。さらに、全国、全道、管内、富良野沿線の教育委員研修会にも積極的に参加し、教育に関する情報収集や教育行政の諸課題についての理解を深め、地域の実情や特性に応じた特色ある教育行政の推進に向けて研鑽を図りました。

4) 広報活動

定例会等の審議内容、教育委員会だよりについては、市ホームページで公開しています。教育委員会や学校で取り組んでいる状況について、市民の一層の理解と協力を得るために、市広報紙やホームページなどをはじめ、新聞・ラジオ等のメディアの活用を進め、開かれた教育行政、効果的な教育行政の推進を図りました。

◎事務事業点検・評価一覧

所管課	評価項目		細項目		R5年度評価		備考
					達成度	効果度	
教育振興課	1	市立小中学校配置計画	1	・適正規模適正配置に関する指針	A	A	
	2	全国学力・学習状況調査	2	・全国学力・学習状況調査	A	A	
	3	全国体力・運動能力等調査	3	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査	A	A	
	4	心の教育	4	・適応指導教室事業	A	A	
			5	・スクールカウンセラー活用事業	A	A	
			6	・子どもと親の相談員活用事業	A	A	
			7	・心に響く道德教育事業	A	A	
	5	いじめZERO推進	8	・富良野市いじめ問題対策連絡協議会、 富良野市いじめ問題審議会	A	A	
	6	特別支援教育	9	・特別支援教育支援員配置事業	A	A	
			10	・特別支援連携協議会推進事業	A	A	
	7	キャリア教育	11	・富良野市キャリア教育推進会議	B	A	
	8	食育	12	・食育推進事業	B	A	
	9	情報教育	13	・ICT利活用事業	A	A	
	10	国際理解教育	14	・外国語指導助手招致事業	A	A	
	11	健康診断事業	15	・児童生徒、教職員健康診断実施事業	A	A	
	12	小中学校歯科衛生	16	・フッ化物洗口事業	A	A	
	13	高校教育	17	・高校教育の推進	A	A	
	14	コミュニケーション教育	18	・学校教育コミュニケーション教育推進事業	A	A	
	15	学校図書館	19	・学校図書館利活用事業	A	A	
	16	学校運営	20	・コミュニティスクール推進事業	A	A	
	17	学校施設整備	21	・学校施設長寿命化改修事業	令和5年度事業実施なし		
	18	家庭教育	22	・家庭教育支援事業	B	A	
			23	・親と子のふれあい事業	B	A	
	19	青少年教育	24	・子ども未来づくり事業 (少年の主張大会、未来づくりフォーラム)	A	A	
			25	・ふらのまちづくり未来ラボ推進事業	A	A	
			26	・子ども会育成事業	B	A	
			27	・青少年表彰事業	B	A	
			28	・青少年補導センター運営事業	B	A	
			29	・放課後子ども教室推進事業	A	A	
			30	・児童館・学童保育センター運営費	A	A	
			31	・地域学校協働活動事業	A	A	
	20	成人教育	32	・ふらの市民講座事業	B	A	
	21	高齢者教育	33	・ことぶき大学運営事業	B	A	

Ⅲ 令和5年度教育委員会事務事業点検・評価

所管課	評 価 項 目		細 項 目		R5 年度評価		備 考
					達成度	効果度	
こども未来課	22	子育て支援	34	・ファミリーサポートセンター事業	B	A	
			35	・子育て支援センター運営費	A	A	
			36	・こども通園センター運営費	B	A	
			37	・へき地保育所運営費	A	A	
虹いろ保育所	23	虹いろ保育所	38	・認可保育所運営費	A	A	
			39	・特別支援保育事業費	A	A	
生涯学習センター	24	文化財保護	40	・文化財保護啓蒙・普及活動	B	B	
	25	博物館	41	・博物館活動推進事業	B	B	
			42	・自然体験・環境学習事業	B	B	
	26	森林環境教育	43	・ふらの森の教室推進事業	B	B	
図書館	27	図書館	44	・図書館運営管理事業	A	A	
			45	・図書資料整備事業	A	A	
			46	・読書活動推進事業	A	A	
			47	・子どもの読書推進事業	A	A	
富良野学校給食センター	28	富良野学校給食センター	48	・安全安心な学校給食の提供	A	A	
			49	・「富良野ふるさと給食」の実施	A	A	
			50	・食に関する指導の推進	A	A	
			51	・学校給食費の徴収	A	A	
			52	・食物アレルギーの対応	A	A	
評価結果：集計				A（実践が進み成果を上げている）	36	47	
				B（実践が進んでいる）	15	4	
				C（実践に努めている）	0	0	
				D（努力を要する or 評価せず）	0	0	
				計	51	51	

①達成度の評価基準

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する又は、評価せず。

②効果度の評価基準

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される又は、評価せず。

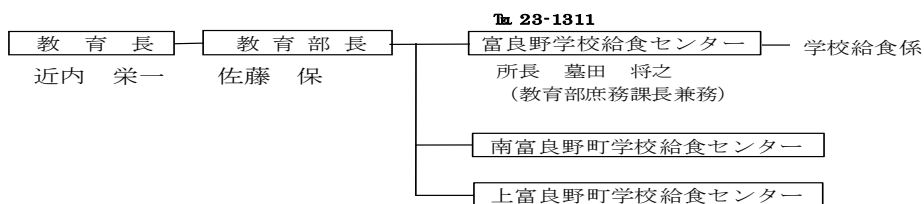
富良野市教育委員会行政組織図

令和6年4月1日現在



富良野広域連合教育委員会行政組織図

令和6年4月1日現在



令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	市立小中学校配置計画	担当課	教育振興課				
事務事業名	適正規模適正配置に関する指針						
事業の 目的・概要	○少子化による児童生徒数の減少が進む中、子ども達にとって教育の機会均等の観点から十分な教育効果が得られ、又、公平性を保ちながら次代を担う子ども達が常に良好な教育環境を確保していくための方向性を示す。	事業年度	開 始		終 了		
		初回平成17 ～19年度 平成21年度	継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
			—	—	—	—	—
前年度の 課 題	○現行の改正指針を、これまでの保護者や地域との協議を踏まえ、課題を整理しながら、より良い方向に見直しを図る必要がある。						
当該年度の 目 標	○今後の児童生徒数の推移やPTA、地域の意向を十分に踏まえ、「市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する改正指針」の内容の見直しを図っていく。						
事業の 実施状況	○平成21年2月「富良野市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する指針」の策定から年数が経過しており、児童生徒数の減少と学校の小規模化がさらに進行する中、児童生徒にとって、より良い教育環境を整備し、教育内容を保障するため、「改正指針」の一部を見直し、第2期後期の指針を策定した。 ○布部小中学校 ・令和5年2月～令和6年3月 閉校事業協議会の開催 ・令和6年2月3日 閉校式典・祝賀会の実施						
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	○学校の廃止・統合に向けては、保護者や地域住民と情報共有を図り、円滑に協議及び関連事業を進めることができた。
	効果度	A	A	A	A	A	○「改正指針」の一部を見直し（第2期後期の指針）にあたり、PTAや学校CS協議会等への説明、パブリックコメント手続きで意見集約を行いながら策定作業を進めた。
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	○今年度改正指針の見直しを行ったが、今後も目まぐるしく変化する社会情勢を見据え、制度改正や保護者の要望、地域の状況を踏まえながら課題を整理し、改正指針の内容については適時見直しを検討していく必要がある。						
	○現指針についてはR9年度までの指針となっているが、今後小規模校の入学人数が増加する見込みが無いことから配置の指針は固定的なものではなく、常に見直しを図りながら、保護者・地域との共通認識・理解のもと慎重に協議を進めて行く必要がある。						
	改 善 策						
	○地域の現状や将来的な見通しについて、引き続き学校・保護者・地域との意見交換や情報提供を行い、子どもたちにとって良好な教育環境についての検討を図っていく。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国学力・学習状況調査	担当課	教育振興課				
事務事業名	全国学力・学習状況調査						
事業の目的・概要	○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。 ○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ○そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1 国費	R2 国費	R3 国費	R4 国費	R5 国費
前年度の課題	○「学力向上推進委員会」などを組織し子どもの状況を把握し、指導の改善充実を図る。 ○富良野市学力向上推進プロジェクトが作成した「富良野市における調査結果の概要」を基に取組を行う。 ○NRT標準学力検査、教研式知能検査、WebQUの結果を有効的に活用し、児童生徒の学力向上を図る。						
当該年度の目標	○児童生徒の学力向上と学習状況に係る調査において、各教科の平均正答率が全国平均以上にする。 ○児童生徒の学習習慣等に係る調査において、各質問項目で肯定的に回答した児童生徒の割合が前年度以上にする。						
事業の実施状況	○実施日 令和5年4月18日(火) ○調査対象及び調査された人数 小学校第6学年:134名 中学校第3学年:137名 ○実施教科 小学校～国語、算数 中学校～国語、数学、英語 【R5年度調査結果の概要】 【小学校】 国語は、全国平均正答率を上回った。知識・技能については、全国の平均正答率を上回り、思考力・判断力・表現力等については、「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均正答率を上回った。算数は、全国平均正答率を上回った。「A 数と計算」「B 図形」「D データの活用」の領域で全国平均正答率を上回った。「C 変化と関係」の領域では、全国平均正答率と同等だった。 【中学校】 国語は、全国平均正答率を上回った。領域別の問題では、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等すべての領域で全国平均正答率を上回った。数学は、全国平均正答率と同等だった。領域別の問題では、「数と式」の領域は全国平均正答率を上回り、「関数」「データの活用」の領域は全国平均正答率と同等だった。英語は、全国平均正答率と同等だった。領域別の問題では、「聞くこと」の領域は全国平均正答率を上回った。						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	B	A	A	A	
	効果度	A	B	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○令和の日本型学校教育の構築をめざし、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善と家庭学習を含めた望ましい生活習慣の定着を図る必要がある。 ○各教科において達成率の低い領域を中心に、各学校において「個別最適化された学び」及び「協働的な学び」の実現に向けての授業改善及び単元を見通した指導と評価の一体化を図り、教育課程の見直しに全力を挙げて取り組む。						
	改 善 策 ○学校全体で学力向上に向けた取組を組織的に推進するため「学力向上推進委員会」等を組織し、児童生徒の学力、学習状況をきめ細かく把握し、指導の改善充実を図るとともに、ICT端末を効果的に活用し、個別最適化された学びと協働的な学びの一体的な推進を図る。 ○富良野市PTA連合会、富良野市校長会、及び富良野市教育委員会が構成する富良野市学力向上推進プロジェクトが調査結果を分析し作成した「富良野市における調査結果の概要」及び保護者向けリーフレットを基に家庭との連携、生活習慣の確立などに取り組む。 ○学力の経年変化については小中学校ともに標準学力検査（NRT）を実施し、個々の児童生徒の学習履歴等について検証改善サイクルを機能させ、個に応じた指導を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図るとともに子ども同士で多様な他者と協働しながら、より良い学を生み出す学習の充実を図る。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	担当課	教育振興課				
事務事業名	全国体力・運動能力、運動習慣等調査						
事業の 目的・概要	○子どもの体力・運動能力等の状況に鑑み、全国的な子どもの体力・運動能力や運動習慣・生活習慣等を把握・分析することにより、子どもの体力・運動能力や運動習慣等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、子どもの体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。 ○各学校が児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
	国費	国費	国費	国費	国費		
前年度の 課題	○各学校において全学年で新体力テストを実施することで、個々の児童生徒のデータが蓄積されており、そのデータを分析し、一人ひとりの体力や運動習慣等の取組の充実を図る必要がある。 ○家庭からの積極的な運動の推進や徒歩での登校など、日常的に運動に接する機会を持つ必要がある。						
当該年度の 目標	○児童生徒の体力の向上について調査を行い、全国平均以上を目指す。 ○児童生徒質問紙調査により児童生徒の運動習慣等について把握する。						
事業の 実施状況	○実施期間 本調査は4月から7月末実施 ○実施対象 小学校第5学年児童、中学校第2学年生徒 ○実施種目 小学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ソフトボール投げ 中学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（男子 1500m、女子 1000m）又は 20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ハンドボール投げ 【R5年度調査結果の概要】 児童生徒の体力合計点は、男女ともに小学校で全国平均を上回った。中学校は男女ともに全国平均を下回った。小学校では、男子が8種目のうち7種目（握力、上体お越し、長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、立ち幅とび、ソフトボール投げ）で全国平均と同等または上回り、女子は8種目のうち6種目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げ）で全国平均と同等または上回った。一方、中学校では男子が8種目のうち5種目（握力、反復横とび、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ）で全国平均と同等または上回り、女子は8種目のうち1種目（握力）で全国平均と同等だった。 「運動やスポーツに対する意識」「運動習慣の状況」「家庭での生活習慣の状況」「運動やスポーツへの関心」「体育・保健体育の授業に関する意識」等の項目を調査分析の対象とした児童生徒質問紙調査も実施され、その結果、体育・保健体育の授業が楽しくなるためには、友達との交流機会の増加や個々の発達段階、発達のペースに見合った学習活動を取り入れることが有効であり、これらを通して、より多くの達成感や、それに伴う楽しさを感じる経験を積み重ねることが重要であることが分かった。						
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	B	A	A	A	
	効果度	A	B	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○新体力テストの分析を基に各学年で課題となっている体力の向上を図るため、学校や家庭で取り組むことができる取組を推進する。 ○取組事例校の概要を共有し、授業外の時間の充実やICT端末の効果的な活用や事例について情報提供する。 ○運動が好きという意識を育み、さらに、運動実施を通して健康増進はもちろん、多くの友人の獲得や社会的な成長など児童生徒が理解、学習し、生涯にわたり、主体的に運動やスポーツに取り組む姿勢を持つことにつながると思われる。						
	改 善 策						
	○本調査の分析結果を踏まえた授業改善を進めるとともに、1校1実践や学校・家庭・地域・行政が一体となった体力向上に向けた取組を一層推進し、児童生徒の体力の保持・向上に努める。 ○健康三原則（運動、食事、休養及び睡眠）の大切さについて、保護者向けリーフレット「家庭で学力を育てる9つのポイント」を活用し、規則正しい生活習慣（生活リズムチェックシート等による家庭との連携）と食習慣、スクリーンタイムの制限による体力向上を推進する。 ○新体力テストを全学年での実施し、児童生徒一人ひとりの数値目標を設定するなど、体力テストの結果を活用した意欲的な体力向上を図る。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	適応指導教室事業						
事業の目的・概要	○不登校及びその傾向にある児童生徒に対し、保護者・学校・関係機関等との連携のもと、学校への復帰や社会的な自立に向け、基本的生活習慣の改善や豊かな情操・社会性の育成を図る。 ○不登校児童生徒や不登校児童生徒を抱える保護者の悩みや思いを受け止め、信頼関係の構築を図るとともに、学習支援をはじめ、自己肯定感や自己有用感の育成を意識した取組の充実に努め、ひきこもりや不登校問題の解決を目指す。	事業年度	開始	終了			
			平成15年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
		2,676	2,676	2,676	2,676	2,676	
前年度の課題	○適応指導教室に通室している児童生徒の抱える課題や問題の解決に向け、保護者・学校・関係機関等とのより一層の連携強化を図り、相談・支援・指導の充実に努める必要がある。 ○適応指導教室の取組等について、教職員の認知度を高め、保護者への周知を図る必要がある。 ○児童生徒や保護者からの多様な教育的ニーズに対応できるよう、児童生徒の実情を考慮した時間設定や個別指導等、弾力的な取組のより一層の推進を図るとともに、オンラインでの相談体制を推進する。						
当該年度の目標	○家庭・学校・スクールカウンセラーをはじめとする関係機関等との連携強化を図り、相談・支援・指導の充実に努める。 ○適応指導教室の取組等について、教職員に理解を深めてもらうとともに、適応指導教室に係るパンフレット等を各家庭に配布するなどして保護者への周知を図る。 ○児童生徒や保護者からの多様な教育的ニーズに対応できるよう、児童生徒の実情を考慮した時間設定や個別指導等、弾力的な取組のより一層の推進を図るとともに、ICT機器の活用を推進する。						
事業の実施状況	○不登校児童生徒や不登校児童生徒を抱える保護者に対する教育相談の実施。 ○通室児童生徒に対する学習活動の支援や制作活動・ゲーム・軽スポーツ等の体験活動の実施。 ○通室児童生徒の実情を考慮した予約制による時間設定や個別指導など、弾力的な取組の推進。 ○保護者、学校、スクールカウンセラーなど関係機関との連携、情報交換、情報共有。 ○きめ細やかな支援や指導ができる体制の構築を目指し、平成30年度から教員免許所有者を指導員として採用。 ○令和4年4月から心理職を配置し、必要に応じてカウンセリングを実施 ○令和5年4月から多様な教育的ニーズに対応するため、不登校支援ボランティア「メンタルサポーター」の取組みを開始 ○予約不要の日を週2日間設定。 ○入室児童生徒：小学生・・・10名 中学生・・・10名						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	○適応指導教室に通室している児童生徒の抱える課題や問題の解決に向け、保護者・学校・関係機関等とのより一層の連携強化を図り、相談・支援・指導の充実に努める必要がある。 ○適応指導教室の取組等について、教職員の認知度を高め、保護者への周知を図る必要がある。 ○児童生徒や保護者からの多様な教育的ニーズに対応できるよう、児童生徒の実情を考慮した時間設定や個別指導等、弾力的な取組のより一層の推進を図るとともに、オンラインでの相談体制を推進する。						
今後 の 取 組 み	改 善 策						
	○心理職による相談体制の充実に努めるとともに児童生徒のストレス対処方法の指導や、教職員のカウンセリング能力の向上のための研修の機会を設ける。 ○保護者・学校・関係機関等との積極的な情報交換に努めるなど連携を強化し、通室児童生徒や家庭との信頼関係を構築するとともに、通室児童生徒及び保護者への支援や指導の充実に努める。 ○校長会や教頭会、教育振興課主幹の学校訪問等の機会を活用し、教職員への周知を図るとともに、適応指導教室に係るパンフレット等を各家庭に配布するなど、周知の手段や方法を工夫する。 ○自宅近くでの出張開設や通室時間帯の設定の延長など弾力化を図るとともに、オンライン相談体制を充実させる。 ○不登校支援ボランティア「メンタルサポーター」の取組みを進め、支援体制を拡充する。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	スクールカウンセラー活用事業						
事業の 目的・概要	○生徒の不登校や問題行動等の対応に当たっては、学校におけるカウンセリング等の機能充実を図ることが重要な課題となっている。このため、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する「スクールカウンセラー」を配置し、生徒への心のケアを図る。 ・生徒へのカウンセリング ・教職者、保護者に対する助言・援助 ○道教委の派遣事業を申請し、令和5年度は採択。道費予算内で対応出来ない場合は市費で対応。	事業年度	開 始		終 了		
			平成17年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
			道費 一部市費 155	道費 一部市費 180	道費 一部市費 160	道費 一部市費 253	道費 一部市費 303
前年度の 課 題	○各学校では教育相談の充実を図っているが、思春期の子どもたちが心の成長過程における悩みや不安を抱えることが多く、相談内容も多岐に亘る。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小中学校が臨時休校になった影響からか不登校生徒が増加している。引き続き、生徒をはじめ、教職員や保護者に対し適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。 ○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を深めていくことが必要である。						
当該年度の 目 標	○生徒の不登校、いじめへの対応と心のケア。 ○家庭・学校・市教委等の関係機関との連携強化を図り、支援の充実に努める。						
事業の 実施状況	○生徒へのカウンセリング 延 84件 ○教職員に対する助言・援助 延 43件 ○保護者に対する助言・援助 延 51件 ○R5年度実績 5校（富良野東中学校、富良野西中学校、麓郷中学校、布部中学校、樹海学校） （道費・市費）日数・時間 延べ76日 254時間						
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	
	達成度	B	B	B	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今 後 の 取 組 み	達 成 度 ・ 効 果 度 の 検 証						
	○生徒・保護者・先生などがカウンセリングを受けたことにより、生徒や保護者の心のケアに繋がっている。 ○スクールカウンセラーと年度初めと年度末に打合せ会議を行い情報共有することで、よりきめ細かな支援に繋がっている。						
	今 後 の 課 題 ○各学校では教育相談の充実を図っているが、思春期の子どもたちが心の成長過程における悩みや不安を抱えることが多く、相談内容も多岐に亘る。 ○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を深めていくことが必要である。 ○不登校児童生徒や兆候のある生徒に対し、支援が行き届くように学校や適応指導教室との情報共有・連携が重要である。						
今 後 の 取 組 み	改 善 策						
	○スクールカウンセラー、学校、適応指導教室等との情報共有と連携を図るとともに、相談事業の取り組みを積極的にPRし、気軽に相談を受けられる体制づくりを進める。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	教育振興課					
事務事業名	子どもと親の相談員活用事業							
事業の 目的・概要	○児童が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また、学校と保護者・地域のパイプ役として不登校や問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応、児童虐待への対応及び小学校における教育相談体制の充実を図るため、相談員を小学校に配置。 ①児童の話し相手・悩み相談 ②その他の学校の教育相談活動の支援	事業年度	開始	終了				
			平成16年度		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5	
	1,702	2,045	2,001	1,842	1,435			
前年度の 課題	○問題を抱えている児童や保護者へのきめ細やかな対応と、相談員と関わることのできないケースへのアプローチが必要。 ○カウンセリングが必要な児童の把握と対応が必要になってきている。							
当該年度の 目標	○いじめ・不登校などの未然防止や早期対応。 ○家庭・学校・市教委等の関係機関との連携強化を図り、支援の充実に努める。							
事業の 実施状況	○子どもと親の相談員を小学校に配置（富良野小、扇山小、東小、麓郷小、鳥沼小、山部小、樹海（前期）） 内 容 ①児童の話し相手・悩み相談 ②家庭・地域と学校の連携の支援 ③その他の学校の教育相談活動の支援 ④中休み・昼休みを中心に来室 来室者 延べ251名（心の相談・学習相談・児童同士の相談など） ※児童144名、教員65名、保護者42名 ○保護者に対する心のケアに関する講話の実施とカウンセリング体制の確立 ○長期欠席児童生徒の心理的ケアにおける助言							
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	A	A		○教室とは違った親しみやすく和める場所として開放している。 ○気になる児童や相談に訪れた児童の様子について担任教諭と情報共有し、よりきめ細かな見守りや相談活動に努めている。
	効果度	A	A	A	A	A		○相談員と年度初めと年度末に打合せ会議を行い情報共有することで、よりきめ細かな支援に繋がっている。
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題							
	○問題を抱えている児童や保護者へのきめ細やかな対応と、相談員と関わることのできないケースへのアプローチが必要。 ○カウンセリングが必要な児童の把握と対応が必要になってきている。							
	改 善 策							
	○来室児童が多いことは、潜在的なニーズがあると思われることから、担任とは違った側面から児童や保護者との相談の場として、専門的知識を有した者（臨床心理士等）を引き続き配置する。 ○相談員、学校、適応指導教室等との情報交換と連携を図り、相談事業の取り組みを積極的にPRし、気軽に相談を受けられる体制づくりを進める。							

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	心に響く道徳教育事業						
事業の目的・概要	○自然体験や社会体験、生活体験の不足や人間関係の希薄さなどから規範意識や倫理観、生命を大切に他人を思いやる心など、豊かな心を育む「心の教育」の充実に努めるため、地域の人材や多様な専門分野の社会人を外部講師として活用し、道徳の時間等において子どもの心に響く授業を行い、道徳教育の充実に図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
	80	56	70	62	52		
前年度の課題	○富良野市にゆかりのある講師（人材）の確保を行い、児童生徒が命の尊さなどを実感できる道徳教育を実施する。 ○多くの学校で児童生徒の自己有用感・肯定感や気づきが持てるような講話の実施。						
当該年度の目標	○児童生徒が講演を通して、新たな発見や気づきを得られる講話の実施						
事業の実施状況	○富良野市にゆかりのある講師による道徳教育（講話）の実施 ●荒木 毅（富良野商工会議所 会頭）実施校0校 「職業感と人間の生き方について」 ●富良野自然塾 中島 吾郎 実施校0校 「環境教育と人間の生き方について」 ●大橋静琴（静琴書道学院 主宰）実施校2校（うち1校は当日荒天のため中止） 「書を通しての生きざま」 ●松本恵子（助産師）実施校2校 「いのちの誕生と助産師の仕事」 ●富良野協会病院 整形外科 医師 矢倉 幸久 実施校3校 「子どもは地球のたからものー海外医療ボランティアで出会った子どもたちー」 ●ふらのまちづくり株式会社 代表取締役社長 西本 伸顕 実施校2校 「フラノマルシェとまちづくり」 ●富良野社会福祉協議会 社会福祉士 榊竹 文浩・喜多 泰文 実施校1校 「地域福祉について」						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証 ○講話を通し、新たな気づきや発見、自己肯定感の向上が図られた。 ○授業では、体験や対話をする機会が多く、より深い学びに繋がった。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題 ○地域人材の確保と児童生徒が自己有用感・肯定感や気づきが持てるような講話の実施。						
	改 善 策						
	○新たな地域人材の確保 ○児童生徒が自己有用感・肯定感や気づきが持てるよう、授業の中で体験や対話の機会を設ける。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	いじめZERO推進	担当課	教育振興課				
事務事業名	富良野市いじめ問題対策連絡協議会、富良野市いじめ問題審議会						
事業の 目的・概要	富良野市いじめZERO推進条例に基づき協議会と審議会を組織し、協議会はいじめの未然防止・早期発見・早期解消、その他いじめの対処を図るとともに不登校の防止・虐待防止・登下校時等の安全対策について学校やPTA・各関係機関・団体とのネットワーク化を図り、情報交換を行い迅速かつ的確に対応する。 審議会は附属機関として、いじめZEROの推進に関する事項を調査審議する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成26年度		—		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
			59	49	40	24	60
前年度の 課題	○いじめアンケートの結果を検証し、早期発見と迅速な対応につなげるとともに、授業や学級活動において「いじめは絶対に許されない」ことへの理解と一層の意識向上を図る必要がある。 ○いじめに関する講演会等を開催し、いじめZERO及び偏見や差別撤廃に向けた啓発活動を進め、安心安全な学校・地域づくりと人権擁護を推進する必要がある。						
当該年度の 目標	○いじめZEROに向けた各種取組について、「組織的に」「迅速かつ的確に」対応するため、学校や関係機関と連携した取り組みを進めるとともに、児童生徒へ「いじめは絶対にゆるされない」ことの意識向上を図る。						
事業の 実施状況	○いじめ問題対策連絡協議会（16団体・23名） 関係機関・関係団体で組織し情報を共有。子どもたちの安全な生活環境の確保に努めている。 ・5月29日 対策連絡協議会開催 ○いじめ問題審議会（委嘱委員9名） いじめアンケート調査結果、いじめ対策に関する取り組みについて協議 ・11月28日 第1回審議会 ○富良野市いじめZEROメッセージコンクール ・応募総数 766点（標語部門：個人761点、団体4点、写真部門：1点、ポスター部門：なし） 優秀作品20作品の表彰と市広報による市民周知 ○道いじめ問題対策連絡協議会主催「絆づくりメッセージコンクール」表彰作品の表彰 ・上川管内入賞：ことば・メッセージ部門3点(最優秀賞1点、奨励賞2点) ポスター・メッセージ部門1点(最優秀賞1点)						
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	B	A	A	A	○いじめ問題審議会を開催し、認知したいじめ案件の状況説明と今後の対応策について協議し、いじめの把握のためのアンケート調査の実施状況について説明を行った。 ○いじめ防止に係る研修会等の学びの機会を、学校教育と社会教育が連携して作ることができている。 ○いじめについては、北海道の対応窓口である「おなやみポスト」を、児童生徒のタブレット端末からすぐに発信できるように設定しており、子供からのメールが道教委から市教委に転送され、市教委でも迅速な対応にあたっている。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	○いじめアンケートの結果を検証し、早期発見と迅速な対応につなげるとともに、授業や学級活動において「いじめは絶対に許されない」ことへの理解と、一層の意識向上を図る必要がある。 ○いじめ防止に係る研修会等を家庭教育セミナー等の機会やPTAの研修の機会を活用し継続して開催し、いじめZEROや偏見・差別撤廃に向けた啓発活動を進めるとともに、安心安全な学校・地域づくりと人権擁護を推進する必要がある。						
	改 善 策						
	○「いじめ」に対する児童生徒への働き掛けを全小中学校で実施するとともに、いじめの積極的認知を図り、迅速な対応に努める。 ○いじめ防止に関する講演会や研修会、絆づくりメッセージコンクールを引き続き実施し、いじめ防止や人権擁護について広く周知を図る。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	特別支援教育支援員配置事業						
事業の目的・概要	○特別支援学級の児童生徒だけではなく、通常の学級に在籍する配慮・支援の必要がある児童生徒への教育的対応がより求められている。 ○富良野市特別支援教育マスタープランに基づき、こうした児童生徒に対する学校生活の介助や学習活動の支援、安全確保などのサポートを行うため、特別支援教育支援員を配置する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
	29,606	28,713	30,033	28,869	35,367		
前年度の課題	○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが大切である。 ○増加し続ける対象児童生徒のニーズに応じた支援員の配置。 ○各学校に配置している支援員と特別支援教育コーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた支援・指導が必要。 ○支援の充実を図るために支援員の研修機会を確保する必要がある。						
当該年度の目標	○障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進 ○各学校において、支援員と特別支援教育コーディネーター、教員とが情報共有ができる体制の整備						
事業の実施状況	○配慮・支援が必要な児童生徒に対して、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うための指導体制を進め、支援員の適正な配置を実施した。 【配置支援員】 富良野小8名、扇山小5名、東小6名、山部小2名、鳥沼小1名 東中3名、西中2名の計27名 (令和4年度 24名、令和3年度 25名) 対象児童生徒 296名(令和4年度 274名、令和3年度 315名) (R5年度特別支援教育体制整備に関する調査「通常の学級に在籍する児童生徒のうち、校内委員会において特別な教育的支援を必要と判断した児童生徒137名+特別支援学級児童生徒159名) ○特別支援教育支援員研修会の実施 ・支援員研修会(初任者研修) 令和5年4月5日開催 8名参加 ※特別支援教育研修会(教職員及び支援員対象) 「学校生活等における子どもの困りへの対応について」 令和5年8月3日開催 17名(支援員)参加 「幼児の発達と障がい特性の理解」 令和5年8月28日開催 8名(支援員)参加						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	達成度・効果度の検証						
	○各学校の特別支援教育コーディネーターとの関わり、担任との情報共有において課題のある学校も若干みられるが、年々改善しながら、児童生徒の教育的ニーズに合わせた適切な支援に取り組むことができてきている。 ○低学年に手厚く対応することにより、就学後の不安解消につながってきている。 ○支援員の研修を実施し特別支援教育の理解を深めるとともに、「個別の教育支援計画」を活用し児童生徒の実態共有に努めている。						
	○保護者が安心して就学を迎えられるよう、引き続き支援体制を確保していく必要がある。 ○対象児童生徒のニーズに応じた支援員の配置。 ○各学校に配置している支援員と特別支援教育コーディネーター、教員、保護者が情報を共有し連携を深めた支援・指導が必要。 ○支援の充実を図るために支援員の研修機会を継続的に確保する必要がある。						
今後の取り組み	改 善 策						
	○研修・講習会を行い、配慮・支援が必要な児童生徒への適切な支援を行えるよう、さらなるスキルアップに努める。 ○各学校で行われている支援の方法や特別支援教育コーディネーター、教員との情報共有の方法などを全校で共有するとともに、各学校が抱える課題を連携協議会で共有し、関係機関との連携と課題解決ができる環境の整備。 ○対象児童生徒に合わせた支援員の適正な配置。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	特別支援連携協議会推進事業						
事業の目的・概要	○富良野市第4次特別支援教育マスタープランに基づき、すべての幼児・児童・生徒が障がいのあるなしに関わらず、お互いの個性を尊重し合いながら夢と希望を持って心豊かにたくましく育ち合う教育の充実を図るため、関係者による特別支援連携協議会を組織する。 ・心身に障がいのある幼児及び児童生徒の適正な就学を図る ・協議会に知的部会・情緒部会・言語部会・専門家チーム(就学相談・就学支援)を設置	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
	388	191	257	416	443		
前年度の課題	○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが必要。 ○学校内で特別支援教育コーディネーター業務、役割等、引き継ぎのさらなる徹底が必要。 ○各学校に配置している支援員と特別支援教育コーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 ○専門的な教育相談ができる担当者を増やし、内容の充実を図ることが必要。						
当該年度の目標	○障がいのあるなしに関わらず、特別な配慮・支援が必要な児童生徒のほか、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育の推進。 ○各関係機関と一貫した連携と共通認識を図り、早期からの支援を行う。 ○児童生徒に対する適切な対応と関係者の十分な連携を図るため、連携協議会組織の構築を図る。						
事業の実施状況	○組織体制の強化(就学相談・就学指導を行う専門家チーム・教育支援委員会及びコーディネーター連絡会の設置) ○医療・福祉等関係機関との連携 ○就学時健康診断(知能検査、ことばの検査)の実施 10月16日、10月23日、10月26日 ○専門家チームによる未就学児を含めた発達検査の実施(訪問観察3件、発達検査58件) ○研修会・講演会の実施 ①コーディネーター連絡会 【第1回(4月25日)】「特別支援教育コーディネーターの役割・業務内容について」 「個別の教育支援計画と個別の指導計画 作成と活用について」 「高等学校コーディネーターとの交流」 【第2回(7月27日)】 ②特別支援教育研修会 【第1回(8月3日)】「学校生活等における子どもの困りへの対応について ～当院における子どもへの対応とその視点～」 【第2回(8月28日)】「幼児の発達と障がい特性の理解」 【第3回(9月1日)】「高等支援学校の役割～本校の実践をとおして～」 ③特別支援学校の視察 ・北海道旭川豊学校(5月22日)4名参加 ○教育相談担当者養成集中講座の開催 3名受講 ※教育相談担当者養成集中講座は令和5年で終了。 ○中学校の通級指導教室開設に向けた取り組み						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○保護者が安心して就学を迎えられるよう、早期からの教育相談等を推進していくことが必要。 ○困り感を抱える児童生徒に対して、教育、福祉、家庭がより連携した支援体制を構築することが必要。 ○学校内で特別支援教育コーディネーター業務、役割等、引き継ぎのさらなる徹底が必要。 ○各学校に配置している支援員と特別支援教育コーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 ○医療的ケア児の受け入れについて、体制を整えていくことが必要。 ○中学校の通級指導教室の保護者の理解促進。						
	改 善 策						
	○就学相談を含めた相談支援体制のさらなる充実に向け、関係機関と情報共有し児童生徒の把握・理解を図る。 ○特別支援教育に関する研修会を開催し、担当者のスキルアップを図る。 ○コーディネーター連絡会等を活用し、特別支援教育コーディネーターの連携・交流を図り、各学校の特別支援教育の充実を図る。 ○第4次マスタープランを推進していくとともに、個別の教育支援計画と指導計画を活用し、関係機関との連携強化を図る。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	キャリア教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	富良野市キャリア教育推進会議						
事業の目的・概要	児童生徒が「生きる力」を身に付け、勤労観や職業観及び職業に関する知識・技能等の育成を図る観点から関係機関、団体等が一体となり、協議・連携を推し進める。	事業年度	開 始		終 了		
			平成17年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
—	—		—	—	—		
前年度の課題	○各校のキャリア教育の特色ある取組の情報共有 ○富良野版「小中高一貫ふさとキャリア教育」事業の検討 ○「マイノート（キャリアパスポート）」の活用方法と小中高間の連携。						
当該年度の目標	○児童生徒一人ひとりの望ましい勤労観・職業観とともに自己有用感・肯定感の育成を図る。						
事業の実施状況	○職場体験（職場見学）・インターンシップ実施 ・小学校7校、中学校4校、義務教育学校1校、高等学校2校 ○キャリアパスポートの活用、体験的活動及びボランティア活動 ・小中学校全校で実施 ○地域人材を活用した職業講話等の実施 ・全小中学校において、職業観や生き方等に関する講話実施 ○キャリア教育推進会議 ・3月22日開催 23名出席 ・市内小中学校、市内高等学校、商工会議所、市P連、富良野市（教育振興課・商工観光課）の出席により、キャリア教育の取組状況や進路状況を報告						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	○関連する様々な取組が各学校の教育課程に適切に位置付けられ、計画性と体系性を持って展開されることが必要 ○各校のキャリア教育の特色ある取組の情報共有 ○キャリアパスポートの活用方法と小中高間の連携。 ○将来への不安を抱く子どもが増えており、進路や職業観等を育成する取組を進める必要がある。						
	改 善 策						
	○富良野市キャリア教育推進会議において学校と事業所間の連携を進めるとともに、目標に向かって道筋を立てる取組を検討し、キャリア教育の充実を図る。 ○キャリアパスポートの効果的な活用を検討し、小中連携・中高連携を進めるとともに、児童生徒の自己有用感の醸成を図る。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	食育	担当課	教育振興課				
事務事業名	食育推進事業						
事業の目的・概要	○子どもたちに食の楽しさ・大切さを伝えるために、家庭だけでなく保育所・幼稚園・学校など地域の関係者が連携しながら、食育の重要性について共通の認識を持ち、子どもたちの健やかな心と身体を育てていくことを目的とし、「子どもたちのための食育ガイドライン」を基に食育推進を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
			—	9,081	—	—	
前年度の課題	○全国・全道平均に比べ、肥満傾向にある子どもの割合が高いことから、健康教育や保健指導を進める必要がある。 ○各校の食育の年間指導計画と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。 ○関係機関それぞれで食育活動を行っており、効果的かつ効率的に取り組みを進められるよう、情報共有や連携できる体制づくりが必要である。						
当該年度の目標	○令和3年度に策定した食育計画（第2次富良野市子どもたちのための食育ガイドライン）に基づき、関係機関と連携しながら食育の取組を推進する。						
事業の実施状況	○栄養教諭 ～ 2名配置 配置校～富良野小学校、東小学校 ○栄養教諭による各校での食育指導と啓発活動 ○令和3年度に策定した「第2次富良野市子どもたちのための食育ガイドライン」に基づいた取組の推進						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	
	達成度	B	B	A	B	B	
	効果度	B	B	A	A	A	
今後の取り組み	達 成 度 ・ 効 果 度 の 検 証						
	○令和2年度から新たに栄養教諭1名を東小学校に配置し、2名体制で食育推進を図っている。 ○令和3年度に策定した「第2次富良野市子どもたちのための食育ガイドライン」に基づき栄養教諭を中心に各校で取り組みを推進。						
	今 後 の 課 題						
今後の取り組み	○全国・全道平均に比べ、肥満傾向にある子どもの割合が高いことから、健康教育や保健指導を進める必要がある。 ○各校の食育の年間指導計画と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。 ○関係機関それぞれで食育活動を行っており、効果的かつ効率的に取り組みを進められるよう、情報共有や連携できる体制づくりが必要である。						
	改 善 策						
	○健康診断等により児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携し、「食育」を通じた健康管理を行う。 ○学校給食の「食べ残しゼロ運動」や「早寝、早起き、朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動の促進を継続実施する。 ○「第2次富良野市子どもたちのための食育ガイドライン」に基づき、関係機関との議論の場をつくり、食育活動の連携の促進を図る。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	情報教育	担 当 課	教育振興課				
事務事業名	I C T活用事業						
事業の 目的・概要	○児童生徒が、情報化やグローバル化などの社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な力を確実に備えることができるよう、情報活用能力を、教科等を超えた全ての学習の基盤として育まれ、活用される資質・能力と位置づけ、教育課程全体を通じて確実に育成するため、ICTの利活用と環境整備の充実を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成21年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
		12,066	174,782	28,183	14,173	6,391	
前年度の 課 題	○各学校及び市教研情報班において引き続き教材研究や研修を促す必要がある。 ○情報セキュリティの確立に向けて、引き続き教職員の意識醸成が必要。 ○1人1台端末の整備後の利活用について、さらに調査・研究を進める必要がある。 ○新学習指導要領で扱う「プログラミング教育」についての調査・研究を進める必要がある。 ○各校の進捗状況に偏りがないよう、富良野市学校教育ICT活用推進委員会等で情報共有を図る必要がある。 ○1人1台端末の計画的な更新について検討を進める必要がある。						
当該年度の 目 標	○主体的・対話的で深い学びを実現する、ICTを活用した効果的な学習活動を実施。 ○家庭でのオンライン学習環境の実現に向けた環境整備を図る。 ○富良野市学校教育ICT活用推進委員会等により、各校の情報共有・連携を促進する。 ○「富良野市学校教育の情報化推進計画」に基づきICT教育の推進及びICT環境の充実を図る。 ○ICT支援員を配置し、教職員のICT活用を支援し、学校間・教職員格差を是正する。						
事業の 実施状況	○新しいかたちの学びの授業力向上推進事業における推進教員による1人1台端末を活用した授業改善の取り組みの推進。 ○緊急時における家庭でのオンライン学習環境を整備。また、「家庭における通信環境調査」を実施し、通信環境のない家庭を把握。家庭の通信環境の整備に誘因するため、小学校5、6年生を対象にモバイルルーターを1年間の期間限定で無償貸与。 ○富良野市学校教育ICT活用推進委員会を2回開催し、計画の進捗管理や各校の取り組みを共有。 ○市教委主催の研修会や校内研修等によるICTの活用方法の理解及び実践。 ・富良野市ICT活用セミナー（初級編・上級編） 8月2日開催 参加者延べ80名 ・富良野市著作権セミナー 9月4日開催 参加者35名 ○ICT支援員（地域おこし協力隊）を2名配置し、教職員のICT活用を支援。授業改善・校務改善に寄与した他、教職員の負担軽減に繋がった。						
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	A	A	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	○各学校において引き続き教材研究や研修を促す必要がある。 ○情報セキュリティの確立に向けて、引き続き教職員の意識醸成が必要である。 ○1人1台端末の整備後の利活用について、さらに調査・研究を進める必要がある。 ○新学習指導要領で扱う「プログラミング教育」についての調査・研究を進める必要がある。 ○各校の進捗状況に偏りがないよう、富良野市学校教育ICT活用推進委員会等で情報共有を図る必要がある。 ○1人1台端末の計画的な更新について検討を進める必要がある。						
	改 善 策						
	○学校における情報セキュリティの確立に向け、研修の機会等を通じて教職員の意識醸成を図る。 ○新学習指導要領で扱う「プログラミング教育」についての調査・研究を行う。 ○富良野市学校教育ICT活用推進委員会等により、各校の情報共有・連携を促進する。 ○「富良野市学校教育の情報化推進計画」に基づき、児童生徒の学習への関心、意欲、理解を高めるために必要な学習プログラムと、学校のICT環境の計画的な整備を図る。 ○ICT支援員を配置し、学校職員の業務低減を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する、ICTを活用した効果的な学習活動について全市的な普及を図る。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	国際理解教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	外国語指導助手招致事業						
事業の 目的・概要	英語に慣れ親しみ日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶために、外国語指導助手を小中学校に派遣し、英語力向上を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成7年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
21,192	20,996		20,126	21,611	21,712		
前年度の 課 題	○小学校教員の英語力・指導力の更なる向上。 ○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携。 ○「英語が使えるふらのっ子」を推進する指導体制の充実。						
当該年度の 目 標	○「英語が使えるふらのっ子」を推進する指導体制の充実を図る。 ○小学校教員の英語力・指導力の向上を図る。						
事業の 実施状況	○外国語指導助手を4名（JETプログラム3名、独自採用1名）、小学校外国語活動等アドバイザー1名の計5名を配置し、外国語活動や英語教育、総合的な学習時間等に向けて市内小学校及び中学校に派遣している。 ○外国語教育推進委員会の設置開催 第1回会議 6月14日、 第2回会議 2月21日 ・効果的な言語活動や教材・指導法の交流 ・小中高連携の具体的な方法のあり方 ・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校の公開授業等の情報の交流 ○「英語が使えるふらのっ子」の推進に向けた取組を実施。 ・イングリッシュキャンプの実施・・・令和6年1月13日（富良野生涯学習センター） 参加者：23名						
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証 ○外国語教育推進委員会において、推進体制や指導形態について担任教諭とALTとの協議を進め、小中学校の連携を図った。 ○「イングリッシュキャンプ」を実施し、英語に触れる機会を設けることで、英語に対する学習意欲向上につながっている。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	○小学校教員の英語力・指導力の更なる向上。 ○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携。 ○富良野市小中学校CAN-DOリスト（学習到達目標）の活用。 ○「英語が使えるふらのっ子」を推進する指導体制の充実。						
	改 善 策						
	○小学校において外国語とふれ合う機会を増やすため、「イングリッシュキャンプ」など気軽に英語と関われる環境づくりを行う。 ○「英語が使えるふらのっ子」をめざす観点から、ALTの独自採用を継続するとともに国際自治体協会とも連携しALT人材の充実を図る。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	健康診断事業	担当課	教育振興課				
事務事業名	児童生徒、教職員健康診断実施事業						
事業の 目的・概要	○健康診断事業の円滑な実施によって、児童生徒、教職員の健康増進を図る。 ○児童生徒の健康診断＝毎学年定期に児童生徒の健康診断を行わなければならない。 （学校保健安全法第13条第1項） ○教職員健康診断＝学校の設置者は毎学年定期に職員の健康診断を行わなければならない。 （同法第15条第1項） ○就学時健康診断＝翌学年から就学させるべき者の健康診断を行わなければならない。 （同法第11条）	事業年度	開 始		終 了		
					継続		
				事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3
			9,687	9,809	9,547	9,396	9,261
前年度の 課 題	○引き続き児童生徒及び保護者の健康管理への意識向上を図る必要がある。 ○教職員に対し、健康診断の重要性について周知を図る必要がある。						
当該年度の 目 標	○児童生徒の健康診断の完全実施。 ○教職員健康診断の早めの受診を促す。						
事業の 実施状況	○児童生徒の健康診断 ・学校保健安全法第13条第1項に基づき実施。 ○教職員健康診断 ・同法第15条第1項に基づき毎学年定期に実施。 ・令和5年度受診状況 対象者146名中 146名受診。（受診率100%） ・未受診者へ個別に呼びかけ実施。 ○就学時健康診断 ・同法第11条に基づき実施 ・令和5年度 就学時健診受診案内者 132名 ・何らかの支援が必要とされる児童を発見し、就学前から該当児童及び保護者への相談・支援を実施している。						
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	B	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	○引き続き児童生徒及び保護者、教職員に対し健康管理、健診について理解を促していく必要がある。						
	改 善 策						
	○教職員健康診断の未受診者は学校管理職より個別に受診の呼びかけを引き続き行うことで受診率を100%にする。 ○内科、歯科、耳鼻科の欠席者対応については令和5年度から行う。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	小中学校歯科衛生	担当課	教育振興課				
事務事業名	フッ化物洗口事業						
事業の 目的・概要	○北海道は、全国に比べて、12歳児におけるむし歯が多いことから「歯・口腔の健康づくり8020推進条例」が制定されたことに伴い、北海道教育委員会としても幼児・児童生徒の歯・口腔の健康づくり推進を図るために小中学校でのフッ化物洗口の導入を支援している。 ○富良野市健康増進計画（第2次）においても歯科健康対策の推進としてフッ化物洗口実施による12歳児1人平均むし歯1.0歯未満が目標を示されたことから、事業実施を行う。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
		443	595	607	394	497	
前年度の 課	○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が重要であり、フッ化物洗口だけではなく、歯磨きの習慣を定着させることが必要。 ○各校フッ化物洗口の実施方法を工夫し、感染症対策に努める。						
当該年度の 目 標	○フッ化物洗口にあたって、引き続き、保護者・学校へ実施内容等の正しい情報の提供を実施し、幅広く周知を図る。						
事業の 実施状況	○富良野市においては、全小中学校において希望者のみフッ化物洗口を実施。 ○令和2年度より、学校や薬剤師会からの要望を受け、これまでの試薬から医薬品「オラブリス洗口用顆粒11%」に変更し、洗口液を提供。 ○実施方法について、感染症の飛沫感染防止のため実施する際に場所を分け感染症対策を取りながら実施。 ○小学生は対象者830名に対し実施者数738名・実施率88.9%、中学生は対象者480名に対し実施者数387名・実施率80.6%である。						
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
達 成 度 ・ 効 果 度 の 検 証							
○関係機関が一丸となった取組を進めており、高い実施率を上げているが、中学校の実施率が少し下がってしまった。 ○フッ化物を長期的に続けることで口腔衛生が保たれている。							
今 後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	○学校によって実施率にばらつきがみられた。 ○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が重要であり、フッ化物洗口だけではなく、歯磨きの習慣を定着させることが必要。						
	改 善 策						
○引き続き学校や保護者向けにフッ化物洗口の情報提供を行う。 ○養護教諭を中心に、児童生徒の歯・口腔の健康意識を向上させるための生活習慣を身に付けさせる指導を行う。							

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高校教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	高校教育の推進						
事業の目的・概要	市内中学校と地区高校の相互連携により中高の教育振興と地元の魅力ある高校づくりを図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
—	—		100	100	100		
前年度の課題	○中学生の状況を踏まえ、各学校の特色を活かした授業交流や学校説明会の実施。 ○地域の実情や多様な教育的ニーズに合わせた高校教育環境の確保。 ○新設統合校の魅力づくりと期待感の醸成。						
当該年度の目標	○中高の情報を共有し、今日的な教育課題の解決を図る。 ○授業交流・情報交流の継続により、中高各段階での学力の現状把握と、各段階で必要な基礎学力の分析を進め、中高が連携して学力向上を図る。 ○富良野地区の望ましい高校教育づくりを推進する。 ○地域や保護者の教育ニーズに対応した高校教育の充実を図る。						
事業の実施状況	○富良野市中高等学校経営連絡協議会 市内の中学校及び富良野地区の高等学校が連携し、富良野地区の未来を支えるべき優秀な人材の育成をめざし、年間計画や課題共有、次年度に向けた方向性について協議。 ○学力向上プロジェクトチーム ・プロジェクトチーム会議の開催 ・各中学校において、学校説明会・進路説明会実施 ・中高連携協議会ライングループの運用により、円滑に情報共有が進められた。 ○富良野市内高等学校魅力化推進会議 ・教育長・職務代理者・市内高等学校長・市立中学校長・市内学校PTA・富良野沿線等で構成 ・「富良野の新しい高校の地域説明会」を開催し、保護者だけでなく、富良野圏域の教育関係者や企業、住民を広く集め、道教委との意見交換の場を設定						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○中学生の状況を踏まえ、各学校の特色を活かした授業交流や学校説明会の実施 ○地域の実情や多様な教育的ニーズに合わせた高校教育環境の確保 ○新設統合校の魅力づくりに向けた支援体制の構築 ○新設統合校の開校に向けた期待感の醸成						
	改 善 策						
	○授業交流・情報交流の継続により、中高各段階での学力の現状把握と、各段階で必要な基礎学力の分析を進め、中高が連携して学力向上を図る。 ○地元に必要な人材の育成と多様化する教育ニーズに対応できる教育環境確保のため、引き続き支援機関へのサポートを行うとともに、地域の意見を集約し北海道及び道教委に対し要請を行う。 ○新設統合校の魅力づくりに向けた支援体制を構築するため議論の場を設定する。 ○新設統合校の開校に向けた期待感を醸成するため情報発信を強化する。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	コミュニケーション教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	学校教育コミュニケーション教育推進事業						
事業の 目的・概要	○演劇的手法等を用いたワークショップを通じて、児童生徒に豊かな想像力や思考能力とともに他者理解、話す・聞くの基本など、「気づき」「きっかけ」を得て、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。	事業年度	開 始	終 了			
			平成28年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
		1,304	1,221	1,271	759	924	
前年度の 課 題	○事業継続により小規模校では、同一児童生徒が繰り返すことになり、様々な導入方法が必要。 ○感染症予防のため実施人数をクラス単位にするなど工夫が必要。						
当該年度の 目 標	○全小中学校において演劇的手法を用いたワークショップを実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。						
事業の 実 施 状 況	○ワークショップ等実施状況 実施校 全12校（延べ14回） 参加児童生徒数 378人 ○実施内容 ・表現プログラム ・コミュニケーションスキルトレーニング ・ワークショップ（アブライド・ドラマ） ・お互いの考えを受け入れながら作成するショートストーリー ・学芸会に向けた演劇指導 ・コミュニケーション・プログラム（アイスブレーキング・表現活動） ・レクリエーション・プログラム等 学校と協議し、ニーズに合わせた内容で実施。						
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	○児童生徒（保護者）が体験（プログラム）を通じてコミュニケーションや他者意識について理解することができた。 ○演劇の指導により、コミュニケーション能力や表現力の向上が図られた。また、プロの役者の演劇に対する思いを感じることで、学校祭や演劇祭への取組の姿勢が高められた。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	○事業継続により小規模校では、同一児童生徒が繰り返すことになり、多様なプログラムを用意しておく必要がある。						
	改 善 策						
	○コミュニケーション能力の向上については、各学校とも理解されており、今後も多様なプログラムの実施により児童生徒の関心を高める取組が必要。 ○早期に受託者との日程調整を行い、全校においてコミュニケーション教育を実施する。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校図書館	担当課	教育振興課				
事務事業名	学校図書館利活用事業						
事業の目的・概要	○学校司書の配置により、主体的・対話的で深い学びの視点から「学び」を効果的に進める基盤としての、学校図書館機能を充実させることで、子どもたちの読書活動推進や情報活用能力の育成を図る。 ○また、不登校生徒が増加傾向にあることから、学校図書館を悩みを抱える子どもの「心の居場所」として、学校内の安心・安全に過ごせる場所としての機能強化を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成30年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
	7,831	6,605	6,475	6,427	7,535		
前年度の課題	○家庭や地域との連携等により、読書の習慣付けを図る取組の実施。 ○新学習指導要領の趣旨を踏まえ、読書センター、学習センター、情報センターの機能充実。 ○学校、市立図書館、学校司書との連携強化。 ○学校図書館の標準蔵書数を下回る学校への購入費の財源確保。 ○不登校傾向にある児童生徒の「心の居場所」としての機能の充実。						
当該年度の目標	○新たに学校司書として業務に就く方のための研修等の計画的な実施。 ○学校、市立図書館、学校司書との連携強化を図る。 ○言語活動の充実を図ることとした新学習指導要領の趣旨を踏まえた、授業等における学校図書館の利活用の促進。 ○学校図書館や学校司書を有効に活用するとともに、学校全体として組織的な取組になるよう、学校司書だけでなく学校の図書担当を含めた会議や研修を実施していく。						
事業の実施状況	○学校司書の配置校 全小中学校に配置 ・週3回：富良野小、扇山小、東小、樹海 ・週2回：麓郷小中、布部小中、鳥沼小、山部小、富良野東中、富良野西中 ○子どもの読書活動推進事務連携会議を開催 ・月1回程度開催 計9回 ○研修会の開催・受講 ・9月14日（水）市内高校（富良野高校・富良野緑峰高校）の学校図書館を視察 ・北海道教育委員会主催研修事業（今回1名が受講・修了し、5名全員が修了となった） ○学校図書館の整備 ○富良野市立学校図書館の図書検索サイトの運用 ○富良野市教育委員会と学校司書のグループウェアの導入による円滑な情報共有 ○学校図書館サイトを構築（各校の本の検索だけでなく、情報検索の仕方などを学べるサイトとして開設準備）						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○家庭や地域との連携等により、読書の習慣付けを図る取組の実施。 ○新学習指導要領の趣旨を踏まえ、読書センター、学習センター、情報センターの機能充実。 ○学校、市立図書館、学校司書との連携強化。 ○学校図書館の標準蔵書数を下回る学校への購入費の財源確保。 ○不登校傾向にある児童生徒の「心の居場所」としての機能の充実。						
	改 善 策						
	○学校図書館や学校司書を有効に活用するとともに、学校全体として組織的な取組としていく。そのために学校司書だけでなく学校の図書担当を含めた会議や研修を実施していく。 ○学校司書、市立図書館、各種ボランティア、保護者等と連携し、多様な読書活動の一層の普及・定着を図っていく（読書センター機能の充実）。 ○新学習指導要領の趣旨を踏まえた、授業等における学校図書館の利活用の促進（学習センター・情報センター機能の充実）。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校運営	担当課	教育振興課			
事務事業名	コミュニティスクール推進事業					
事業の 目的・概要	保護者及び地域住民が学校運営や学校教育活動に 参画し連携を深めることにより、学校、保護者、 地域との信頼関係を深め、一体となって学校運営 の改善と児童生徒の健全育成に取り組む。	事業年度	開 始		終 了	
			平成29年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4
690	672		706	672	654	
前年度の 課題	○地域とともにある学校づくり実現のため、コミュニティスクールと地域学校協働活動との取組の 一体化の推進。 ○学校の課題解決に向け、CS委員が関わりやすい研修機会の提供					
当該年度の 目標	○コミュニティ・スクール間の情報共有や委員交流のための活動の充実を図る。 ○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との取組の一体化を図る。					
事業の 実施状況	○学校運営協議会は、各校とも新型コロナウイルス感染の感染症の収束状況を見つつ会議を開催し した。 《協議内容》 ・学校経営方針に係る意見交換、承認 ・学校評価の実施 ・学校の課題解決に向けた議論 等 ○富良野市地域学校協働活動推進委員・CS協議会委員の合同研修会の開催 ・3月5日開催 39名 ・基調講演「地域のスポーツ環境について考える～5年後のスポーツ振興を描く～」 講師 部活動の在り方検討支援アドバイザー・NPO法人幕別札内スポーツクラブ マネー ジャー 小田新紀氏 ・グループワーク「富良野の子どもたちのスポーツ環境をどのように確保していくか」					
評 価		R1	R2	R3	R4	R5
	達成度	A	B	A	A	A
	効果度	A	A	A	A	A
今 後 の 取 組 み	達 成 度 ・ 効 果 度 の 検 証					
	○感染症防止のため取組が制限された中ではあったが、 学校ごとに研修会や登下校時の安全指導などの取組みが 実施されている。 ○CSと地学協働活動の合同研修会を開催し、今後の課 題である部活動の地域移行についての情報共有の場と なった。 ○保護者・地域による学校支援活動が活発になり、学校 に対する保護者や地域の理解が深まった。					
	今 後 の 課 題 ○学校が抱える課題の解決を図り、子どもたちの教育活動等を一層充実していく観点から、学校運 営協議会について、これまでの役割を重視しつつ、学校運営の最終責任者である校長を支え、応援 することで、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを推進するという役割を明確化していく必 要がある。 ○地域とともにある学校づくり実現のため、コミュニティスクールと地域学校協働活動の取組の一 体的推進に向けた体制の整備。					
改 善 策	○各CS運営協議会の取組等、委員間の情報共有機会の継続。 ○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との取組の一体化を図る。 ○コミュニティ・スクールの運営や分野横断的な活動の総合調整など総括的な立場で調整等を行う コーディネーターの配置促進と人材育成					

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	教育振興課											
事務事業名	家庭教育支援事業													
事業の 目的・概要	幼児・児童生徒の保護者及び地域の人々を対象に、家庭や地域の教育力をより高めるため、子どもの基本的な生活習慣・自立心・自主性・耐性などを培うことについて、関係機関・団体と連携し、学習機会の充実を図る。	事業年度	開 始		終 了									
			平成9年度		継続									
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5							
279	111		0	264	69									
前年度の 課 題	○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持つように、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、継続的な情報提供が必要である。 ○望ましい電子メディアとのかかわり方や規則正しい生活習慣を学校、家庭、PTAで連携して今後とも取り組んでいく必要がある。													
当該年度の 目 標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実。													
事業の 実施状況	○家庭教育セミナー													
	<table border="1"> <tr> <td>市街地区</td><td>9/27</td><td>子育て支援センターと連携し、幼児を持つ保護者向けに保健センター1階の水曜開放にあわせて開催 参加者 20名</td></tr> <tr> <td>布部地区</td><td>中止</td><td></td></tr> <tr> <td>東山地区</td><td>中止</td><td></td></tr> </table>						市街地区	9/27	子育て支援センターと連携し、幼児を持つ保護者向けに保健センター1階の水曜開放にあわせて開催 参加者 20名	布部地区	中止		東山地区	中止
市街地区	9/27	子育て支援センターと連携し、幼児を持つ保護者向けに保健センター1階の水曜開放にあわせて開催 参加者 20名												
布部地区	中止													
東山地区	中止													
評 価	○家庭教育講演会 R5.11.23 子どもに学ぶ家庭教育オンライン講演会(クリーミーママの会との共催) ※ZOOM及び旭川・富良野・占冠・紋別で同時開催 参加者計50名(うち、富良野市8名) R5.12.1 もったいないばあさんのお話 参加者130名													
	○家庭教育ハンドブック(小学低・中学年編、小学高学年・中学生編)の作成、配布													
	○ケータイ、インターネットトラブル防止に関する小冊子の作成、配布													
達 成 度 ・ 効 果 度 の 検 証	R1	R2	R3	R4	R5	○児童・生徒をもつ両親及び地域の人を対象とした、家庭や地域の教育力をより高めるための、学習機会を作り出すことができ、地域として子どもたちを守り育てていく意識の醸成が図られた。								
	達成度	B	B	B	B									
	効果度	A	A	A	A		A							
今 後 の 取 組 み	今 後 の 課 題													
	○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持ち、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、またより多くの人に機会を届けられるような継続的でわかりやすい情報提供の方法の検討が必要である。 ○学力の向上や正しい生活習慣につながる電子メディアとのかかわり方を、学校や家庭で取り組むことができる情報発信と学びの機会を、継続して作る必要がある。													
	改 善 策													
今 後 の 取 組 み	○必要な情報が欲しい時にすぐに手に入る情報整理と発信の方法の検討。													
	○家庭教育に関係のある団体や個人と連携し、家庭教育への関心と参加を推進。													
	○各学校区をはじめとする地域や市PTA連合会と連携した家庭教育向上に向けた取り組み。													

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	教育振興課																																																	
事務事業名	親と子のふれあい事業																																																			
事業の目的・概要	家庭や地域の人々との共感的な人間関係を大切にして、心のつながりを深める活動を通して、子どもの心身の発達を促す。	事業年度	開始		終了																																															
			昭和52年度		継続																																															
		事業費（決算） （単位：千円）	R1	R2	R3	R4	R5																																													
市民講座事業・図書館事業に掲載																																																				
前年度の課題	○公民館・図書館が連携を図り、親子のふれあいを深め子どもの健やかな成長を育む事業内容を充実させ、多くの親子が気軽に参加できる機会の提供を継続していく必要がある。																																																			
当該年度の目標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実。 ○親子で楽しみながら、豊かな心を育てる共同体験機会の充実。 ○家庭内では難しい、専門家の話を聞きながら、親子で参加できる市民講座の開催。																																																			
事業の実施状況	○市民講座【家庭教育・親子を対象にした講座】																																																			
	<table border="1"> <tr> <td>・自主企画講座</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>「インファントマッサージ教室」</td><td></td><td>9/5.12.19.26</td><td></td><td></td><td>16人</td></tr> <tr> <td>「ヒグマの事を正しく知って、正しい対処方法を学ぼう」</td><td></td><td>1/20</td><td></td><td></td><td>23人</td></tr> <tr> <td>・市民講座（公民館フェスタ）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>「スマホで撮影するキッズフォト講座」</td><td></td><td>6/24</td><td></td><td></td><td>12人</td></tr> <tr> <td>「親子で楽しもう！チョークアート講座」</td><td></td><td>6/24</td><td></td><td></td><td>10人</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>61人</td></tr> </table>					・自主企画講座						「インファントマッサージ教室」		9/5.12.19.26			16人	「ヒグマの事を正しく知って、正しい対処方法を学ぼう」		1/20			23人	・市民講座（公民館フェスタ）						「スマホで撮影するキッズフォト講座」		6/24			12人	「親子で楽しもう！チョークアート講座」		6/24			10人											
・自主企画講座																																																				
「インファントマッサージ教室」		9/5.12.19.26			16人																																															
「ヒグマの事を正しく知って、正しい対処方法を学ぼう」		1/20			23人																																															
・市民講座（公民館フェスタ）																																																				
「スマホで撮影するキッズフォト講座」		6/24			12人																																															
「親子で楽しもう！チョークアート講座」		6/24			10人																																															
					61人																																															
評価	○読み聞かせ（図書館）																																																			
	・どんぐりのおはなし会 29回 延 326人 ・土曜日のおはなし会 10回 延 120人																																																			
	○子どもの図書館まつり 作品展示 7団体																																																			
達成度・効果度の検証	R1	R2	R3	R4	R5																																															
	達成度	B	—	B	B	B																																														
今後	効果度	B	—	A	A	A																																														
	○地域に必要な学びを自ら企画しようという意識を持った市民が増えつつあり、市民による自主企画講座で、多様な保護者の参加による効果的な学びの場になっている。																																																			
今後の取り組み	今 後 の 課 題																																																			
	○地域住民のニーズに合わせた親子講座の企画、講座や学習会等での子育てサークルの活動支援、これらの周知が今後も継続して必要。 ○図書館（中央公民館）を活用した気軽に参加できる親子でふれあう学びの機会の拡充。																																																			
改善策	改 善 策																																																			
	○事業内容の検討を行い、関係する部署や関係する機関・団体、家庭教育サポート企業（市内8社）等と連携し、より多くの親子が参加できる機会を提供しながら事業展開を図る。 ○オンラインは補完的に効果的に利用し親子の対面を中心とした、ふれあい事業の展開を図る。																																																			

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	教育振興課																													
事務事業名	子ども未来づくり事業（少年の主張大会、子ども未来づくりフォーラム）																															
事業の目的・概要	子どもの立場から「まちづくり」に対する自由な発想や意見を出し合い、自主的に社会参加するとともに市政に対する関心を高め、富良野市の未来を担う青少年を育成することを目的とする。	事業年度	開 始	終 了																												
			平成19年度	継続																												
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5																									
		267	350	368	390	363																										
前年度の課題	○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開の継続。 ○オンライン、YouTube、ラジオふらのを通し、子ども達のまちづくりに対する主張発表等を広く市民に発信する。																															
当該年度の目標	○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開を図る。 ○自分やグループ内での考え、表現する力の育成と子ども一人ひとりの多様な考えを引き出す発表の場を提供する。																															
事業の実施状況	○少年の主張大会 会場：富良野市複合庁舎 会議室 ・青少年を取巻く社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案等 ・家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友達との関わりなど ・TVや新聞等で報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言等 <table border="1"> <tr> <td>5/24（水）</td><td>5校（13人）</td><td>西4・東4・樹海3・布部1・麓郷1</td></tr> </table>					5/24（水）	5校（13人）	西4・東4・樹海3・布部1・麓郷1																								
	5/24（水）	5校（13人）	西4・東4・樹海3・布部1・麓郷1																													
	○こども未来づくりフォーラム ・学校の授業や児童会活動等で取り組まれている特色ある取組みや地域課題解決に向け自分達にできること、市民が取り組むべきことなどについて発表。																															
	・11/21（火）開催 会場：富良野文化会館サンエーホール <table border="1"> <tr> <td>布部小中 小6・中1・2年生</td><td>富良野ブランドの秘密 ～富良野と仕事～</td><td>3人</td></tr> <tr> <td>鳥沼小3・4年生</td><td>鳥沼じまん調査隊！</td><td>8人</td></tr> <tr> <td>樹海学校5・6年生</td><td>樹海の防災 ～自分と大切な人の命を守るために～</td><td>6人</td></tr> <tr> <td>富良野小6年生</td><td>富良野市の未来のために</td><td>57人</td></tr> <tr> <td>扇山小6年生</td><td>ふらの学2023</td><td>47人</td></tr> <tr> <td>麓郷小3・4年生</td><td>麓郷、冬の観光大作戦！</td><td>8人</td></tr> <tr> <td>山部小5・6年生</td><td>山部アピール大作戦！</td><td>11人</td></tr> <tr> <td>東小5年生</td><td>誰一人取り残さない富良野へ ～SDGsを学んで～</td><td>39人</td></tr> <tr> <td>8校</td><td></td><td>179人</td></tr> </table>					布部小中 小6・中1・2年生	富良野ブランドの秘密 ～富良野と仕事～	3人	鳥沼小3・4年生	鳥沼じまん調査隊！	8人	樹海学校5・6年生	樹海の防災 ～自分と大切な人の命を守るために～	6人	富良野小6年生	富良野市の未来のために	57人	扇山小6年生	ふらの学2023	47人	麓郷小3・4年生	麓郷、冬の観光大作戦！	8人	山部小5・6年生	山部アピール大作戦！	11人	東小5年生	誰一人取り残さない富良野へ ～SDGsを学んで～	39人	8校		179人
	布部小中 小6・中1・2年生	富良野ブランドの秘密 ～富良野と仕事～	3人																													
	鳥沼小3・4年生	鳥沼じまん調査隊！	8人																													
	樹海学校5・6年生	樹海の防災 ～自分と大切な人の命を守るために～	6人																													
	富良野小6年生	富良野市の未来のために	57人																													
	扇山小6年生	ふらの学2023	47人																													
	麓郷小3・4年生	麓郷、冬の観光大作戦！	8人																													
山部小5・6年生	山部アピール大作戦！	11人																														
東小5年生	誰一人取り残さない富良野へ ～SDGsを学んで～	39人																														
8校		179人																														
※扇山小については、インフルエンザ流行による学校閉鎖の影響で不参加となった。 発表については、後日撮影し、富良野市公式YouTubeにて公開。 聴衆者／80人（学校関係者及び市議会議員、青年会議所、ライオンズクラブ等） 保護者向けにYouTubeによる視聴やラジオふらのでも12月18・19日に放送を行った。																																
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証																									
	達成度	A	A	A	A	A	○各学校における特色ある取組や学習内容、富良野市のまちづくりについて、子どもたちが自らの考えやアイデア等を発表し、表現する場となっている。 ○ラジオ放送やYoutubeでの配信を効果的に利用し、当日不参加となった学校の発表も視聴できるように、開催することができた。 ○一人1台のタブレットの効果もあり、児童自ら発表データを作り従来の形態によらない多様な発表の方法もできるようになった。																									
	効果度	A	A	A	A	A																										
今後取組	今 後 の 課 題																															
	○地域学校協働活動とリンクした取り組みとなるよう、学校や担当教員との密な説明や連絡体制の構築。 ○郷土への理解と愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開の継続。 ○Youtubeやラジオふらのを通し、子ども達のまちづくりに対する主張発表等を広く市民に発信する。 ○過去の発表を見ることができる仕組み作り。																															
	改 善 策																															
	○学校現場での学びの形態に合わせた発表環境の検討と、様々な角度からの多様な取り組みを推進する。 ○Googleドライブ等で過去のデータを共有し、市内教職員がいつでも閲覧できるようにする。																															

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	教育振興課																					
事務事業名	ふらのまちづくり未来ラボ推進事業																							
事業の 目的・概要	地域の各分野で活躍している大人と好奇心を持った子ども達が、ワークショップ学習や体験活動を通して、子ども達の情操教育と郷土愛を育み、次代を担う子ども達の人材育成を図り、多世代交流型の事業を展開する。	事業年度	開 始		終 了																			
			平成28年度																					
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5																	
			2,011	2,059	2,057	2,100	2,082																	
前年度の 課 題	○今後も民間のノウハウやアイデア、人脈を活用しながら、地域学校協働活動としての位置づけでも推進していく必要がある。 ○小中高の連携をより深めた事業展開を図っていく必要がある。 ○同志社女子大学など、富良野市外の多様な人材との連携を深めていく。																							
当該年度の 目 標	○地域の魅力の発見と自らが参画できる地域社会づくりの実践を通して、富良野で豊かな郷土愛を持つ人材を育てる。 ○行政との連携協力と、単発で終わらない継続した事業展開を図る。 ○多世代交流を推進し、多様な人材をつなげるツールとしてオンラインを効果的に活用した取り組みに努める。																							
事業の 実施状況	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">ワークショップ名（ワーキング含む）</th><th style="text-align: center;">実施回数</th><th style="text-align: center;">参加延人数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石・ひと・アート</td><td style="text-align: center;">21回</td><td style="text-align: center;">216人</td></tr> <tr> <td>コソコソプログラミング</td><td style="text-align: center;">20回</td><td style="text-align: center;">105人</td></tr> <tr> <td>美味しいを探そう</td><td style="text-align: center;">1回</td><td style="text-align: center;">24人</td></tr> <tr> <td>声録り・音録り～ラジオドラマ作り～</td><td style="text-align: center;">34回</td><td style="text-align: center;">11人</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">計 4WS</td><td style="text-align: center;">76回</td><td style="text-align: center;">356人</td></tr> </tbody> </table> 委託業務名 ふらのまちづくり未来ラボ推進事業 実施期間 令和5年4月1日～令和6年3月15日 受託者 一社）富良野デザイン会議暮らしステーション						ワークショップ名（ワーキング含む）	実施回数	参加延人数	石・ひと・アート	21回	216人	コソコソプログラミング	20回	105人	美味しいを探そう	1回	24人	声録り・音録り～ラジオドラマ作り～	34回	11人	計 4WS	76回	356人
ワークショップ名（ワーキング含む）	実施回数	参加延人数																						
石・ひと・アート	21回	216人																						
コソコソプログラミング	20回	105人																						
美味しいを探そう	1回	24人																						
声録り・音録り～ラジオドラマ作り～	34回	11人																						
計 4WS	76回	356人																						
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証																	
	達成度	B	B	A	A	A																		
	効果度	A	A	A	A	A																		
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						○家庭、学校、職場の関係や世代を超えた多くの出会いの場が確保され、誰もが対等な関係の中で「交ぜて学ぶ」多世代交流型の取り組みがなされた。 ○市民の新たなコミュニティの創出が期待され、多様な地域人材の育成と地域社会づくりへの参画が図られた。 ○北大学生など一部ではあるが交流を図りながらの活動をしている。																	
	○今後も民間のノウハウやアイデア、人脈を活用しながら、地域学校協働活動としての位置づけでも推進していく必要がある。 ○小中高の連携をより深めた事業展開を図っていく必要がある。 ○市外の大学など、多様な人材との連携を深めていく。																							
	改 善 策																							
	○行政と民間の連携協力を努めていく。 ○単発で終わらない、継続した事業展開を図る。 ○多様な人材をつなげるツールとしてオンラインを効果的に活用した取り組みに努める。 ○高校生や青年層との連携																							

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	教育振興課																																	
事務事業名	子ども会育成事業																																			
事業の目的・概要	異年齢集団である子ども会活動への参加奨励を図り、団体活動の基礎的知識や技術を学び、子ども会活動の活性化を図る。	事業年度	開 始		終 了																															
			昭和38年度		継続																															
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5																													
512	423		748	800	618																															
前年度の課題	○地域の教育資源を活かした様々な学習機会の充実。 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実。 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加促進。 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備。 ○全市子ども会だけでなく、単位子ども会を含めた子ども会組織の活性化や育成員の育成。 ○青少年サークル会員 (OB・OG)も含めた外部講師による指導。																																			
当該年度の目標	○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加促進。 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備。 ○地域の子ども会と連携し、富良野市青少年サークルのあそびの出前事業を行うなど、交流活動を通じて子ども会活動の活性化に繋げる。																																			
事業の実施状況	○富良野市子ども会育成連絡協議会 ・加盟単位数 15団体 ・会員数 312人(子ども会安全共済会加入者) ○子ども会事業 <table border="1"> <tr> <td>8月5～6日</td><td>リーダー研修会【前期】</td><td>84人</td><td colspan="3">小中54人・高9人・ボラ21人</td></tr> <tr> <td>1月8日</td><td>富良野市子ども会「かるた大会」</td><td>13人</td><td colspan="3">小中学生7人・富良野一声歌留多倶楽部6人</td></tr> <tr> <td>3月24日</td><td>富良野沿線子どもかるた交流会</td><td>67人</td><td colspan="3">小中学生30人・一般37人</td></tr> <tr> <td>3月26日～28日</td><td>リーダー研修会【後期】</td><td>91人</td><td colspan="3">小中66人・高10人・ボラ15人</td></tr> <tr> <td>随時</td><td>遊びの出前事業(随時)</td><td>1回</td><td colspan="3">地区子ども会等へ派遣</td></tr> </table>						8月5～6日	リーダー研修会【前期】	84人	小中54人・高9人・ボラ21人			1月8日	富良野市子ども会「かるた大会」	13人	小中学生7人・富良野一声歌留多倶楽部6人			3月24日	富良野沿線子どもかるた交流会	67人	小中学生30人・一般37人			3月26日～28日	リーダー研修会【後期】	91人	小中66人・高10人・ボラ15人			随時	遊びの出前事業(随時)	1回	地区子ども会等へ派遣		
	8月5～6日	リーダー研修会【前期】	84人	小中54人・高9人・ボラ21人																																
	1月8日	富良野市子ども会「かるた大会」	13人	小中学生7人・富良野一声歌留多倶楽部6人																																
	3月24日	富良野沿線子どもかるた交流会	67人	小中学生30人・一般37人																																
	3月26日～28日	リーダー研修会【後期】	91人	小中66人・高10人・ボラ15人																																
	随時	遊びの出前事業(随時)	1回	地区子ども会等へ派遣																																
	評価		R1	R2	R3	R4	R5																													
達成度		B	B	B	B	B																														
効果度		A	A	A	A	A																														
今後の取り組み	達成度・効果度の検証																																			
	○富良野市青少年サークル「ねーびる」の会員と育成員向け研修会の企画・開催やボランティア活動を行うなど、健全な青少年育成に繋ぐことができた。 ○子ども会リーダー研修会の参加者に実施するアンケートや保護者の声から、研修全体を通じて自分が成長したと感じる参加者が多く、また学校とは違った環境での集団活動として貴重な場となっている。																																			
	今 後 の 課 題 ○コロナ禍や子どもの減少により、子ども会育成連絡協議会への加入が困難な地区もある。今後は富良野市にある子ども会組織の見直しを図り、単位子ども会を含めた子ども会組織の活性化や育成員の育成などを進める必要がある。 ○青少年サークル会員の減少、またはコロナの影響による活動の機会の減少により、子どもたちとの接し方やレクリエーションの技術などの継承がされていないところがあるため、OBやOGを含めた外部講師による指導も引き続き検討して行く必要がある。 改 善 策 ○地域の単位子ども会や市内の各種イベント主催団体等と連携した行事や活動を実施する。 ○外部講師や地域人材による、青少年の研修機会の創出を検討。 ○富良野市青少年サークル活動の中でジュニアリーダーの参加も促し、青少年が活躍できる場所作りに努める。 ○子ども会の会員・事業への参加が増えるよう、PRの充実に努める。 ○会員募集時の活動内容表示を詳しく端的にまとめたものに替える。 ○コミュニティスクール単位で組織再編するなど、スポーツ少年団や学校部活動も全て取り込んだでの活動に移行するような手立てを考える。																																			

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	青少年表彰事業						
事業の目的・概要	青少年（個人、団体）を対象に、青少年活動、社会活動及び家庭生活等において他の模範となる者を表彰する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
63	54		0	59	42		
前年度の課題	○他の模範となる個人や団体の該当者を幅広く発掘し、推薦してもらう必要がある。 ○青少年団体をリードする人材育成を図る必要がある。						
当該年度の目標	○ふるさとの意識を高める青少年活動のリーダーの養成。						
事業の実施状況	○富良野市青少年表彰式 ・ 11月23日開催 複合庁舎文化会館会議室A B ・ 被表彰者 1 団体 1 個人 ・ 表彰規則 【個人】 概ね30歳までの青少年であって、次の各号に掲げる活動を3年以上実践している者。 【団体】 文化、教養、体育又は奉仕活動を目的として概ね30歳までの青少年で組織されている団体で、堅実な活動を常時又は定期的に3年以上継続して行い、それぞれの活動						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証 ○活動が顕著な青少年（個人）を表彰し、他の青少年の模範や励みとなっている。 ○次代を担うまちの人材育成に繋がっている。 ○地域の伝統等を継承するリーダー的な若い世代を表彰した。
	達成度	B	B	-	B	B	
	効果度	B	B	-	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○他の模範となる個人や団体の該当者を幅広く発掘し、推薦してもらう必要がある。 ○青少年団体をリードする人材育成を図る必要がある。 ○コロナ禍の制約活動もなくなり停滞していた活動が再開されることから次代を担う人材の育成を図る必要がある。 ○例年サンエーホールは他団体が使用するため複合庁舎文化会館会議室を表彰会場にしているが多方面から調整する必要がある。						
	改 善 策						
	○様々な機会や広報を通して、青少年表彰制度について広く市民に周知する。 ○各関係機関・団体及び町内会や市民に対して広く該当者の推薦を募ると共に活動実態を把握する。 ○該当者が不在の状況が継続する場合は、表彰内容の見直しも検討。 ○さらに早めに周知し該当者の推薦を募る。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	教育振興課					
事務事業名	青少年補導センター運営事業							
事業の目的・概要	青少年が心身ともに健康で調和のとれた発達ができるよう、市民や関係機関・団体との連携により、青少年の健全育成を主眼とした非行の未然防止に努める。 ◇補導員 市内小・中・高校の生徒指導担当教諭及び関係団体の推薦により教育委員会が委嘱。	事業年度	開 始		終 了			
			昭和50年度		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	162	132	R1	R2	R3	R4
162	132				109	130	156	
前年度の課題	○子ども達のたまり場となりやすい市内の商業施設や娯楽施設、公園等を重点的に月2回程度巡回するとともに、引き続き施設管理者や関係機関団体との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。 ○少年補導員連絡協議会や富良野警察署との連携。							
当該年度の目標	○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備							
事業の実施状況	○補導員数 31人 委嘱 ○街頭補導(富良野地区) ・富良野地区20回、山部地区0回 延従事者46人 結果:補導・呼びかけなし。 ○補導員会議(兼研修会) 6月8日・7月11日 ○広域補導(旭川地区広域補導連絡協議会) ・合同補導…①北海へそ祭り祭典補導 (7月28日) ②旭川市通常合同回補導 2回 ・旭川地区広域補導連絡協議会総会 (4月14日) ・旭川地区広域補導連絡協議会研修会 (9月26日)							
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B		○コロナが5類になり、通常通り街頭補導を実施できた。 ○商業施設や娯楽施設などと連携し協力頂きながら施設内においてもパトロールを実施。 ○1回あたり4名の街頭補導体制を継続。また使用車両にも街頭補導実施している旨を掲示し補導体制を充実させた。 ○補導員会議にて、「富良野市児童・生徒・校外生活指導基準」を修正。
	効果度	A	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題							
	○子ども達のたまり場となりやすい市内の商業施設や娯楽施設、公園等を重点的に月2回程度巡回するとともに、青少年の非行防止に努める必要がある。 ○関係機関や富良野警察署、学校・保護者との情報共有、連携の強化。							
	改 善 策							
○学校、家庭、関係機関団体、施設管理者等とのネットワーク化を推進し、定期的な情報交換や連携を密にしながら青少年の健全育成を推進する。 ○祭典補導については開催状況を確認しながら広域補導連絡協議会とも連携し実施する。 ○SNSなどネット情報の管理についての調査研究、ネットパトロールによる不適切事案への対応強化が必要。								

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	放課後子ども教室推進事業						
事業の 目的・概要	放課後の子ども達の安全、安心な居場所を設け、子ども達に文化・スポーツ活動等の体験を通じて、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。 ○平成20年度 山部小学校で新規開設 ○平成22年度 樹海小学校で新規開設 ○平成23年度 布礼別小学校で新規開設 (令和4年度末の閉校に伴い事業終了) ○平成25年度 布部小学校で新規開設 ○平成28年度 鳥沼小学校で新規開設	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
	6,991	7,327	8,200	8,337	7,104		
前年度の 課題	○特別支援や様々な児童に対応するコーディネーター、サポーターの研修及び情報共有の場の継続的に行う必要がある。 ○CSを含めた保護者以外の地域住民からの支援協力の意識の醸成を図る必要がある。						
当該年度の 目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実。 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実。 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加の促進。						
事業の 実施状況	○山部地区放課後子ども教室 ・登録児童数 32名 (R4年度/32名) ・開催日数 229 日 (R4年度/222日) ・延3,066名出席 (R4年度/4,083名) ・教育活動サポーター登録15名 ○布部地区放課後子ども教室 ・登録児童数 1名 (R4年度/3名) ・開催日数 49日 (R4年度/156日) ・延 49 名出席 (R4年度/352名) ・教育活動サポーター登録 3名 ○東山地区放課後子ども教室 ・登録児童数 22名 (R4年度/22名) ・開催日数 182日 (R4年度/185日) ・延 3,437名出席 (R4年度/3,682名) ・教育活動サポーター登録 12名 ○鳥沼地区放課後子ども教室 ・登録児童数 11名 (R4年度/14名) ・開催日数 194日 (R4年度/191日) ・延 1,427名出席 (R4年度/1,860名) ・教育活動サポーター登録 23名						
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	○新型コロナウイルスの5類移行後は、通常の生活に戻ったものの、インフルエンザの感染対策については継続し、児童の安全、安心な居場所づくりと心豊かで健やかに育まれる環境づくりに効果をあげている。 ○通常の活動以外に、体力向上プログラムや季節の行事、スポーツ交流など外部講師等を活用した活動に取り組むことができた。
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○特別支援や様々な児童に対応するコーディネーター、サポーターの研修及び情報共有の場の継続的に行う必要がある。 ○CSを含めた保護者以外の地域住民からの支援協力の意識の醸成を図る必要がある。						
	改 善 策						
	○保護者や地域の方を巻き込み、より参画しやすい事業展開の検討。 ○校区の人材以外にも広くスタッフを募り、広い意味での地域全体で子どもたちの居場所の確保を行っていく。 ○地域学校協働活動との連携。 ○文化交流活動、スポーツ等、様々な体験活動の企画・提供。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	教育振興課																																						
事務事業名	児童館・学童保育センター運営費																																								
事業の 目的・概要	すべての児童生徒が放課後を安全・安心に過ごす居場所を提供し、学習や体験活動等を通し次代を担う子どもの健やかな成長と社会で子育てを支える地域社会を推進する。 ○北の峰児童館（北の峰学童保育センター） ○緑町児童センター（緑町学童保育センター） ○麻町児童センター（麻町学童保育センター） ○桂木児童センター（桂木学童保育センター） ○東部児童センター（東部学童保育センター）	事業年度	開 始		終 了																																				
			昭和43年度		継続																																				
				事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5																																
			34,897	40,274	44,602	47,779	50,921																																		
前年度の 課 題	○全ての児童生徒が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動ができる居場所作りに努める。 ○児童福祉法に基づく放課後児童支援員の確保及び人材育成。 ○P C活用による事務作業の軽減を進める。 ○厚生員全体会議の在り方の検討。																																								
当該年度の 目 標	○放課後児童支援員と連携し、安全・安心な施設運営に努める。 ○児童福祉法に基づく放課後児童支援員の確保及び人材育成。 ○地域と連携し、行事や活動を通じて子どもたちが様々な体験ができるように努める。																																								
事業の 実施状況	○年間利用状況（自由来館＋登録児）																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th><th>R5</th><th>R4</th><th>R3</th><th>R2</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北の峰児童館</td><td>2,710</td><td>3,519</td><td>4,657</td><td>3,765</td></tr> <tr> <td>緑町児童センター</td><td>10,593</td><td>9,978</td><td>9,580</td><td>11,829</td></tr> <tr> <td>麻町児童センター</td><td>6,409</td><td>5,274</td><td>5,012</td><td>5,790</td></tr> <tr> <td>桂木児童センター</td><td>7,099</td><td>7,708</td><td>8,624</td><td>8,775</td></tr> <tr> <td>東部児童センター</td><td>3,738</td><td>3,722</td><td>3,888</td><td>3,425</td></tr> <tr> <td>5 館</td><td>30,549</td><td>30,201</td><td>31,761</td><td>33,584</td></tr> </tbody> </table>							施設名	R5	R4	R3	R2	北の峰児童館	2,710	3,519	4,657	3,765	緑町児童センター	10,593	9,978	9,580	11,829	麻町児童センター	6,409	5,274	5,012	5,790	桂木児童センター	7,099	7,708	8,624	8,775	東部児童センター	3,738	3,722	3,888	3,425	5 館	30,549	30,201	31,761
施設名	R5	R4	R3	R2																																					
北の峰児童館	2,710	3,519	4,657	3,765																																					
緑町児童センター	10,593	9,978	9,580	11,829																																					
麻町児童センター	6,409	5,274	5,012	5,790																																					
桂木児童センター	7,099	7,708	8,624	8,775																																					
東部児童センター	3,738	3,722	3,888	3,425																																					
5 館	30,549	30,201	31,761	33,584																																					
	○主な活動・季節的行事 ◎情操:紙芝居、読書、セル画等 ◎体力:一輪車、跳び箱、縄跳び、竹馬等 ◎娯楽:かるた、オセロ、トランプ、伝承遊び等 ◎社会:挨拶、身だしなみ、清掃等 ◎季節的行事…母・父・敬老の日プレゼント作り、七夕祭り、夏休み工作等																																								
		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証																																		
	達成度	B	B	A	A	A																																			
	効果度	A	A	A	A	A																																			
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題																																								
	○児童厚生員や補助員、関係者・保護者と連携し、情報交換の機会や研修機会の確保を引き続き図っていく。 ○児童福祉法に基づく放課後児童支援員の育成と確保。 ○特別支援児童との関わりと学校や関係機関等との連携。 ○地域との関わり・情報発信。																																								
	改 善 策																																								
	○各種課題解決と、安全・安心な施設運営ができるよう、児童厚生員及び関係者との連携を密にする。 ○引き続き研修機会を確保し児童厚生員の育成と人材の確保に努める。 ○地域（運営委員会）や子ども会などと連携し、イベント等の協力から地域との関わりを深める。また、まちこみメールを活用して、学童だよりなどを通じて連携した事業の情報発信に取り組む。																																								

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	地域学校協働活動事業						
事業の目的・概要	学校・家庭・地域社会の教育力を結びつけ、富良野市の教育の充実と活性化を目指す「学社融合」を積極的に推進し、ゆとりと潤いのある学習社会の実現を図るとともに、平成29年度より学校支援地域本部事業機能を取り込んで、地域の教育力を活性化するため地域全体で学校教育を支援しており、令和2年度からは「地域学校協働活動推進委員会」に改め、コーディネート機能の強化とコミュニティースクール等との連携を図り、多様で継続的な「地域学校協働活動」の実施を行う。	事業年度	開始	終了			
		事業費(決算) (単位:千円)	平成11年度 (学校支援は平成20年度～)		継続		
			R1	R2	R3	R4	R5
		312	212	267	260	400	
前年度の課題	○子どもたちの学びをサポートする地域学校協働本部事業の学校支援ボランティアへ、より多くの登録を推進する必要がある。 ○地域の教育資源をより一層の有効な活用と、いかなる時も学びを止めることが無いよう、C S・地域学校協働活動推進委員会との連携を図る必要がある。						
当該年度の目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実。 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備。 ○学習活動を支援するための情報提供や指導、相談体制の整備。						
事業の実施状況	○富良野市地域学校協働活動推進委員会 ・推進委員 24名委嘱 ・市内小中学校における実践事例 10校202事例 ・推進委員会開催 (5/25) ○地域学校協働活動研修会(講演会) 3月5日開催 46名 会場:会議室A/B 講演:「これからの地域スポーツを考える」 部活動の在り方検討支援アドバイザー NPO 法人幕別札幌内スポーツクラブ クラブマネージャー小田 新紀 (おだ あらき) 氏 グループワーク:『富良野の子どもたちのスポーツ環境をどのように確保していくか』 ○学校支援ボランティアの登録数 268名(男性81名、女性159名) ①家庭科補助3名 ②体育補助98名 ③読み聞かせ58名 ④農園手伝い4名 ⑤環境整備14名 ⑥自然科学・歴史1名 ⑦食育3名 ⑧パソコン2名 ⑨文学・文化6名 ⑩学校行事支援7名 ⑪登下校時等の安全指導24名 ⑫その他48名 ※希望分野が複数の登録者あり						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	○コーディネート機能の強化とC Sとの一体的な推進を図り、より幅広い地域住民の参画を得ながら、活動の場を広げ多様で継続的な「地域学校協働活動」の実施を図ってきた。
	効果度	A	A	A	A	A	○C S委員との合同の研修会によりたくさんの地域資源を学びの場に活かす取り組みに関する活発な意見交換が図られた。
今後取組の	今後の課題						
	○子どもたちの学びをサポートする地域学校協働本部事業の学校支援ボランティアへ、より多くの登録を推進する必要がある。 ○地域の教育資源をより一層の有効な活用と、いかなる時も学びを止めることが無いよう、C S・地域学校協働活動推進委員会との連携を図る必要がある。						
	改善策						
	○活動内容の広報活動を行うとともに、学校との情報交換等を行いながら学校支援ボランティアの発掘・養成を行いながら、登録分野の一層の活用促進と地域の教育資源の整備充実を図り、地域の教育力の一層の充実と生涯学習社会の実現を図る。 ○定期的な研修の機会と情報交換の場を作る。 ○他地域の実践事例などの情報の共有を図る。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	成人教育	担当課	教育振興課				
事務事業名	ふらの市民講座事業						
事業の目的・概要	○多様化する学習要求に対応した講座や社会的課題に関する教室等を開設する ○中央公民館、山部公民館、東山公民館の講座を連携して、「ふらの市民講座」として開設する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
		865	885	1107	1,471	1,449	
前年度の課題	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない市民生活の上で必要とされる現代的課題や地域・行政課題といった市民の必要課題についての学習機会の提供など、引き続き検討していく必要がある。 ○高齢者生きがい教室と勤労者教養講座はふれあいセンターで実施しているため民間の技術や利便性、効率性を生かした取り組みも必要。						
当該年度の目標	○現代的課題や地域課題などの解決に向けた学習機会の充実と提供。 ○高齢者生きがい教室と勤労者教養講座はふれあいセンターで実施しているため民間の技術や利便性、効率性を生かした取り組みを実施。						
事業の実施状況	○ふらの市民講座 29講座 全301回 延1,802名参加) 中央公民館 小中学生対象講座 2講座 全 16回 延 188名 成人対象講座 4講座 全 5回 延 51名 勤労者対象講座 7講座 全 77回 延 343名 女性対象講座 1講座 全 8回 延 92名 高齢者講座 9講座 全 181回 延1,779名 親子対象講座 2講座 全 2回 延 22名 自主企画講座 5講座 全 13回 延 162名 (自主企画講座のうち親子・家庭教育関係講座は抜粋して「親と子のふれあい事業」に掲載) 高齢者生きがい教室及び勤労者教養講座は業務委託により実施 委託業務: 高齢者生きがい教室・勤労者教養講座事業委託 実施期間: 令和5年4月5日～令和6年2月28日 受託者: 公益社団法人 富良野市シルバー人材センター						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない市民生活の上で必要とされる現代的課題や地域・行政課題といった市民の必要課題についての学習機会の提供など、引き続き検討していく必要がある。 ○高齢者生きがい教室と勤労者教養講座はふれあいセンターで実施しているため民間の技術や利便性、効率性を生かした取り組みも必要。						
	改 善 策						
	○市民の学習ニーズ及び現代的課題や地域課題を的確に把握し、関係部署・機関・団体等との連携をしながら、より豊かで多様性に富んだ講座を企画する。 ・現代的課題～社会生活を送る上での様々な課題の中で、特に現代に生きる市民として学んでおくべき課題。 ・地域課題～「まちづくり」、「家庭や地域の教育力」などに係る課題。 ○市民自ら学ぶ機会を創出する自主企画講座の更なる拡充。 ○生きがい教室と勤労者教養講座は民間の持つ情報や経験、ノウハウを生かした効率的な業務運営を行う。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高齢者教育	担当課	教育振興課・生涯学習センター				
事務事業名	ことぶき大学運営事業						
事業の目的・概要	○自らの健康に気を配り、喜びと生きがいのある人生観の確立と家庭及び社会における高齢者としての役割を認識して、これまでの豊富な経験と知識を社会に生かすとともに自らの生活向上に役立てる。 ○富良野校、山部校の2校が地域の実情に根ざした学習活動を展開している。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和47年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
		1,035	551	650	2,162	878	
前年度の課題	○新入生の確保に様々な取組を行っているが、入学生が減少傾向にあるので、引き続き学生の確保に努める必要がある。 ○近年、個々で趣味や軽スポーツ等に親しむ傾向にあることから、楽しく魅力ある大学作りに努めるとともに、在校生による勧誘宣伝できる環境づくりが必要。						
当該年度の目標	○高齢者自身が学びあえる自主的な学習活動の推進。 ○趣味、文化活動などのグループ、サークルの育成。 ○自主的に学習する意欲を高める学習環境の整備。 ○人生100年時代を見据えた「ことぶき大学」の対応。 ○ことぶき大学開校50周年記念事業の実施。						
事業の実施状況	○新型コロナウイルスが5類に変更したことにより、富良野校と山部校の合同授業や、4年ぶりとなる主張・研究・実践発表交流会、中富良野町・上富良野町との3市町芸能交流発表会などが再開された。(中富良野町) ○研修会についても、両校とも2回実施した。 富良野校 5月 道立旭川美術館 8月 エスコンフィールド北海道 山部校 5月 道立旭川美術館 9月 エスコンフィールド北海道 ○在籍者数 本科29名 大学院14名 研究科4名 単年登録 12名 計59名 ・富良野校～学習日数32日 本科18名 大学院 10名 研究科 2名 単年登録 15名 計45名 ・山部校 ～学習日数30日 本科15名 大学院 4名 研究科 1名 単年登録 0名 計20名						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	A	A	A	
達成度・効果度の検証							
○クラブ活動は狭い部屋を工夫しながら活動を行った。 ○活動方針、活動内容について自治会役員が自ら主導して決めたことから、自主性が高まった。 ○4年ぶりとなる3市町芸能交流発表会や主張・研究・実践発表交流会を実施することができた。							
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○高齢者の活動ということで、今後も感染対策を継続しつつ通常学習の開催と停滞している新規学生の確保が必要。 ○活動の方向性、内容などについて富良野校、山部校及び、沿線高齢者大学との情報交換による安全を第一とした活動を行うことが必要。 ○図書館での活動に対応した学習内容の検討が必要。 ○人生100年時代に向けた高齢者の学びと生きがいづくり、多世代交流を行うことが必要。						
	改 善 策						
○新規学生の募集は広報周知に加え、在学生の知友人紹介により入学しやすい雰囲気での募集を行う。 ○サンエーホールを使った合同学習や沿線との交流を工夫しながら取り組む。 ○学習やクラブでは交流室や打合せ室なども活用し活動しやすい方法を探る。 ○一生涯健康で学び活動できるため健康を重視した学びや生きがいづくりに向けた学習に取り組む。							

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	子育て支援	担当課	こども未来課				
事務事業名	ファミリー・サポート・センター事業						
事業の目的・概要	乳幼児や小学校低学年の児童のいる就労者等を会員として、児童の預かり等の援助を受けたい者(依頼会員)と当該援助を提供する者(提供会員)との相互援助活動を組織化し、連絡調整を行うことにより、地域における育児や子育ての相互援助活動を推進し、多様な子育てニーズに応える子育て支援対策の一環として実施する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成26年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R元	R2	R3	R4	R5
3,234	3,281		3,281	4,943	4,943		
前年度の課題	○会員相互の交流を深め、信頼関係の構築を行い、相互援助活動の推進を図る。 ○活動内容に関する広報活動を推進する。 ○会員の学習機会の充実を図る。						
当該年度の目標	○会員相互の交流を深め、信頼関係の構築を行い、相互援助活動の推進を図る。 ○活動内容に関する広報活動を推進する。 ○会員の学習機会の充実を図る。						
事業の実施状況	○ファミリーサポートセンターの事業内容 ①会員の募集、登録その他の会員組織の管理に関する業務 ・会員数【会員152名(依頼会員100名 提供会員36名 両方会員16名)】 ②会員相互の援助活動の調整等 ・相互援助活動数 554件 586名 幼稚園・保育所終了後の預かり15件16名 幼稚園・保育所までの送迎2件2名 放課後の習い事の送迎286件301名 学童保育終了後の預かり9件9名 冠婚葬祭・学校等行事の際の預かり35件38名 買い物等外出時の預かり92件101名 軽度の病後児の預かり0件0件 保育者の臨時の事由115件119名 ③提供会員養成講座 ・10/26, 31, ・11/2, 8, 9, 10, 14日の7日間 7日間計23時間 19名参加 内容:心の発達とその問題、子どもの栄養と食生活、子どもの遊び他 ④定期的な広報活動等の実施 ・ファミサポ通信の発行(4回)、パンフレットの配布、ポスター掲示 ⑤会員の交流会の開催 1回 ・夏祭り(7/30 29組60名) ・全体交流会(12/17 13組31名) ⑥公共施設を利用した広報活動 ・子育て支援センターにおいて、ファミサポコーディネーターが親子と交流し、ファミサポの利用方法などについて、広報活動を行った。						
評価		R元	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○会員同士の活動報告や意見交換の機会が必要である。 ○広報活動により、活動内容を広く周知する必要がある。 ○会員(提供会員・両方会員)の保育等、活動に係る資質向上への取り組みは継続的に必要である。 ○提供会員として活動する会員が限定されやすいという課題がある。						
	改 善 策						
	○広報活動の充実。 ○会員の資質向上のため研修会等の開催や、市の事業との連携により、子育て支援の充実に取り組む。 ○提供会員、両方会員の意見交換会、交流会の実施により、会員の活動意欲の向上を図る。 ○本年の研修受講者を含め提供会員の多くが、活動に参加できるよう意図した運営を行う。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	子育て支援	担当課	こども未来課					
事務事業名	子育て支援センター運営費							
事業の目的・概要	乳幼児とその保護者が相互に交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う。	事業年度	開 始		終 了			
			平成15年度		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	R元	R2	R3	R4	R5	
3,409	4,277		4,571	6,232	4,872			
前年度の課題	・子育て中の親子の交流促進や育児相談を行うとともに、情報提供等を適切に行う。 ・利用者ニーズに対応した各種事業の推進を行う。							
当該年度の目標	・まだ利用をしていない親子に、乳児検診等で声かけをして利用を促す。 ・親子が安心して過ごすことができる環境作りに努める。							
事業の実施状況	①ひよっこサロン(月10:00～11:30) 1H自由遊び+0.5H紙芝居・読み聞かせ・親子ふれあい遊び 0～2歳 1059名 ②ふれあい広場(火・金10:00～11:30) 1H自由遊び+0.5H保育士と親子で遊ぶ・製作等 0～2歳 登録制 1,263名 ③子育てサロン(月火水金13:30～16:00) 0～未就学児 親子で自由遊び1,549名 ④水曜開放(水10:00～11:30) 0～2歳 親子で自由遊び 1,321人 ⑤土曜開放(月1回土曜日10:00～11:30※10月以降月2回) 親子で自由遊び 0～2歳 175名 ⑥ふらのっこクラブ(第1・3木 10:00～11:15 2歳～未就学児) ゲーム遊び・ルールのある遊び 281名 ⑦ふれあい合同広場(第4木 10:00～11:15 0歳～未就学児) 運動遊び(身体をたくさん動かす) 255名 ⑧パパ広場(年4回 10:00～11:15) 父親と子どものふれあい 0～2歳 109名 (4回実施) ⑨子育て講座の開催 4回126名(ベビーマッサージ2回・おかねのはなし・小児歯科) ⑩地域幼児クラブへの支援(月1回10:30～11:30) 東山 12回71名(あおぞら・山部は休止中) ⑪子育て相談51件 (支援センター相談46件, 電話0件, 来所5件) ⑫絵本の貸出 377冊 ⑬子育て情報提供 ・情報誌発行6回 ・子育てガイドブック845冊配布 ・どさんこカード14部配布 ※①～⑤は、保健センター1階子育て支援センターで開催 ⑥～⑧は、スポーツセンターサブアリーナで開催							
評価		R元	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A	A		○子育てに係る情報や親子同士のふれあいの場を提供するとともに、育児への不安や悩みを気軽に相談できる場になっている。 ○パパ広場の開催や土曜開放の実施により、父親の育児参加を促進する場となっている。 ○少しずつ利用者(保護者)同士の会話や交流が広がってきている。
	効果度	A	A	A	A	A		
今後取り組み	今 後 の 課 題							
	○利用者のニーズを把握し、より利用しやすい施設運営を行う。 ○子育て相談が気軽に行える環境整備 ○子育てに関する情報の発信の効果を検証を継続する必要がある。							
	改 善 策							
	○引き続き、利用者ニーズの把握に努める。 ○利用者が続けて利用してもらえるようにプログラムの改善を行う ○子育ての孤立防止、育児ストレスの軽減、育児不安の軽減などの相談業務に重点を置き運営していく。							

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	子育て支援	担当課	こども未来課			
事務事業名	こども通園センター運営費					
事業の目的・概要	支援が必要なあるいは配慮が必要な就学前の児童に対して、発達支援、子育て支援を行っている。	事業年度	開 始		終 了	
			平成3年		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	R元	R2	R3	R4
			12,051	14,033	15,079	15,684
前年度の課題	○心身に障がい又は障がいの疑いのある児童に対し、障がいに応じた適正な療育を行う。					
当該年度の目標	○心身に障がい又は障がいの疑いのある児童に対し、日常生活における基本動作の指導及び集団生活への適応訓練を行い、当該児童の健全な育成を図る。					
事業の実施状況	○児童発達支援 ・心身の発達に心配のあるお子さんの相談や個別的・集団的療育を行い、発達を促すための援助や、保護者の子育てに対する支援を行う。 ・個別支援計画に基づき、遊びや生活動作を通して、心身の発達を促し、子どもが持っている力を発揮できるよう支援を行う。 ・母子(保護者同伴)通園形態を実施する。 ○構成職員 ・発達支援管理責任者1名、指導員8名(保育士5名(内会計年度任用職員4名)、作業療法士1名、言語聴覚士2名) ○療育形態:個別指導、集団指導 ○療育時間:指定された日時に保護者同伴で通所。1回の療育時間は1時間 月4回の療育指導を基本としている。 ○定員:1日10名 1週間50名 ○通園児の推移 R元(59人) R2(57人) R3(61人) R4(59人) R5(61人) ※年度末時点 ○乳幼児健診時の相談支援(3歳児健診) ○あそびの教室 ・発育・発達の問題や育児不安、養育上の問題・課題を有する親子に対して、親子で楽しく遊び子育ての相談ができる機会を設け、育児不安の解消、養育環境の改善を図り、子どもの健全な発達を支援する。1歳6カ月～3歳 4クール(1クール9回、毎週開催) 32組					
評価		R元	R2	R3	R4	R5
	達成度	B	B	B	B	B
	効果度	A	A	A	A	A
達成度・効果度の検証						
○通園児童の個別支援計画に基づき、専門職による適正な指導を行っている。 ○通所を希望する児童が増加しており、1週間50名の定員を超えた受入れに関しては、55人までは月4回の療育機会を確保し、更に増えた場合にも早期療育の機会を提供している。 ○市内の保育所・幼稚園の他、沿線(南富良野、占冠)の保育所に出向き、相談対応している。						
今後取り組み	今 後 の 課 題					
	○発達段階に応じた、きめ細やかで適正な療育継続が必要である。 ○民間児童発達支援施設、病院、学校との共有、連携が必要である。 ○自己評価及び利用者(保護者)による評価の実施と評価結果への対応 ○児童発達支援(療育)に対する理解の促進					
	改 善 策					
○保護者の相談や家庭での子育て支援を丁寧に行いながら療育を行う。 ○関係機関との定期的な情報交換を行い、連携強化を図る。 ○自己評価及び利用者(保護者)評価における課題の整理と、具体的な取り組みを計画する。 ○事業の内容や取り組みについて、広報等を検討する。 ○保育所・幼稚園訪問事業として、市内幼稚園、占冠、南富良野の保育施設への訪問指導を実施する。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	子育て支援	担当課	こども未来課																																						
事務事業名	へき地保育所運営費																																								
事業の 目的・概要	へき地における保育を必要とする幼児等の児童の福祉の増進を図るため、へき地保育所を設置し運営する。	事業年度	開 始		終 了																																				
			昭和41年		継続																																				
		事業費(決算) (単位:千円)	R元	R2	R3	R4	R5																																		
21,038	26,878		21,529	20,915	25,272																																				
前年度の 課題	「富良野市立保育所全体的な計画（保育課程）」に掲げる保育理念、保育方針、保育目標を踏まえた適正な保育活動を推進する。																																								
当該年度の 目標	○地域の保育・教育施設として、「富良野市立保育所全体的な計画（保育課程）」に掲げる保育理念、保育方針、保育目標を踏まえた適切な保育活動を推進する。 ○幼児教育を行う施設として、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を意識した保育を推進する。																																								
事業の 実施状況	<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td></td><td>山部保育所</td><td>東山保育所</td><td>あおぞら保育所</td><td></td></tr> <tr> <td>定員</td><td>50名</td><td>30名</td><td>30名</td><td></td></tr> <tr> <td>入所者数</td><td>18名</td><td>8名</td><td>11名</td><td></td></tr> <tr> <td>対象年齢</td><td>満2歳（4/1現在） ～5歳児</td><td>満2歳～5歳児</td><td>満2歳～5歳児</td><td></td></tr> <tr> <td>保育時間</td><td>8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:30迄延長保育（4～10月） ※17:00迄延長保育（11～3月）</td><td>8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:00迄延長保育</td><td>8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:00迄延長保育</td><td></td></tr> <tr> <td>給食</td><td>無／おやつ有</td><td>無／おやつ有</td><td>無／おやつ有</td><td></td></tr> <tr> <td>保育形態</td><td>統合・混合保育</td><td>統合・混合保育</td><td>統合・混合保育</td><td></td></tr> </table> R6. 3. 1 ・運動会（幼小中：東山、あおぞら 幼小：山部）・発表会・合同行事（交流会・観劇等） ・幼児クラブとの交流（東山）							山部保育所	東山保育所	あおぞら保育所		定員	50名	30名	30名		入所者数	18名	8名	11名		対象年齢	満2歳（4/1現在） ～5歳児	満2歳～5歳児	満2歳～5歳児		保育時間	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:30迄延長保育（4～10月） ※17:00迄延長保育（11～3月）	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:00迄延長保育	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:00迄延長保育		給食	無／おやつ有	無／おやつ有	無／おやつ有		保育形態	統合・混合保育	統合・混合保育	統合・混合保育	
	山部保育所	東山保育所	あおぞら保育所																																						
定員	50名	30名	30名																																						
入所者数	18名	8名	11名																																						
対象年齢	満2歳（4/1現在） ～5歳児	満2歳～5歳児	満2歳～5歳児																																						
保育時間	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:30迄延長保育（4～10月） ※17:00迄延長保育（11～3月）	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:00迄延長保育	8:30～15:30 ※満2歳～5歳児 ※17:00迄延長保育																																						
給食	無／おやつ有	無／おやつ有	無／おやつ有																																						
保育形態	統合・混合保育	統合・混合保育	統合・混合保育																																						
評価		R元	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証																																		
	達成度	B	B	B	A	A																																			
	効果度	A	A	A	A	A																																			
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題																																								
	○職員の質の向上（保育家庭の理解、保育内容の充実）に継続的に取り組む。 ○地域や教育・保育施設等との連携による保育事業の充実を図る。 ○地域の子育て支援の一環として、就学前の児童を持つ家庭への支援を行う。 ○引き続き、保育所の運営に関するニーズの把握に努める。																																								
	改 善 策																																								
	○市立保育所全体での研修、オンライン研修を継続し、保育士全体のスキルアップを図る。 ○「富良野市立保育所全体的な計画（保育課程）」に基づいた適切な保育活動を推進する。 ○地域の学校や団体に協力を得て、経験を通じた保育の充実に努める。 ○地域の子育て支援の基点として、保護者や地域と交流を図る。																																								

Ⅲ 令和5年度教育委員会事務事業点検・評価

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	虹いろ保育所	担当課	虹いろ保育所				
事務事業名	認可保育所運営費						
事業の目的・概要	児童福祉法及び保育所保育指針を基本とし、保育を必要とする乳児・幼児の「最善の利益」を保障する保育を適正に行い、児童福祉ならびに幼児教育の向上を図るため認可保育所を設置し運営する。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和41年		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
62,483	66,230		77,150	80,685	82,697		
前年度の課題	○保育所保育指針ならびに「全体的な計画」に基づき、保育を必要とする乳児・幼児の健康と安全を保障した保育の推進を図るとともに、多様な就労形態に対応する保育サービスの拡大に努め保育所待機児の解消を図る。						
当該年度の目標	○「富良野市立保育所全体的な計画」に基づいた適切な保育の推進を図る。 ○多様化する保育ニーズの把握に努め、養護及び教育の一体化した保育の推進。 ○幼児教育施設として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育運営全体を通して幼児の資質・能力を育む保育活動の推進。 ○幼児教育施設としての相談機能の充実を図り虐待の早期発見、未然防止及び家庭教育・子育て支援の推進						
事業の実施状況	①子育てと仕事の両立支援 保育時間 7時30分～18時30分 11時間保育 対象年齢 満6ヶ月から就学前まで 入所定員 156名 入所児童数 140名(令和6年3月31日) のべ保育人数 29,168人 (最大入所数) 0歳児～12名 1歳児～26名 2歳児～24名 3歳児～27名 4歳児～27名 5歳児～24名 ②一時保育事業～ 保護者の疾病や出産等により緊急に保育が必要とする児童に対する一時的保育事業。 利用世帯～1世帯 ③特別支援保育～ 保育の必要性があり、かつ心身に障がい有する児童を集団保育及び個別保育を行う。 特別な支援を要する児童 18名 1対1の加配保育士を必要とする児童 3名 加配保育士 5名 ④世代間交流 ～ 市内高齢者との交流の為年2回訪問及び保育所来所にて交流を図る。 ⑤保育所開放事業～園庭開放及び園行事への参加型開放 4回開設 4回利用者あり 利用児童数 9組 新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、給食提供は中止。 *世代間交流及び園開放については新型コロナウイルス感染の影響により、取組について検討を行った。						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取組のめ	今 後 の 課 題						
	○家庭の実態や保護者ニーズの把握を行い適正な保育運営の推進。 ○保育指針に基づいた保育の質の向上及び幼児教育施設としての機能向上。 ○全体的な計画に基づいた、「養護」と「教育」の一体化した幼児教育活動の充実。 ○地域に開かれた子育て支援活動の推進と連携。 ○待機解消に向けた保育運営の推進。 ○小学校教育への円滑な接続を図る。 ○保育システム「コドモン」の活用推進を図り、利用者とのコミュニケーションの充実。						
	改 善 策						
	○保育指針の趣旨及び内容の理解を深め様々な幼児教育活動の充実を図る ○保育の質向上のための研修体系の整備と研修内容の充実を図る ○児童福祉施設における児童の安全確保を図る為、安全管理・危機管理マニュアルを遵守した保育活動の推進。 ○保育所保育の専門性を生かした子育て支援(保育所開放・子育てコラム)の活動内容の充実と広報活動の拡充。 ○保育システム「コドモン」の機能活用周知を図り、保護者の利便性の向上ならびに保育の質向上を図る。 ○関係機関との連携を行い、家庭教育を通じた乳幼児期からの子育て支援の充実を図る。 ○小学校教育と幼児教育施設との「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有、推進を図る。 ○待機児解消に向けた人員配置配置基準、面積基準等、国を上回る基準を活用しての児童の受け入れの推進を図る。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	虹いろ保育所	担当課	虹いろ保育所				
事務事業名	特別支援保育事業費						
事業の目的・概要	○保育の必要性があり、特別な支援を有する児童に対し、必要な保育を行うことにより、心身の成長を促すとともに、社会生活に必要な基礎能力を養い、支援を必要とする児童の福祉の増進を図ることを目的とする。	事業年度	開 始			終 了	
			平成15年			継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
10,435	11,100		9,586	10,708	10,645		
前年度の課題	○特別な支援を必要とする児童の健全な社会性の発達を促進するため、適正な環境の下で他の児童と生活を通してともに成長できる保育を実施し、保育の特別支援保育の増進を図る必要性がある。 ○発達が気になる児童の入所が増加し加配保育士の育成・確保に課題がある。 ○就学期児童の関係機関との情報共有及び連携を図る。						
当該年度の目標	○特別な支援を必要とする児童の特性を十分に配慮した集団保育の提供を行う。 ○必要に応じて担当保育士の配置を行い、他の児童との集団生活の中での事故防止等の安全確保を行い児童の成長・発達の促進の支援を図る。 ○児童発達センター、なかよし教室との連携を図り、個別に対応した指導計画の作成。 ○就学児を対象とした小学校との連携を図る。						
事業の実施状況	○配慮・支援を必要とする児童の個々の成長発達に応じた保育環境及び適切な保育士の配置を行い児童の成長発達を促す保育体制の促進。 対象児童数 令和5年度 18名 加配保育士必要児童 8名 加配保育士 5名 ○個別支援計画の作成およびサービス担当者会議にて児童の情報共有。 ○特別支援連携協議会に出席し小学校との連携を図る。 ○就学期の児童の保育所保育要録の作成及び各小学校への送付。						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○特別な支援を必要とする児童の健全な社会性の発達を促進及び特別支援保育の推進。 ○保育者の特別な支援保育に関する知識、技能等研修機会や研修内容の充実。 ○児童発達支援センター等、関係機関との連携の強化。 ○就学期児童の関係機関との情報共有及び連携の強化。						
	改 善 策						
○特別な支援保育を必要とする児童の幼児教育的ニーズの把握を行う。 ○保護者及び関係機関との情報共有や連携の強化し指導や支援の充実を図る。 ○教育・保育の質の充実を図り、特別支援保育に取り組む体制の構築及び、所内外への計画的な研修を図る。 ○「個別支援計画」等作成・活用を図り、保護者、関係機関との情報共有と連携の強化を図る。							

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化財保護	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	文化財保護啓蒙・普及活動						
事業の目的・概要	○本市文化財の調査研究ならびに、文化財保護のための普及・啓発活動を推進する。 ○郷土に伝承された民俗芸能を保護し、その活動の奨励に努める。 ○民俗芸能の活動拠点施設の効果的運用を図る。	事業年度	開始	終了			
			昭和43年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
		2,084	1,266	2,105	2,112	3,786	
前年度の課題	○郷土芸能保存団体の伝承活動と後継者育成に対する支援の継続。 ○郷土芸能伝習館の計画的な施設整備。 ○市民の財産である文化財の保存・継承・活用の推進。						
当該年度の目標	○郷土芸能保存団体会員の確保と後継者の育成。 ○団体の活動状況を当センターホームページや広報等で随時情報発信し、活動を支援する。 ○富良野市文化財保護審議会で議論された事業計画に基づいて、未指定文化財の学術的な調査を進める。 ○文化財調査の成果と学術的な価値を市民に広く伝え共有するため、見学会等の普及事業を開催する。						
事業の実施状況	○富良野市文化財保護審議会の開催 審議委員5名委嘱。6月2日、9月14日、11月24日の3回開催。 ○国の登録有形文化財登録 令和6年3月6日付 島田家住宅主屋が国の文化財登録原簿に登録 *富良野地方では初の登録有形文化財登録 ○文化財見学会 「"米どころ"富良野の歴史遺産をさぐる」9/9 参加者9名 「ふらの文化財めぐり～ふらの狍犬散歩」9/30 参加者14名 ○文化財収集資料の公開展示 ミニ展示「知ろう、語ろう、昔のどうぐ」9/30-10/18 生涯学習センターロビー展示 ○埋蔵文化財保護のための事前協議等。 工事立会調査1件(三の山地区)、事前協議1件、建設工事等に関わる問合せ6件 ○市指定文化財の保護とパトロール 「富良野獅子舞」「北海道中央経緯度観測標」 「北海道大学第八農場富良野成壘記念碑」「北海道大学第八農場山部成壘記念碑」 ○郷土芸能保存団体の活動支援 市費補助金の交付。 富良野獅子舞保存会173千円、富良野彌栄太鼓保存会344千円、山部獅子舞保存会 72千円 ○郷土芸能伝習館の効果的活用(指定管理期間:令和3年4月1日～令和8年3月31日) 指定管理者である富良野市郷土芸能伝習館運営委員会による円滑、効果的な管理運営 ○蒸気機関車D51フラヌイ号16年ぶりの塗装工事(2,255千円)、維持管理(委託料748千円)。						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	A	A	B	
	効果度	B	B	A	A	B	
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○郷土芸能保存団体の伝承活動と後継者育成に対する支援の継続。 ○郷土芸能伝習館の計画的な施設整備。 ○市民の財産である文化財の登録指定の検討と保存・継承・活用の推進。						
	改 善 策						
	○郷土芸能保存団体会員の確保と後継者の育成。 ・団体の要望聞き取りを行うなど連携を深め、活動を支援する。 ・団体の活動状況を生涯学習センターホームページや広報等で随時情報発信する。 ○郷土芸能伝習館の施設整備を行い、利用団体の円滑な活動を推進する。 ○文化財保護審議会や北海道建築士会富良野支部等の関係団体と連携しながら、文化財の調査研究に努めるとともに、登録・指定等によりその評価を高め、まちづくりへの活用も視野に入れた適切な保存・活用策を推進する。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター					
事務事業名	博物館活動推進事業							
事業の 目的・概要	本市の自然、歴史、文化についての調査研究、資料の収集展示保存、啓蒙普及等の博物館活動を推進する。	事業年度	開 始		終 了			
			昭和43年度		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5	
1,094	987		1,049	1,079	1,066			
前年度の 課 題	○郷土の自然や文化財への理解と関心の拡大 ○博物館への関心の拡大と利用促進 ○美術を日常的に親しむ場の提供と関心の向上							
当該年度の 目 標	○自然史や郷土史の研究団体等との連携協力を深め、調査研究活動を継続して実施する。 ○博物館事業への協力者やボランティアの発掘に努める。							
事業の 実施状況	○特別展・企画展 ・第44回特別展「富良野盆地の開拓と山手幹線用水路」7/22-9/19 2,123人 ・2023 COLLECTION GALLERY 4/1-5/14 876人 ・企画展「知ろう、語ろう、昔のどうぐ」9/30-10/15 537人 ※文化財保護啓蒙・普及活動にも記載 ○講座 ・「〴〵米どころ〴〵富良野の歴史遺産をさぐる」9/9 9名 ※文化財保護啓蒙・普及活動にも記載 ・「ふらの文化財めぐり～富良野狍犬散歩」9/30 14名 ※文化財保護啓蒙・普及活動にも記載 ・特別展ギャラリートーク 8/19 12人／昔のどうぐ・座談会（企画展関連講座）10/14 7人 ・蒸気機関車フラヌイ号塗装体験会 8/5 10人 ・工作ワークショップ「お正月飾りづくり」12/16 17人 ・美術ワークショップ「アートを楽しもう！～木彫熊を描く～」11/3 11人 ○講師依頼・学校指導 13件 ○博物館団体見学 23件 ○問合せ対応 7件・資料貸出 4件・画像資料等提供 6件 ○発行物「富良野市博物館報告」第5号 ○寄贈資料受入20件							
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A	B		○郷土の自然、歴史、文化を理解する機会を提供することで、郷土意識の高揚につながっている。とりわけ今年度の特別展では泥炭地の農地開発の歴史を紹介することで、市民に現在の富良野の豊かさの基盤を知ってもらうことができた。
	効果度	A	A	A	A	B		○旧市庁舎・文化会館の閉館に伴い、収蔵した資料を中心に美術展を開催し、美術に親しむ機会を提供した。 ○寄贈資料の登録を随時進め、常設展示室のトピック的な展示などに頻繁に活用し、展示の教育普及効果を高めている。
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題							
	○郷土の自然や文化財への理解と関心の拡大 ○SNS、ウェブサイト閲覧数の増加 ○美術を日常的に親しむ場の提供と関心の向上 ○外国人を含む観光客への当館の認知度を高め、観光客が富良野地域の自然や文化財の価値を認識することで、より観光を楽しめるよう働きかける。							
	改 善 策							
○郷土の自然や文化財を調査研究し、展示や講座で調査研究の成果や収蔵資料を活用して教育普及に努める。 ○『富良野市博物館報告』を継続して発行し、市民の調査研究活動の知見の公開、蓄積を図る。 ○美術系の講座やアートギャラリー展示を継続して定期的に取り組み、より多くの市民が身近に美術の楽しさを感じることができるよう、外部講師等の協力を得て多様な事業を企画する。 ○博物館の知名度を上げ、外国人を含む観光客に広く利用してもらうため、ウェブサイトの充実などの情報発信を強化する。								

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	自然体験・環境学習事業						
事業の目的・概要	○自然や環境への理解を深める取組を推進する。 ○自然体験学習や森林を活用した事業を実施する。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和51年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
博物館活動推進事業に包含							
前年度の課題	○身近な自然に対する市民の興味や関心の喚起 ○若年層の参加を促進し、壮年層なども敷居を感じず参加できるような展示・講座の企画。 ○一般市民向けの自然観察会における案内人の育成と充実。						
当該年度の目標	○市民参加型の自然体験活動をととして、自然に興味関心を寄せる人材の発掘と育成に努める。 ○地域の自然環境の変化を知り、将来的な保全と活用を図るために、身近な自然について調査活動を継続的にを行い、今後の普及活動につなげていく。具体的には、「鳥沼公園の乾燥化対策」「外来種の侵入状況の情報収集（オオハングソンウ・アズマヒキガエル）」を進める。						
事業の実施状況	○自然観察会「富良野の自然に親しむ会」全5回 延べ88人 ○自然観察会「朝活！博物館講座」5/24 10人 ○自然観察会「変形菌探し」8/12 25人 ○講師依頼・学校指導（自然環境に関わる学習）8件 （※博物館活動推進事業に記載した「講師依頼・学校指導」にも包含している） ○太陽の里ホテルの里づくり事業 ヘイケボタル生息数調査・自然観察会 ○自然環境保全活動 ・外来種対策事業「プロジェクトO（オハゴソウ）」（外来植物の抜き取りなど）全2回 29人 ・山川草木を育てる集い植樹祭（清水山） ・鳥沼公園環境調査（定点撮影・地下水位調査） ○遊々の森「太陽の里ふれあいの森」自然観察コースの活用・整備（上川南部森林管理署との協定） ○神社山自然観察路一般公開の共催（東京大学北海道演習林との交流に関する協定） ・森林学習サポーターによる案内の協力						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	B	
	効果度	A	A	A	A	B	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○身近な自然に対する市民の興味や関心を喚起し、湿地の乾燥化や外来種の侵入・拡大といった環境保全上の課題の認識を高める。 ○幅広い世代が興味・関心を持てる展示・講座の企画と宣伝の工夫。						
	改 善 策						
	○市民が身近な自然の価値について、楽しみながら再認識できるような自然体験企画の実施。 ○身近な自然に関する調査研究活動を継続し、保全と活用のための情報を蓄積すると共に、自然体験活動と保全活動を関係機関と連携、市民の参加協力も得ながら推進する。 ○学校や地域等での出前講座を希望に応じて実施し、富良野の自然に対する関心と理解を深める。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	森林環境教育	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	ふらの森の教室推進事業						
事業の目的・概要	○東京大学北海道演習林の恵まれた森林資源を活用し市内小中学生を対象に森林環境教育を推進する。 ○森林学習プログラムの構築と森林ガイドの発掘・育成を東大演習林の監修の下、北海道教育大学旭川校の協力を得て行う。 ※森林環境譲与税を活用(初年度)	事業年度	開 始		終 了		
			平成27年度		継続		
		事業費(決算)(単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
	3,704	3,336	4,267	3,869	4,726		
前年度の課題	○森林学習サポーターの定着とスキルアップ、機会の充実 ○フィールドの特徴を生かした学習内容のブラッシュアップ ○サポーターによる主体的な活動の実践						
当該年度の目標	○令和5年度は7校(全8回)でプログラムを実践する。 ○関係者と連携協力し、プログラムの向上、サポーターのスキルアップ、安全管理の徹底を図る。 ○『ふらの木の図鑑』を活用したプログラムの展開 ○教職員との意見交換を踏まえた各校オリジナルのプログラムづくり ○認定サポーターによるチーム活動の展開(プログラム、スキルアップ、野生動物調査、広報)						
事業の実施状況	○プログラムの開発 ・東大演習林、道教育大学旭川校、学識経験者等の協力のもとプログラムを作成し、実践をととして改善を加える ○プログラムの実践 7校 延164名参加 サポーター等延64名参加 ・扇山小学校3年生 6/13, 16 31名 ・富良野小学校4年生6/20, 23 57名 ・東小学校3年生6/27, 6/30 33名 ・樹海学校3・4年生 7/11, 14, 10/3, 6 9名 ・麓郷小学校5・6年生 8/22, 25 9名 ・山部小学校3・4年生 8/29, 9/1 11名 ・樹海学校7・8年生 9/26 5名 ○森林学習サポーター認定研修 ・4/27, 5/25, 6/1の計3日間開催 認定試験10/27実施 2名認定 ・その他研修会やサポーターの集い 5/11, 5/24, 10/12, 11/25, 1/19の計5回開催 ○東大演習林大麓山ハイキング登山会 7/8 一般参加者25名参加 *サポーター5名協力 ○東大演習林神社山一般公開 10/7 一般参加者15名参加 *サポーター2名協力 ○森林学習サポーターグループ活動の始動 ①プログラムチーム5回(4/13, 4/27, 5/20, 7/20, 7/28) ②スキルアップチーム7回(4/14, 4/25, 5/24, 6/8, 6/9, 6/10, 10/12) ③野生動物調査チーム17回(4/11, 4/28, 5/11, 5/26, 6/8, 6/29, 7/19, 8/9, 8/31, 9/14, 9/22, 10/13, 10/27, 11/17, 11/22, 3/21, 3/22)、④広報チーム2回(4/4, 4/26) ○第5回森林学習プログラム運営協議会 2/28 20名参加 ○フィールドの環境整備(危険木調査・処理:東大演習林による指導、歩道草刈り、簡易トイレ設置)						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	
	達成度	B	B	A	A	B	
	効果度	B	B	A	A	B	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○各学校と協議・連携して、各校のねらいに応じたプログラム運営ができた。 ○東大演習林神社山の特徴を学び、森林・林業・木材をテーマにした小学高学年対象の学習内容を整理した。 ○研修参加の2名が森林学習サポーターとして認定され、サポーター累計29名に増加。 ○サポーターの主体的な活動のためのグループ活動を立ち上げ、4グループで始動した。またサポーターの発案による研修会を開催した。						
	今 後 の 課 題 ○プログラム構成など内容の充実化 ○子どもたちの活動を充実させるための体制の充実化 ○森林学習サポーターの定着とスキルアップ、またその機会の充実 ○中学生向けプログラムの学習内容の整理とブラッシュアップ ○サポーターによる主体的な活動の実践						
今後取り組み	改 善 策						
	○関係機関等と連携協力したプログラムの充実化。 ○運営協議会により関係者相互の認識と情報の共有を推進する。 ○森林学習サポーター認定者の増加を図るとともに、スキルアップと意欲を継続させるための機会を設ける。 ○教職員やサポーターと意見交換を行いながら、プログラムの内容を精査するとともに、活動後にも学習成果を活用して理解を深められるよう教職員と情報共有を図る。 ○サポーターグループ活動の定着						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書館運営管理事業						
事業の目的・概要	【目的】 図書館の維持管理と市民に対する読書活動等を通じた生涯学習の場の提供。 【概要】 ○図書館の運営。 ○図書館利用者団体等への施設貸出。 ○図書館利用促進のためのイベント主催。 ○インターネット利用端末の設置。 ○図書館情報の提供。	事業年度	開始	終了			
			昭和47年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
		24,457	30,571	27,641	27,648	28,004	
前年度の課題	○図書館利用者団体、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携 ○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営。 ○図書館に足を運ぶことが困難な市民への対応。						
当該年度の目標	○図書館利用者団体及び読書推進ボランティアの活動状況について、館内掲示やチラシ、図書館ホームページ、ラジオ広報等を活用して、地域住民への情報提供を行う。 ○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。 ○窓口業務の省力化とともにサービスの向上を検討する。						
事業の実施状況	○図書館の運営 開館日数：281日 利用登録人数：18,199名 貸出人数：21,634名 貸出冊数：113,939冊 図書館来場者の貸出人数及び冊数共に前年度より減少したボランティア登録人数305名 ○利用状況 多目的ホール及びサークル室：178回延1,557名 ○図書館1階多目的トイレ及び男女便所ウォシュレット設置 292,820円 ○いきいきサポートボックス（2施設）50冊×2施設＝計100冊 寿光園、グループハウスかえで						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証 ○4年ぶりに図書館まつりを本格開催でき、利用者団体と読書推進ボランティアの連携が図られた。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今後の課題 ○図書館利用者団体、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携活動の情報発信。 ○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営。 ○利用者サービスのさらなる向上のため、各種検討。 ○図書館機能の他、新庁舎開庁後の社会教育施設としての機能充実。						
	改善策 ○図書館利用者団体及び読書推進ボランティアの活動状況について、館内掲示やチラシ、図書館ホームページ、ラジオ広報等を活用して、地域住民への情報提供を行う。 ○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。 ○図書館業務の省力化とともに多様なサービスの在り方を検討する。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書資料整備事業						
事業の 目的・概要	【目的】 地域住民の生涯学習の基礎となる図書資料の収集・提供。 【概要】 ○社会情勢・利用者ニーズ・地域特性に対応した新刊書・新聞雑誌等の選択と収集。 ○視聴覚ライブラリー資料の収集。 （富良野地区広域教育圏振興協議会）	事業年度	開 始		終 了		
			昭和47年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
			5,704	5,658	5,914	5,914	5,720
前年度の課題	○図書資料の適切な更新と除籍。 ○他町村図書館との連携強化。 ○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理。						
当該年度の目標	○利用者のニーズに的確に応えるため、統計データの的確な検証と分析効果を図る。 ○録音図書や大活字本など、高齢者や障がい者に対応した図書資料の整備を進める。						
事業の実施状況	○登録購入書籍：一般書1,714冊、児童書1,181冊、雑誌986冊、漫画212冊 合計4,093冊 ○除籍数：16,467冊 ○利用者の学習及び調査研究のための参考図書や専門的資料の収集 ○地域の郷土資料及び行政資料の収集による、地域の特色ある知的財産の蓄積 ○北海道新聞データベースの提供 ○視聴覚ライブラリー：DVDソフト26本購入（富良野地区広域教育圏振興協議会） ○録音図書：所蔵数570本、大活字本：所蔵795冊						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証 ○社会情勢・利用者ニーズを把握し、様々な図書情報を活用する中で、適切に新刊書を選択と収集を行っている。 ○録音図書や北海道新聞データベースの閲覧サービスなど、図書以外のサービス提供も行っている。 ○除籍処理の推進と適正管理の実施。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題 ○魅力ある図書資料構成の維持 ○他町村図書館との連携強化 ○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理 ○利用媒体の変化、時代の変化にともなう視聴覚ライブラリー資料の見直し検討						
	改 善 策						
	○利用者のニーズに的確に応えるため、統計データの的確な検証と分析効果を図る。 ○新刊書を含めた蔵書の利用者ニーズの把握に努め、図書資料の整備を進める。						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	読書活動推進事業						
事業の目的・概要	【目的】 市民の生涯学習の基礎となる図書資料及び図書情報の提供 【概要】 ○図書資料情報の多面的な提供と積極的な貸出 ○相互貸借システムの活用による他図書館との連携貸出	事業年度	開始	終了			
			昭和47年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
		—	—	—	—	—	
前年度の課題	○インターネット等の様々な媒体を活用した利用者ニーズの把握と図書資料の情報提供						
当該年度の目標	○インターネット等の様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 ○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。						
事業の実施状況	○インターネット図書検索システム、館内テーマ展示、図書館だより、広報紙等による情報提供 ○リクエスト数：1,970冊（自館窓口1,224冊＋自館端末23冊＋インターネット389冊＋他館借受334冊） ○相互貸借：他図書館からの借受334冊 他図書館への貸出651冊						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証 ○利用登録者数は17,492人と増加し、市民一人当たりの貸出冊数も5.61冊と増加傾向にある。(学校図書・相互貸借分を含む) ○リクエスト数は減少したが、より市民ニーズに合わせた図書購入ができた ○「どくしょのきろく」発行332件41,459行の利用
	達成度	A	A	B	B	A	
	効果度	A	A	B	A	A	
今後取り組み	今後の課題 ○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。						
	改善策 ○インターネット等の様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 ○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。 ○読書活動推進につながる新たな施策の検討						

令和5年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	子どもの読書推進事業						
事業の目的・概要	【目的】 すべての子どもたちが読書に親しみ、いつでもどこでも読書できる環境づくり 【概要】 ○ブックスタート（乳児7ヶ月相談時） えほん8冊の中から2冊プレゼント ○ブックスタートプラス（1歳6か月） えほん5冊の中から1冊プレゼント ○各種おはなし会 ○学校図書館支援	事業年度	開 始	終 了			
			昭和47年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
		877	813	762	762	669	
前年度の課題	○「子どもの読書推進プラン【第3次計画】」の推進。 ・家庭における読書活動の推進 ・地域・図書館における読書活動の推進 ・学校図書館への支援						
当該年度の目標	○ブックスタートやブックスタートプラスなど、家庭における読書活動の推進事業を継続する。 ○新たな子どもの読書推進サービスの継続を行う。 ○学校図書館環境の向上に向けた活動を継続する。 ○学校司書との連携を強化し、サポート体制を構築し読書推進を図る。						
事業の実施状況	○ブックスタート：12回 106名212冊配布 ○ブックスタートプラス：103名103冊配布 ○土曜日のおはなし会：12回145名（子ども59名＋保護者40名＋ボランティア46名）参加 ○どんぐりのおはなし会：38回415名（子ども157名＋保護者117名＋ボランティア141名）参加 ○学校図書館支援 ・ブックトラック事業 小学校8校240冊、中学校3校90冊、学校図書館サポートブックス12校2,244冊 ○児童館巡回貸出：5館50冊						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	○児童書の個人貸出冊数31,555冊、幼児・児童一人当たりの児童書直接貸出冊数17.6冊（平成26年度全道平均9.2冊）と高い水準を保っており、前年対比△0.9冊であった。 ○0～6歳の登録者513名（前年度比2名増）
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○「子どもの読書推進プラン【第3次計画】」の推進。 ・家庭における読書活動の推進。 ・地域・学校等における読書活動と読書環境整備の推進。 ・学校図書館への支援。 ・読み聞かせ会の継続、ICTを活用した取組検討。						
	改 善 策						
	○ブックスタートやブックスタートプラスなど、家庭における読書活動の推進事業を継続する。 ○学校図書館の環境向上に向けた活動を継続する。 ○学校司書との連携を図り、子どもの読書活動を推進する。						

令和5年度 富良野広域連合教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	安全安心な学校給食の提供						
事業の 目的・概要	衛生管理の徹底を図り、経年劣化した調理機器等の更新など施設設備の整備を進めながら、食中毒の発生や異物混入等を防止し、安全・安心で美味しい学校給食の安定供給に努める。	事業年度	開 始		終 了		
			継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
		233,909	242,111	268,273	274,784	288,292	
前年度の 課題	○施設はH11年供用開始のため各所に経年劣化が見られ、未更新の大型機械及び厨房調理機器等も耐用年数を経過している。 突発的な故障は給食提供中止を招くため、今後も計画的な設備機器の改修、更新を進める必要がある。						
当該年度の 目標	○安全・安心で美味しい学校給食の推進。 ○安定した給食の供給。 ○厨房内調理機器等の更新（食器洗浄機1台更新）。						
事業の 実施状況	○富良野市・中富良野町・占冠村の小学校12校、中学校6校、義務教育学校2校に年間195回を基準として米飯週3回、パン・麺各週1回の給食を提供 ○「学校給食衛生管理の基準」を遵守した学校給食センターの運営 ○学校給食献立委員会による献立内容の改善と協議（6回開催） ○夏季休業期間に、3センターの給食業務従事者を対象に職員研修を開催 ○形状等により喉つまり等の恐れがある食材を使用する際には前日に注意喚起のFAXを送付。 ○HPを活用した給食献立表及び使用食材産地の公表、給食だよりの作成 ○施設設備及び調理機器等の整備 ・下処理食品庫室外機改修 1,188,000円 ・その他修繕（配管、排水処理施設、地下室など） 2,702,898円 計3,890,898円 ○備品等 ・食缶洗浄機購入 1台 38,883,900円 ・パソコン購入 1台 325,600円						
評 価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	○厨房調理機器、給食供給用備品の経年劣化の状況を的確に把握し、優先順位を決め、計画的な更新及び改修を進め、継続して安全で安心な学校給食の提供が図られた。
	効果度	A	A	A	A	A	○経費削減のため極力部品交換にて対応している。 ○保菌検査をはじめ感染症対策を実施し、安全安心な学校給食の提供が図られた。
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○供用開始から使用している大型機械及び厨房調理機器等もあり耐用年数を経過している。 著しい劣化は、故障や破損に繋がり給食提供中止や調理員の事故を招くため、今後も計画的な設備機器の改修、更新を進める必要がある。						
	改 善 策						
	○安定した給食提供のため、施設設備、大型機器等の状態を把握し、計画的な更新を進める。 (R6: 食缶洗浄機更新 1台、空調用インバーター改修工事、屋上防水工事実施予定)						

令和5年度 富良野広域連合教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	「富良野ふるさと給食」の実施						
事業の目的・概要	地元でとれた旬の食材や特産品を子どもたちに伝え、食べ物が身近になることで「地産地消」の意味や意義を学習し、食の大切さや食材の生産・加工・流通を学ぶ機会とする。 ・地場及び道産の食材 9割使用 ・学校農園野菜の活用 ・地産地消の啓発	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
	—	—	—	—	—		
前年度の課題	○新たな旬の使用食材の検討確保と提供者の開拓。 ○生産者の顔が見える給食提供のため、地元産食材使用の更なる情報提供方法の検討。						
当該年度の目標	○食の大切さや感謝する心を育む食育の推進。 ○地産地消の推進。						
事業の実施状況	○ふるさと給食：9月6日、14日実施 ○ふるさと食材の日：5月～2月（9月を除く）毎月1回実施（ふらの地域で収穫している旬の食材や加工品を使用した一品を提供） ○自治体広報による取材及び記事掲載 ○ふらの地域の生産者、企業、学校農園等の協力により地元並びに道産食材を確保 ○「給食だより号外」による旬の食材紹介、地産地消を啓発 ○ふるさと給食特別号「第20回富良野ふるさと給食 ーみんなで食べようふるさとの味ー」発行 ○ふるさと給食、ふるさと食材の日に使用する食材の生産者の動画を作成し食育へ活用。 ○ふるさと給食・ふるさと食材について全学校へアンケート調査を実施 ※特徴的な回答 ・オムカレーやふらの牛乳は恒例のメニューとなっていて、子供達は楽しみにしている。 ・紹介動画は給食時に見ていて、とても関心をもって、ふるさと食材を食べることができている。 ・どんなものが地元で作られているか知る機会となった。 ・苦手な食材であっても、食べてみようとする児童の姿が見られ良かった。						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	○ふるさと給食では、時期を9月の収穫時期に設定することで、地域の様々な野菜が活用でき、農業への理解と地産地消の推進を図ることができた。
	効果度	A	A	A	A	A	○ふるさと食材の日では、毎月1回設定しているため、旬の食材を積極的に取り入れることができ、素材の食感や味を実感できたと好評であった。 ○給食だより特別号では、生産者の顔が見えることからより身近に感じられて良かったとの評価であった。
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○新たな旬の使用食材の検討確保と提供者の開拓。 ○生産者の動画を作成したことにより、子どもたちが地産地消について興味関心を持てるようになってきていることから、次年度に向けても継続していく必要がある。						
	改 善 策						
	○協力農家等の情報収集により、生産者と児童生徒との交流機会を図り「顔が見える学校給食」を実施し、地域農業への理解と地産地消の意義を学ぶ機会としての充実を図る。 ○学校行事などで給食が「ふるさと給食」が喫食できないことがないよう日程の検討を行う。						

令和5年度 富良野広域連合教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	食に関する指導の推進						
事業の目的・概要	学校給食を「生きた教材」として活用し、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通して自らの健康管理ができるようにする。また、食事の楽しさや喜び、食物の生産等にかかわる人々への感謝する気持ちを持つなど豊かな心を育成する。 ・栄養教諭による食の指導 (配置校2校・未配置校18校)	事業年度	開 始	終 了			
			継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5
	—	—	—	—	—		
前年度の課題	○食育の重要性について周知するとともに、栄養教諭及び管理栄養士の専門性を活かし、各学校の要望に沿った食の指導を進める必要がある。 ○和洋中のメニュー、各種食材の活用、地域の食文化を伝えるなど多様な献立を取り入れるため、リクエストメニューを募集し、食べ残しを少なくする取り組みを進める。 ○各学校の学級担任、養護教諭、給食担当職員と連携し、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。						
当該年度の目標	○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けると共に、感謝する気持ちなど豊かな気持ちを身に付ける。 ○食べ残しを少なくする取り組み。						
事業の実施状況	○2名の栄養教諭による食の指導 ・食育授業実施校数 10校 (小学校7校、中学校1校、義務教育学校2校) ・主な食育授業の内容 配置校 富良野小学校 ～「給食ができるまで」「しっかり食べよう朝ごはん」 東小学校 ～「はじめての給食」、「食生活を見直そう」 ・未配置校 18校の内8校で指導を実施 (占冠中央小学校、扇山小学校、麓郷小学校、鳥沼小学校、樹海学校、中富良野小学校、トマム学校、富良野東中学校) ○年間指導計画作成及び給食だより発行 ○年間指導計画に基づく給食指導要領作成 ○献立委員会等との連携による献立の見直し実施 ○社会見学・給食時間における調理員の派遣						
評価		R1	R2	R3	R4	R5	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	B	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○食育の重要性について周知するとともに、栄養教諭及び管理栄養士の専門性を活かし、各学校の要望に沿った食の指導を進めるとともに、学校給食を「生きた教材」として食事の重要性を伝えていく必要がある。特に朝食の必要性など家庭での食事の重要性について伝えていくことが必要である。 ○和洋中のメニュー、各種食材の活用、地域の食文化、行事食を伝えるなど多様な献立を取り入れるため、地元食材やリクエストメニューを募集しながら、食に対する興味を持ってもらい、正しい知識や食習慣を身に着ける取り組みを進める。 ○各学校の学級担任、養護教諭、給食担当職員と連携し、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。						
	改 善 策						
	○学級担任、養護教諭、給食担当教職員と連携を図り、食に関する指導を推進する。 ○指導内容を学年で固定することや、指導学年を各学校で精査してもらうなど、各学校や教育委員会と調整をしながら対応する。						

令和5年度 富良野広域連合教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター																																														
事務事業名	学校給食費の徴収																																																
事業の目的・概要	給食センター、学校、保護者の連携・協力により、現金徴収及び口座引き落とし等を利用し、学校給食費を徴収する。給食費滞納の未納防止に努め、円滑な学校給食の運営を図る。	事業年度	開 始		終 了																																												
			継続																																														
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4	R5																																										
—	—		—	—	—																																												
前年度の課題	○構成市町村の教育委員会・学校・家庭と連携を図り、早め早めの連絡、督促等により未納防止、滞納解消に向けた対策が必要。 ○給食費の徴収について、文科省が「自治体が自らの業務として責任を負うことが望ましい」方針を決め、教職員の働き方改革一環として取り上げられている。今後の国等からの指導に基づき対応を検討する。																																																
当該年度の目標	○給食費滞納を防ぐため各学校と連携を図る																																																
事業の実施状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th><th>調定額(円)</th><th>収入済額(円)</th><th>不納欠損額</th><th>未収入額(円)</th><th>収納率(%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5年度給食費</td><td>120,178,989</td><td>120,151,169</td><td>0</td><td>27,820</td><td>99.98</td></tr> <tr> <td rowspan="3">内 訳</td><td>富良野</td><td>90,500,994</td><td>90,500,994</td><td>0</td><td>0</td><td>100.00</td></tr> <tr> <td>中富良野</td><td>23,942,265</td><td>23,914,445</td><td>0</td><td>27,820</td><td>99.88</td></tr> <tr> <td>占冠</td><td>5,735,730</td><td>5,735,730</td><td>0</td><td>0</td><td>100.00</td></tr> <tr> <td>過年度給食費</td><td>482,595</td><td>29,680</td><td>452,915</td><td>0</td><td>6.15</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>120,661,584</td><td>120,180,849</td><td>452,916</td><td>27,820</td><td>99.60</td></tr> </tbody> </table>						区 分	調定額(円)	収入済額(円)	不納欠損額	未収入額(円)	収納率(%)	5年度給食費	120,178,989	120,151,169	0	27,820	99.98	内 訳	富良野	90,500,994	90,500,994	0	0	100.00	中富良野	23,942,265	23,914,445	0	27,820	99.88	占冠	5,735,730	5,735,730	0	0	100.00	過年度給食費	482,595	29,680	452,915	0	6.15	合 計	120,661,584	120,180,849	452,916	27,820	99.60
	区 分	調定額(円)	収入済額(円)	不納欠損額	未収入額(円)	収納率(%)																																											
	5年度給食費	120,178,989	120,151,169	0	27,820	99.98																																											
	内 訳	富良野	90,500,994	90,500,994	0	0	100.00																																										
		中富良野	23,942,265	23,914,445	0	27,820	99.88																																										
		占冠	5,735,730	5,735,730	0	0	100.00																																										
	過年度給食費	482,595	29,680	452,915	0	6.15																																											
	合 計	120,661,584	120,180,849	452,916	27,820	99.60																																											
※過年度給食費の未収入額は不能欠損処理済み																																																	
「児童手当」からの天引き申出額 0件																																																	
評価		R1	R2	R3	R4	R5																																											
	達成度	A	A	A	A	A																																											
	効果度	A	A	A	A	A																																											
今後取り組み	達 成 度 ・ 効 果 度 の 検 証																																																
	○学校・家庭と連携を図り、高い徴収率を維持できた。 ○過年度滞納分は債権放棄のうえ、不納欠損処理を行った。																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">今 後 の 課 題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="7">○構成市町村の教育委員会・学校・家庭と連携を図り、早め早めの連絡、督促等により未納防止、滞納解消に向けた対策が必要。 ○給食費の徴収について、文科省が「自治体が自らの業務として責任を負うことが望ましい」方針を定めており、教職員の働き方改革の一環として取り上げられていることから、引き続き学校から自治体への移行に向けた具体的な協議を行う。</td></tr> <tr> <th colspan="7">改 善 策</th></tr> <tr> <td colspan="7">○滞納家庭においては、学校及び構成教育委員会との連携により家庭状況等を把握し、児童手当からの引き落としなどを検討する。 ○公会計における給食費管理システムの導入の検討 ○滞納繰越分については、適切な時期に督促、催告等を行い債権の健全な保全を図る。</td></tr> </tbody> </table>						今 後 の 課 題							○構成市町村の教育委員会・学校・家庭と連携を図り、早め早めの連絡、督促等により未納防止、滞納解消に向けた対策が必要。 ○給食費の徴収について、文科省が「自治体が自らの業務として責任を負うことが望ましい」方針を定めており、教職員の働き方改革の一環として取り上げられていることから、引き続き学校から自治体への移行に向けた具体的な協議を行う。							改 善 策							○滞納家庭においては、学校及び構成教育委員会との連携により家庭状況等を把握し、児童手当からの引き落としなどを検討する。 ○公会計における給食費管理システムの導入の検討 ○滞納繰越分については、適切な時期に督促、催告等を行い債権の健全な保全を図る。																					
今 後 の 課 題																																																	
○構成市町村の教育委員会・学校・家庭と連携を図り、早め早めの連絡、督促等により未納防止、滞納解消に向けた対策が必要。 ○給食費の徴収について、文科省が「自治体が自らの業務として責任を負うことが望ましい」方針を定めており、教職員の働き方改革の一環として取り上げられていることから、引き続き学校から自治体への移行に向けた具体的な協議を行う。																																																	
改 善 策																																																	
○滞納家庭においては、学校及び構成教育委員会との連携により家庭状況等を把握し、児童手当からの引き落としなどを検討する。 ○公会計における給食費管理システムの導入の検討 ○滞納繰越分については、適切な時期に督促、催告等を行い債権の健全な保全を図る。																																																	

令和5年度 富良野広域連合教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター			
事務事業名	食物アレルギーの対応					
事業の目的・概要	食物アレルギーを有する児童生徒が、他の児童生徒と同様に学校給食を楽しむことができるよう安全性を確保する。	事業年度	開 始		終 了	
			平成23年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	R1	R2	R3	R4
—	—		—	—	—	
前年度の課題	○教育委員会と連携した食物アレルギー対応への情報共有。 ○学校、保護者、給食センターでの食物アレルギーに対する共通認識と情報の共有。					
当該年度の目標	○食物アレルギーへの正しい理解と、学校、保護者との情報共有。 ○安全安心な学校給食の提供。					
事業の実施状況	○教育委員会と連携して、新入学予定児童の検診時に保護者と面談。 ○学校・保護者の要望に応じて、栄養教諭が面談し情報を共有。 ○献立に使用する食材の詳細について記載するとともに、アレルゲンとなる食材をマーキング表示し、詳細な献立表を学校及び該当する児童生徒の家庭へ事前に配布。それを基に保護者や担任の指示若しくは各自の判断で原因食材を除去する。 ○除去が困難な場合は、代替食として家庭から弁当持参。 ○牛乳アレルギー及び乳糖不耐症の児童生徒及び教職員（H29年度より）の希望者に対し、代替飲料として麦茶を提供。誤配防止のため、学校名、学年、該当者氏名を貼付し配送。 ・令和5年度末代替飲料提供者数 45名（小学生20名、中学生13名、教職員12名） ○行事食で提供されるデザートなどの一食包装物について代替食を提供。					
評価		R1	R2	R3	R4	R5
	達成度	B	A	A	A	A
	効果度	A	A	A	A	A
今後取り組み	達成度・効果度の検証					
	○新入学予定児童の保護者と面談しセンターでの対応について一定程度理解してもらうことができた。 ○詳細な献立表の配布により、各自が除去すべき原因食品を把握してもらうことができた。 ○一食包装物の代替食の提供を実施することができた。					
	今 後 の 課 題 ○教育委員会と連携した食物アレルギー対応への情報共有。 ○学校、保護者、給食センターでの食物アレルギーに対する共通認識と情報の共有。 ○現施設では詳細資料の配布や代替飲料の提供などに限られるが、今後も新たな取組について検討することが必要である。ただし、命に係わることであり安易な取り組みができないため各教育委員会とも協議しながら慎重に検討を進める必要がある。					
今後取り組み	改 善 策					
	○食物アレルギーを有する児童生徒の的確な把握。					

Ⅳ 令和5年度 学校第三者評価

学校自己評価及び学校関係者評価並びに学校訪問等に基づき、各委員から出された項目に対する意見をまとめたものです。

なお、自己評価値は、評価基準を「4:実践が進み効果を上げている 3:実践が進んでいる 2:実践につとめている 1:努力を要する」の4段階とし、各学校において評価した自己評価値の全学校の平均値を記載している。

観 点	自己評価(平均) ()内は前年度
-----	----------------------

《評価領域：組織運営の状況》

＜項目：学校の組織運営の状況＞		
	1 職員会議等が学校運営において有効に機能しているか	3.7(3.8)
各学校の 取組状況	・経営方針の具現化のため、協議事項が明確となった。 ・職員会議の定例化、及び朝の打合せは行っていない。情報の共有が必要な案件については、Gメールを活用し全体周知を図っているが、問題はない。 ・資料の事前確認を基本に、書面で協議するものと会合で協議するものとのを精選し、限られた時間の中で熟議できるよう工夫することで有効に機能している。 ・教職員の情報共有のみならず、目標の共有を通して経営参画意識を高揚する機会としても機能している。 ・会議資料に次回の議題一覧を提示することにより、各分掌等で見通しをもった計画を立案し分掌内で検討する時間の確保につながった。過年度の反省を踏まえた具体的な改善策が提案され有効に機能した。 ・教育課題への対応等、教職員との共通理解を図ることができた。 ・職員会議は年16回（昨年17回）と、昨年度より1回減らすことができた。提案文書はペーパーレス化が進んでいる。しかし、会議では予定の時刻よりも超過しているのが課題である。 ・ペーパーレスで、事前の検討、事後の情報共有に活用している。 ・議案は事前に校務運営会議で検討し、有効に機能している。	
評価委員 の意見	・ペーパーレス化が進む中で、話し合いの時間も簡素化されるのではないかと不安があったが、時間超過するほど活発な議論があることは良いことです。	
	2 勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス管理が適切に行われているか	3.8(3.9)
各学校の 取組状況	・報告・連絡・相談を徹底し、適正に管理することができた。 ・校務連絡票（学校日誌）を活用し、サービス規律遵守についての啓発を行っている。休暇、勤務時間等のサービス管理も適切に行われている。 ・校務支援システムによる出退勤の管理、及び諸届の事前承認を基本に適切に行っている。また、サービス規律保持については、校内研修に位置づけ、計画的に指導している。 ・事務職員を窓口、に、休暇処理簿・旅行命令簿等の適正・迅速な処理を行った。また、サービスに関する研修やチーム意識の醸成に努め、相互にサービス規律を厳守する意識の確立を図った。 ・法令を遵守し、職務に専念するよう指導ができた。 ・勤務時間の管理は、校務支援システムを活用している。職専免の承認等の管理は適切に実施されているが、PTA活動など時間外の管理についてはやや曖昧である。 ・タイムカードを活用した勤務時間管理、サービスについての研修を行いサービス規律を遵守する意識を高めている。	
評価委員 の意見	・特になし	

＜項目：学校と設置者の連携の状況＞		
	1 設置者の示す明確な教育方針等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか	3.8(3.8)
各学校の 取組状況	・教育振興基本計画をもとに、教育活動を推進することができた。 ・富良野市教育振興基本計画及び富良野市教育行政執行方針の重点目標を踏まえ、年度の重点目標を設定し、学校運営協議会・PTA・教職員の理解のもと、教育活動を進めている。 ・グランドデザインを教職員、保護者、地域の方と共有し、学校運営を推進している。 ・富良野市の教育行政執行方針に基づいた重点目標を設定し、目標と方針を常に共有しながら学校運営を行った。 ・市の教育行政執行方針に則り、学校や地域の歴史・特性を踏まえて重点目標を定め、常に意識しながら具現化を図り、成果を上げることができた。 ・富良野市教育行政執行方針を踏まえ、年度の重点目標を設定し、それを達成するための学校運営ができた。 ・市の教育方針の下、令和5年度の重点目標の達成を目指し、学校運営を推進することができた。 ・富良野市教育推進計画の評価指標と学校評価項目をリンクするよう見直しを行っている。	
評価委員 の意見	・特になし	
	2 学校と設置者が、児童生徒の状況や安全管理等に関する情報を適切に共有しているか	3.9(4.0)
各学校の 取組状況	・通学路などは関係各所と連携しながら整備することができた。 ・児童の状況及び安全管理に関する情報を迅速適切に報告し、共有を図っている。 ・適切に共有していた。 ・市教育委員会や他校（特に近隣小中学校）との連携を密にし、速やかな情報共有を図っている。また、関係施設（児童養護施設）との日常的な情報交流を行っている。 ・学校や児童の状況について情報を共有し、課題解決に向けて市教委から助言をいただいていた。 ・危機管理マニュアル等の見直しを図るとともに、必要に応じてマチコミを活用して、保護者へ情報提供するなど、適切に行った。 ・危機管理マニュアルを見直すとともに、通学路・校内の安全点検を行い情報の共有を行っている。	
評価委員 の意見	・自校だけでなく、他校や市教委との連携を密に取ることを各校が心がけることで、様々な対応への備えになっていくことが考えられます。 ・通学路に空き家があり、屋根からの落雪の心配など危険を感じる箇所があります。 ・マチコミがよく活用されていることは、保護者への情報が早く確実に届くことから非常に良い事です。	

＜項目：目標設定と自己評価の状況＞		
	1 学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が具体的に設定されているか	3.9(3.8)
各学校の 取組状況	・学校評価・各種調査をもとに中長期的なスパンでの具体目標を設定し、実践を進めている。 ・学校評価及び各種調査の結果から、本校児童の課題をまとめ、育成を目指す資質・能力を整理し、中期目標を設定している。 ・昨年度の学校評価結果を受け、児童に身につけさせたい資質能力を明確にした重点目標を設定し、達成するための具体策を分掌で協議し設定している。 ・今年度の重点のもとで達成度を具体的な評価項目で検証し、目標の具現化に取り組んだ。 ・教育重点目標実現のために具現化した3つのステージ（段階的到達目標）を策定し、すべての教職員が到達度を把握・共有し、その都度評価・改善を加えながら適時・適切な指導を実践することができた。 ・重点目標達成に向け、具体的な施策を講じながら、教育活動に取り組んできた。 ・学校の重点目標の達成に向けて、学校力向上委員会が中心となり、短いスパンで評価・改善を行った。 ・計画に基づき、具体的な目標を設定し、状況に応じて適宜見直しを行っている。 ・年2回の学校評価を行い、分掌ごとのPDCAシートを作成し、改善計画を策定している。	
評価委員 の意見	・特になし。	
	2 自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3.9(3.9)
各学校の 取組状況	・学校評価や教職員評価をもとに、改善プランを立てることができた。 ・評価結果の見える化を進め、教員・保護者・児童アンケートの結果をから、すぐに改善できることは迅速に対応した。 ・学校評価における自己評価から改善点を教職員全員で共通理解し、各分掌等において改善策を立て、学校運営の充実を図っている。 ・評価結果を受けた分掌会議の中で、具体的な改善のポイントと策を明確にしながらか活用された。 ・学校教育目標や年度の重点目標に沿った前期・後期の全体評価、各行事反省の結果を検討し、課題や改善点を共有し、改善の方策を見いだし実践に結びつけることができた。 ・評価結果を踏まえ、改善策について教職員が主体的に考え実施した。 ・自己評価については、学校力向上委員会で結果を分析し、改善方法について全教職員で共通理解を図った。 ・学校力向上委員会で分析し、全教職員で課題を共有し、改善を図っている。	
評価委員 の意見	・評価結果をもとに、学校内で共有していることや、改善に向けた取組みがなされていることは、とても良いことだと思います。	

3	外部アンケート等を実施し、自己評価を行う上での参考としているか	3.8(3.8)
各学校の 取組状況	・児童・保護者アンケートを実施し、教育活動の価値づけできる成果とより良くするための課題を明確にし、改善することができた。 ・経営方針の説明を丁寧に行うことで、年度の重点目標が学校運営協議会・保護者と共有し、改善点を自己評価を行う上での参考とした。 ・児童や保護者アンケート、学校関係者評価を行い、自己評価の資料として活用している。 ・外部関係者が教育活動に参画する機会の中で意見頂き、教職員で共有し、参考にできた。 ・自己評価と併せて保護者や児童アンケートを実施し、相関性に留意しながら検証を進め、改善策を見出し、意見・要望をもとに必要な事柄は素早く改善を図った。 ・保護者アンケートの他、学校行事や参観日等の保護者の意見を踏まえて教育活動の改善に生かした。 ・年2度の学校評価アンケートの結果を活用して各分掌が分析及び改善策の策定につなげた。 ・計画的にアンケートを実施し結果と課題に対する方策を公開し自己評価の参考にしている。 ・保護者評価や学校関係者評価の結果を全職員で共有し、自己評価の参考にしている。	
評価委員 の意見	・特になし。	

＜項目：学校関係者評価の状況＞		
1	学校関係者評価が自己評価の結果を踏まえて実施されているか	3.8(3.8)
各学校の 取組状況	・CS協議会で学校評価について説明し、共有しながら改善に向けて進めることができた。 ・学校の自己評価結果を学校運営協議会に提示し、項目毎に改善策を検討した。学校運営委員会での意見を真摯に受け止め、学校経営に生かしている。 ・学校評価アンケートの結果を共有し、学校関係者評価を適切に実施している。 ・2月に学校関係者評価会議における資料として、自己評価の結果と今後の改善の方向性について提示した。それをもとに、適切に実施することができた。 ・自己評価結果を丁寧に説明した上で学校関係者評価を行った。 ・コミュニティ・スクール協議会で委員へ自己評価について説明をするとともに、令和6年度の取組に向けて協議を行った。 ・学校運営協議会において自己評価を説明し、学校関係者評価を行っている。	
評価委員 の意見	・特になし。	

2	学校関係者評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3.9(3.7)
各学校の 取組状況	・学校評価の項目について評価いただき、価値付けと改善に結び付けることができた。 ・学校評価の結果を学校運営協議会で共有し、いただいた意見を次年度の経営方針、教育計画の立案に活かした。 ・学校関係者評価の結果を押さえながら、学校運営の改善へ活用を図っている。 ・いただいたご意見を具体的な改善策として盛り込み、学校経営方針ならびに次年度の学校教育計画の充実に大いに生かすことができた。 ・生徒指導、特に挨拶に関わる指導については、地域とともにやっていくことが話し合われ実践している。 ・学校関係者評価の結果をもとに、学校力向上委員会で次年度の対策について検討してきた。検討した結果をもとに令和6年度の計画を行った。 ・学校運営協議会の評価結果を、学校力向上委員会、分掌、学年で検討し、学校運営の改善に生かしている。	
評価委員 の意見	・挨拶に関わる指導については、学校内だけでなく、家庭や地域の協力があることで格段に身につくものなので、とても良い取組みだと思います。	

＜項目：教育課程等の状況＞

1	学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか	3.7(3.9)
各学校の 取組状況	・特色ある教育活動を教育課程に明確に位置付け、カリキュラム・マネジメントを全校体制で進めている。 ・学校の教育目標、年度の重点目標を踏まえ、教育内容や時間を適切に配分し、授業改善や特色を出した教育課程の編成、実施を推進している。 ・教職員で共通理解を図りながら、教育課程の編成、実施を行い、年度末には評価、改善を適切に実施している。 ・育てたい資質・能力の育成に向けて、教職員間での共有のもとで、カリキュラムマネジメントが行われた。 ・重点目標に沿って全教職員で検証を進め、成果や課題、具体的な改善策を共有し教育課程の改善を図った。 ・教育目標について全職員に理解・共有した上で、課題解決に向けた教育課程が編成・実施された。 ・重点目標に沿って全教職員で検証を進め、成果や課題、具体的な改善策を共有し、教育課程の改善・編成を図った。 ・学校力向上委員会を中心に教育課程を編成し、全教職員で確認、実施している。 ・教育課程委員会を中心に、課題や改善策を整理し、全職員共通理解のもと教育課程を編成・実施している。	
評価委員 の意見	・特になし。	

2	各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか、また指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか	3. 9 (3. 6)
各学校の 取組状況	・教務主任を中心に進捗状況の確認と指導を行うことができた。 ・年度の重点や学校課題、児童の実態を踏まえ、全体計画・年間指導計画を作成している。授業時数の管理も週単位で集計されている。 ・教務主任を中心に、年間指導計画や週案が適切に作成・管理をしている。また、授業力向上推進教諭、指導工夫改善教諭、理科専科教諭、国語専科教諭を学力向上チームに配置し、学習の定着と学力向上が図られている。 ・教務部と管理職員を中核として、適切に行われた。 ・児童の実態に合わせ少人数・学年別指導体制を確立し、学習指導等の充実に取り組み、学力の安定的な定着を図った。 ・計画どおり授業時数は適切に実施された。特別支援支援員を配置し、授業のサポート体制を整えた。 ・余裕をもった時数を確保できるように、年間指導計画の見直しを図った。特定の教員に時数が偏らないよう、教務主任を中心として確認を行った。 ・学校力向上員会で、年間計画が適切に作成されているか確認し、各学年で指導体制を整備し、実施している。 ・余裕をもった時数を確保できるように年間指導計画を作成している。学年別指導やTTを計画的に実施し指導体制を整備している。	
評価委員 の意見	・小学生のうちから専科教諭の授業に慣れていくことで、中学校に進学してからの各教科毎に先生が変わることにも戸惑わず、スムーズに移行できるものだと思います。	
＜項目：授業の状況＞		
1	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか	3. 9 (3. 7)
各学校の 取組状況	・ICTを活用し、児童が主体的に学びを進める授業改善を進めることができた。 ・わかる授業づくりと確実な基礎基本の定着を重点目標とし、一人一人がしっかりと考えることを重視した授業改善を進めた。 ・全学年の教育課程に、地域の教育資源を活用した体験的な学習を設定している。また、総合的な学習においては、児童の興味・関心を活かした課題設定、ICTを活用した自主的な調査活動等、問題解決的な学習を推進している。 ・児童生徒の主体的、対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善に取り組むことができた。 ・総合的な学習の時間に地域の自然や産業の調査・発表を取り入れる等、地域の人材や環境を生かしつつ、地域のよさに目を向け愛着を深める教育活動を実施した。 ・山部の自然や農業等と関わる体験的な学習を全学年で実施することができた。自主的・自発的な学習に努めているが、これからもっと取り組める状況である。 ・授業にICTを活用する場面を取り入れ、生徒一人一人の個別最適な学びの場が保障できるよう実践を重ねた。 ・体験的な学習等を年間指導計画に位置付け、適切に実施している。 ・地域の特色ある活動を教育課程に取り入れ、体験的・問題解決的な学習を行い、興味関心を高める授業の実践に努めている。	
評価委員 の意見	・楽しくわかりやすい、皆で共有する授業にするには、ICTの活用が効果があることが、学校訪問の授業参観で良く理解できました。今後も積極的に活用されることを願います。	

2	視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワーク、電子黒板などを効果的に活用した授業が行われているか	3. 6 (3. 6)
各学校の 取組状況	・一人一台端末をはじめ、プロジェクターを使った全体指導や協働的な学びに結び付くアプリなど、効果的な活用ができた。 ・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善として、ICTの効果的活用を研究副主題に、「個々の最適な学び」と「他者との協働的な学び」の充実を図った。 ・一人一台端末、デジタル教材を効果的に活用しながら、授業改善に学校全体として取り組んでいる。 ・情報活用能力体系図を基に、端末をいかした授業改善に取り組んだ。 ・タブレットPC・iPad・電子黒板・デジタル教科書などを日常的に活用し、主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動を展開することができ、学習効果を向上させた。 ・タブレットを活用した授業改善が行われた。今後遠隔授業など、もっと取り組める余地がある。 ・アウトプット重視の授業づくりを目指すとともに、生徒一人一人が深い学びへとつなげることができるよう、タブレット端末を活用して実践を重ねた。 ・情報交流や研修を行い、授業改善に努めている。 ・日常的にICTを活用した授業を実践している。	
評価委員 の意見	・特になし。	

＜項目：特別支援教育の状況＞

1	特別な支援を必要とする児童生徒について、個別の指導計画や個別の教育支援計画が適切に作成されているか	3. 8 (3. 8)
各学校の 取組状況	・コーディネーターを中心に、校内支援委員会を開き、適切に作成することができた。 ・富良野市特別支援教育マスタープランを基に「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、家庭と連携しながら指導の工夫・改善に努めた。 ・児童の実態を踏まえ、保護者との面談を定期的実施しながら、個に合わせた指導計画、支援計画を作成し、指導の充実を図っている。 ・児童生徒に関するエビデンスによる適切なアセスメントのもとで、教育相談・校内支援委員会を経て適切に作成した。 ・所属学級の別なく、支援を要するすべての児童を対象とした個別の教育支援計画を策定し、学校全体(チーム)で個に応じた適切な支援を常に心がけ実施した。 ・該当する児童全てにおいて、個別の指導計画等が適切に作成され、活用できている。 ・個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた実践を行った。 ・特別支援コーディネーターを中心に、個別の指導計画や支援計画を作成し、指導の改善に努めている。	
評価委員 の意見	・特になし。	

＜項目：教職員の研修の状況＞		
	1 授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか	3.9(4.0)
各学校の取組状況	・ICTを活用するためのミニ研修を適宜実施し、指導力向上につなげることができた。 ・研修部が中心となり、ICTを効果的に活用することによる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を全教員で取り組んだ。 ・研修部を中心にしながら、設定した研究主題のもと、授業研究を通し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現に向けた授業改善や、教師の指導力向上に取り組んでいる。 ・研修部が中核となり、日常授業に直結する実践的な授業研究に取り組んだ。 ・全教職員が授業を公開し、個々の授業力向上を図った。公開授業後の研究協議で成果と課題について全体で検証し、成果の記録化と課題解決の具体的方策を共有することで日々の授業に対する改善に生かすことができた。 ・全教員の授業を公開し、授業改善に取り組んだ。また、授業力向上のため、互いの授業を参観し助言し合う日常的な取組が行われた。 ・学習者の視点に立った授業づくりに向けて、全教職員が授業公開などを行い、授業力の向上につなげてきた。校内研修では、指導主事等からの指導・助言を生かし、授業改善へ向けた取組を図った。 ・校内研修を基軸に、日常的に授業改善に取り組んでいる。 ・児童生徒の学びを深めるために、全員が研究授業を行い、授業力・指導力の向上を図っている。	
評価委員の意見	・全教職員が、授業を公開するという取組みには驚いております。お互いに刺激を受ける良い機会であるので、ぜひ、継続して実施していただきたい。	

《評価領域：組織運営の状況》

＜項目：生徒指導＞		
	1 生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか	3.9(3.9)
各学校の取組状況	・教育相談期間だけでなく、適宜教育相談を実施できている。 ・年2回の教育相談週間を設定し、児童理解と課題の早期発見に努めた。問題発生時にはスピード感をもって対応し、問題の共有と解決策について話し合いの場を設定した。 ・年間計画において教育相談週間を設定し、児童理解に努めている。また、発達支持的生徒指導を大切にしたい生徒指導に全校で取り組んでいる。 ・定期的な教育相談の他に、児童生徒の困り感に寄り添った教育相談を適時行った。 ・生徒指導部の計画に基づき計画的・定期的に教育相談を実施した。また、児童の困り感に応じて適時・適切に個別相談の機会を設けた。 ・年2回全校一斉の教育相談の他、日常的に児童の相談に応じる体制を整え実施した。 ・年2回全校一斉の教育相談の期間を設定しているなど、日常的に生徒の相談に応じる体制づくりを整備した。 ・教育相談を、学期毎に教育相談習慣を設定し計画的に行っているが、重大事案が発生した。 ・年3回の児童生徒・保護者との教育相談を計画的に実施し、生徒指導上の課題の早期発見に努めている。	
評価委員の意見	・生徒ひとり一人の気持ちに寄り添い、話しやすい教育相談になるように努めていただきたい。	

2	スクールカウンセラーなどの外部人材が活用されているか	3. 6(3. 8)
各学校の 取組状況	・毎週来校するカウンセラーと担任が打ち合わせし、児童の困り感や保護者への声かけについて助言をいただくことができています。 ・スクールカウンセラーを効果的に活用して、児童・保護者のカウンセリングに当たっている。また、地域の民生委員・児童委員との定期的な情報交換の場を設定した。 ・スクールカウンセラーによる児童、保護者とのカウンセリングを計画的に実施している。 ・児童生徒のみならず、保護者支援の見地でも活用された。 ・保護者の相談に対してスクールカウンセラーを活用し成果を上げている。また、地域の児童養護施設や市教育委員会との連携を図り、児童の心身のケアに配慮した取組を推進している。 ・定期的にスクールカウンセラーと連携して、児童及び保護者の教育相談を実施し、効果を上げた。 ・月2回、スクールカウンセラーの来校日を設定し、対象となる生徒の関係者が指導・助言を受けた。 ・計画的に活用しているが、重大事態が発生した。	
評価委員 の意見	・重大事態が発生したとのことですが、スクールカウンセラー等を定期的に活用していても防げないことだったのでしょうか。	

＜項目：児童生徒の人格的発達の状況＞		
1	相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童生徒を育成するための指導を行っているか	3. 4(3. 8)
取組状況	・道徳指導だけでなく、人との関わり方の指導を全校体制で実施している。 ・「居心地が良く他者を思いやることができる学級」を重点目標の具体とし、道徳科や日常の授業の中で、豊かな人間関係を構築できるような環境整備を進めた。 ・人と豊かに関わり合う力の育成に向け、元気よく挨拶する力、相手意識をもって言葉を選ぶ力、互いのよさや成長を振り返る力を目指す資質、能力とし、取り組んでいる。 ・児童生徒の課題は常に全校で共有し、あらゆる場面での細やかな支援・指導を実践した。学級担任は共感的、肯定的な風土を醸成し学級経営を進めていた。 ・日頃の学校生活をとおして児童理解に努め、個に応じた指導を徹底するとともに、学級会・各委員会・集会活動に係わる指導の充実を図ることで、相手を思いやる言動が増え人間関係が安定してきた。 ・道徳の授業をはじめ、児童会活動や日常的な指導を含め、思いやりの心をもてる児童育成のための指導を行った。 ・道徳科を要とする道徳教育を全校で進め、特に、学校行事においては学年縦割りの活動を取り入れるなど、豊かな人間関係を構築できるように努めた。 ・生徒会中心に全校生徒でZERO運動に取り組むよう指導し、豊かな人間関係の構築に努めている。 ・道徳の時間を中心に、全ての教育活動を通していじめの防止や人権尊重の指導を行っている。	
評価委員 の意見	・特になし。	

＜項目：保健管理の状況＞		
	1 日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか	4. 0 (4. 0)
取組状況	・毎朝の健康調査をはじめ、健康な体作りのための取組を年間を通して実施することができた。 ・日常の健康観察により、児童の健康状況をきめ細やかに把握し、情報を共有している。また、保健だより等を活かした疾病予防に取り組んでいる。 ・保健だよりの発行、養護教諭と担任が連携しながら、適切に実施している。 ・日常的な保健指導や定期的な健康診断、家庭と連携した感染予防対策により適切に実施された。 ・毎日の健康観察カードの取組を適切に実施し、毎朝児童一人一人の健康状態（心身）の把握に努めた。また、個々の心身の健康状態の些細な変化にも対応できる体制の構築を図り、適時予防に向けた指導を実施し、健康で安心・安全な生活を実現してきた。 ・日常的な健康観察を行い、養護教諭と連携した保健指導を行った。 ・生徒一人一人が、適切に自己健康管理ができるよう、学級担任と養護教諭が連携を図った。 ・計画通り関係機関と連携し、適切に実施している。 ・養護教諭と担任が連携し、生活習慣改善シートを使用して事故健康管理能力の向上を実施している。	
評価委員意見	・フォームを活用することにメリットがあるように思えます。全校ともフォームを活用して保護者とのやり取りをし、フォームが使えない保護者のみ健康観察カードを使用するほうが効率が良いと思います。	
＜項目：安全管理＞		
	1 学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか	3. 8 (3. 7)
取組状況	・適宜マニュアルを見直し、新たな危機については追記と全体周知・理解を深めながら効果的な活用をすることができた。 ・学校独自の「ヒヤリ・ハット・マップ」や危機管理マニュアルを適時見直し、危機管理体制の充実に努めた。 ・危機管理マニュアルの点検、見直し、職員研修会の計画的な実施など適切に行うことができています。 ・学校職員全員で整備された危機管理マニュアルの見直しを行い、実情に応じて改善を図り、時代や現状に即し活用性がより高まるよう改善を進めた。 ・マニュアルについては、全教職員が万が一に備え活用できるようにしてきたが、さらにマニュアル管理を行っていく必要がある。 ・危機管理マニュアルについては、年2回の避難訓練や9月防災教室の反省を踏まえ、適宜見直しを行った。 ・危機管理マニュアルを見直しと新たな緊急事態に対して追記を行い、全職員に周知し確認している。	
評価委員の意見	・特になし。	

＜項目：進路指導(キャリア教育)の状況＞		
	1 児童生徒の将来の夢や希望を育み、学ぶことや働くことの意義など適切な勤労観や職業観を育てるための指導を行っているか	3.7(3.6)
取組状況	・キャリアパスポート、マイノートを活用し、自己肯定感と成長を感じられる指導の充実ができた。 ・「キャリアパスポート」を活用し、子どもたちの変容の把握に努めた。また、演劇工場に関わる方に取材し、富良野で働くよさや働く方々の思いを知ることができた。 ・外部講師の活用や「キャリアパスポート」の活用などにより、学校全体として取り組むことができています。 ・生活科、総合的な学習の時間を要として教科横断的にキャリア教育の実践を行った。 ・マイノートを年間指導計画に組み入れ指導してきた。併せて低学年からの勤労見学・体験を重視し、働くことの意義について理解を深めさせてきた。 ・キャリアパスポートを活用し、目標をもつ大切さを指導している。生活科や社会等地域のいろいろな職業の方と触れ合う機会から職業観を育てている。 ・マイノートなどを活用し、生徒一人一人が、学ぶことと自己の将来とのつながりについて見通しをもつことができるよう、地域の方々と連携した職業体験学習を行った。実施後は、マイノートに記録し、次の学習に向けての意欲化を図った。 ・キャリアパスポートを活用し、計画的に学年に応じた指導を行っている。 ・マイノートの取組を教育計画に位置づけ、9年間を通したキャリア教育を実施すると共に、学年に合わせた体験活動、体験学習を行っている。	
評価委員の意見	・高学年に限らず、低学年のうちから勤労体験や見学ができることは、子どもたちにとって貴重な体験であり、とても大切な事と思うので、今後も継続していただきたい。 ・小学校のうちから実際に働いている人の話を聞くことや、将来的な事を考える機会となる授業が行われていることは、今後も継続していただきたい。	

《評価領域：家庭と地域との連携協力の状況》

＜項目：学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況＞		
	1 児童生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握し、適切に対応しているか	3.8(3.8)
取組状況	・年2回の学校評価から、改善プランを作成し、実現に向けて取り組むことができた。 ・学校評価における保護者アンケートをはじめ、あらゆる機会を通じて、子どもや保護者の要望を把握する努力をしている。 ・学校評価アンケートや行事アンケート、授業の振り返り、Web QnAなどを適切に実施し、教育活動の充実や授業改善、学級経営に役立てている。 ・生活科、総合的な学習の時間を要として教科横断的にキャリア教育の実践を行った。 ・教育相談や学級懇談、学校評価（保護者アンケート）などの機会を活用し、情報を収集している。また、保護者と顔を合わせる機会が多いので、その都度ご意見をいただいた。貴重なご意見は、その都度教職員間で情報を共有し迅速な対応を図った。 ・生徒・保護者アンケートや教育相談等を通して、意見や要望を把握し、適切に対応した。 ・児童生徒アンケートや保護者アンケート、教育相談等を通し、考え方や要望を把握し、適切に対応している。	
評価委員の意見	・特になし。	

＜項目：学校に関する情報提供＞		
	1 学校だよりや学級だよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか	3.9(3.9)
取組状況	・学校だよりやマチコミを通じて、教育活動の情報提供を行うことができた。 ・学校だよりや学年・学級通信、保健だよりを定期的に発行し、保護者に学校の様子をわかりやすく伝えるよう努めている。 ・学校だよりや学年・学級通信を定期的に発行し、保護者に教育活動についてわかりやすく伝えている。 ・学校便り・PTAだよりを定期的に発行し、学校生活の様子や成長の姿が共有されるよう図った。また、各学級通信も週1回のペースで発行され、児童の日常的な取組や成長の様子を伝えている。 ・毎月末に学校だよりを発行したり、学級通信を毎週発行したりするなど、生徒の様子を随時適切に公開した。 ・学校の取組が伝わるよう、各種通信を定期的に発行している。 ・定期的に発行し、情報を適切に伝えている。達・公開を適切に行っている。 ・学校の取組が伝わるよう、各種通信を定期的に発行している。	
評価委員の意見	・担任の先生の負担になるのは重々承知の上ですが、学級通信は保護者にクラスの様子を伝える手段ですので、週に1回といわずに発行していただきたい。	
	2 ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に学校に関する情報を提供するための取組みを行っているか	3.4(3.7)
取組状況	・ホームページを適宜更新し、地域の方にも情報提供することができた。 ・スクールカレンダー、学校経営方針、いじめ防止基本方針等をホームページ上に公開し、地域住民等に対する情報共有を図っている。 ・ホームページを適切に更新しながら、教育活動について伝えることができている。 ・児童養護施設との連携を密にし、児童のプライバシー保護に細心の注意を払いつつ、ホームページの定期的な更新を行い積極的な情報発信に努めた。 ・ホームページや地域回覧文書により、学校の情報を提供している。 ・プライバシー保護を最大限に配慮した内容で、情報公開を行った。しかし、一部、不適切な表現があり、指摘を受けるなど、公開前に職員間の確認が不十分であった。 ・学校だよりの地域配付、ホームページの更新等で学校の様子を定期的に提供している。	
評価委員の意見	・特になし。	

＜項目：保護者・地域社会との連携の状況＞		
	1 授業や教材の開発に地域の教育資源（人・物・自然など）を活用し、より良いものとする取組を行っているか	3.7(3.8)
取組状況	・地域の人材・素材を活用し、質の高い教育活動を提供することができた。 ・地域学校協働推進委員会等と連携して地域の教育資源、地域人材の活用を行い、特色ある教育活動を推進している。 ・地域の人的・物的資源を有効に活用し、教育活動の充実を図っている。 ・一例として中学美術の授業で、地域住民の作家をゲストティーチャーとして「籐のかご」作りを制作する授業実践を行った。麓郷の自然をいかした素晴らしい授業実践だった。 ・恵まれた自然環境や地域人材を主とした体験的学習の場を教育課程にしっかり位置付けて有効に活用することができている。そのため、知・徳・体それぞれの健やかな育成が図られ、教育効果を上げることができた。 ・学校からの発信だけではなく、地域からの声掛けもあり、山部の教育資源を常に活用する授業を行っている。 ・メセナ事業、心に響く道徳やコミュニケーション事業など、地域の人的資源を活用した取組を行い、生徒一人一人が学んだことを学校生活につなげることができるよう指導を行った。 ・地域学校協働活動推進委員会、CS協議会、同窓会と連携し、地域の外部講師を招くなど、地域の教育資源を活用した特色有る教育活動の取組を行っている。 ・地域の多様な人材を活用し、特色ある教育活動の充実を図っている。	
評価委員の意見	・どの学校でも地域の特色を活かした講師を招いており、恵まれた人材を活かし、また、多くの素晴らしい自然を活かした授業が行われています。故郷の良さを、どんどんアピールして自分の出身地に自信と誇りを持ち、将来は富良野市に戻ってきたくるように、授業を工夫していただきたい。	
※評価基準 4：実践が進み成果を上げている 3：実践が進んでいる 2：実践につとめている 1：努力を要する		



V 教育行政評価委員会の開催について

1. 教育行政評価委員会

教育行政評価委員会は、委員 4 名の委嘱により、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定による事務事業等の点検・評価の実施及び教育行政評価委員会設置要綱に基づく富良野市学校第三者評価を行いました。

事務事業等の点検・評価では、教育委員会から提出した資料（教育委員会の活動状況及び事務事業点検・評価 51 事業）について事務局より説明し、それに対する教育行政評価委員側からの質疑を交え意見交換を行いました。

学校第三者評価では、学校自己評価及び学校関係者評価の結果並びに学校第三者評価項目に対する学校自己評価結果について説明をするとともに、市立富良野西中学校、市立東小学校の訪問と、保健センター 2 階（こども家庭センター、こども通園センター、教育支援センター）を見学し、さらに校長会会長、副会長との意見交換を行いました。

1) 第 1 回会議 5 月 3 0 日（木）

- 教育委員会事務事業点検・評価シートの説明、質疑
- 教育委員会の活動状況の評価説明、質疑
- 学校関係者評価集約結果の説明、質疑

2) 第 2 回会議 7 月 8 日（月）

- 学校等訪問～市立富良野西中学校、市立東小学校、
- 保健センター 2 階見学～
こども家庭センター、こども通園センター、教育支援センター

3) 第 3 回会議 7 月 2 2 日（月）

- 学校等訪問における感想、意見交換
- 校長会会長、副会長との意見交換
- 事務事業点検評価項目の質疑に対する説明
- 広域連合教育委員会教育行政評価報告書について

4) 第 4 回会議 8 月 2 0 日（火）

- 学校第三者評価のまとめ
- 報告書の最終確認について

2. 教育行政評価委員会における意見

1) 教育委員会の活動状況について

教育をめぐる社会環境は大きく変貌しつつあり、それに伴う問題も複雑多岐にわたっています。教育委員が常に教育環境の状況把握に努めるために活発な議論をし、富良野市の教育の基本理念「すべては子どもたちのために、すべての子どもたちのために」を確認し共有することが益々大切となっています。

平成27年4月から教育委員会制度の改革が行われ、地方教育行政における首長の責任がより明確となり、首長のもとで地方公共団体が一体となって教育施策を進める体制となりました。富良野市総合教育会議では、「学校等における暑さ対策について」、不登校の未然防止、早期対応に向けた「教育支援センター推進事業について」、その内容の説明のあと議論いただき、また、「いじめによる重大事態について」今後の進め方を報告しています。

教育委員の学校訪問については、不登校及び不登校傾向の子どもたちに対する学びの場づくりをテーマとし、授業参観したほか、学校課題について意見交換し、必要な助言等を行いました。

今後も本市教育施策の推進に尽力をいただきたい。

2) 「教育委員会事務事業点検・評価」について

「第6次富良野市総合計画」、「第1次富良野市教育振興基本計画」、「令和5年度富良野市教育推進計画」並びに「富良野市第4次特別支援教育マスタープラン」に基づき、令和5年度中に実施した主な事務事業51事業と教育委員会活動状況について事務局で整理し、第1回会議にて説明いたしました。各委員からは、「子どもと親の相談員活用事業」、「コミュニティ・スクール推進事業」、「ことぶき大学運営事業」、「食に関する指導の推進」など7項目にわたる質問・意見があり、担当課との意見交換を行い、事業効果の向上、期待どおりの効果が得られている、更なる改善への意見が出されました。

3) 学校教育について

小・中学校では、新学習指導要領に基づき、児童生徒の学力向上に向けて、授業改善を組織的・計画的に推進されております。さらに学力が向上することや学習意欲を高めるとともに、子どもたちの個性を生かす教育を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」そして、「生きる力」を育まれることを期待します。

コミュニティ・スクールは、感染症防止のため取組みが制限された中でしたが、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が一体的に推進され、各委員による合同研修会や各学校の取組を学ぶことなど、協議会委員間の交流が図られています。次年度の活動に生かされることを期待します。

GIGAスクール構想により一人一台端末が導入されており、各学校においては、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進するために、ICTを活用した効果的な学習活動となるように、令和5年度から新たにICT支援員を配置したことや、ICT活用による指導力の向上や授業改善の取組みが行われています。引き続き、教育委員会及び学校での研修の機会等を通じて教職員の意識醸成が図られ、ICT教育の更なる推進に期待します。

4) 社会教育について

社会教育は、個人の要望だけに偏った学習課題の設定ではなく、市民の必要課題に基づく学習内容に対応する企画立案や社会教育関係団体の育成、生涯学習の視点に立った推進等が大切です。

青少年教育は、少年の主張大会や子ども未来づくりフォーラムが開催され、子ども一人ひとりの多用な考えを引き出すことや、小中学生が大勢の中で発表するなどの経験を積む場となりました。

「ことぶき大学」は、新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行したことにより、主張・研究・実践発表交流会、3市町芸能交流発表会等が4年ぶりに実施されるなど活動も徐々に戻りつつあり、自治会役員を中心に学生の自主性が高まっています。

現在は、変化の激しい社会の中で、地域との繋がりが希薄となり、不安を抱え「孤育て」となっている家庭も増えてきていることから、地域、社会等との連携がこれまで以上に必要であり、家庭教育の向上に向けた支援が求められています。

時代の変化とともに、社会教育の在り方も変わってきております。幼児期から安心して質の高い教育を受け、生涯にわたり学び続けることができる取組みに期待します。

5) 子育てについて

子育てについては、次世代を担う子ども達を安心して育てることができる環境づくりに向けて、子ども達の発達段階や特性に応じた教育・保育の充実に向けた取組みが行われています。一方では、少子化や核家族化が進展し、保護者の就労状況や家庭環境が変化していることから、地域の子ども達は地域で育てるという視点を持ち、取り組む必要があります。

そのためにも、社会教育分野、学校教育分野、児童福祉分野が一体となって各種子育て支援への取組みが必要になっています。

保健センターの2階に「こども家庭センター」が令和6年4月に開設しました。切れ目のない、安心して子育てができる包括的な相談・支援の充実に期待します。

6) 学校第三者評価について

学校第三者評価は、単に学校の格付けや教諭を評価するためのものではなく、保護者や地域住民が学校と共に子どもたちを基本に考えることにより、より良い「開かれた学校」をめざすものであります。

学校第三者評価は、学校自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価項目の自己評価、学校訪問、校長会会長・副会長との意見交換を基に、評価項目に対する各学校の取組み状況に対し各委員の意見をまとめました。

今後も、評価項目のみならず学校運営全般に関し、自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価の結果を、より良い「開かれた学校」づくりのための貴重な資料として各学校において活用されることを期待します。

7) 校長会会長・副会長との意見交換

第1次富良野市教育振興基本計画、令和5年度富良野市教育振興推進計画、令和5年度教育行政執行方針に基づき、各校では教育行政上の重点を踏まえた学校経営方針が策定されています。

学力と体力の向上、心の教育の充実、また、近年は全国で発生している自然災害や事件・事故等への対応、感染症に対する危機管理体制への備えに向けた取組みが全校で推進されています。

また、校長会では、急激に変化する時代に対応していくために、日頃より、学校教育の今日的課題や学校経営上の諸問題、本市の教育の充実・発展に向けて、意見交流や情報共有を行うなど研鑽を高めています。

働き方改革については、着実に意識改革が進んできております。教育の質向上、教職員のワーク・ライフバランスのために、更に努力していただきたい。

校長会として、今後とも本市の教育の充実・発展に向けて、リーダーシップを発揮されることに期待します。

資料：1

富良野市教育行政評価委員会設置要綱

（設置）

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、富良野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する行政評価の透明性を確保するとともに、学校教育法（昭和22年法律第26号）第42条、第49条及び富良野市立学校管理規則（昭和56年教育委員会規則第2号）第6条の4の規定に基づき、富良野市立の小学校及び中学校の学校教育活動、学校運営の状況等の評価について、教育に関し学識を有する者の知見を活用するため、富良野市教育行政評価委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施した事務事業の点検及び評価について、教育委員会に意見を述べること。
- (2) 学校関係者評価について、教育委員会に意見を述べること。

（構成）

第3条 委員会は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育長が委嘱する4名をもって構成する。

（任期）

第4条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度末までとする。

（運営）

第5条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。
- 4 委員会は、審議のために必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

（庶務）

第6条 委員会の庶務は、事務事業評価に関する事務を所管する課が処理する。

附 則

- 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 最初の委員会は、第5条第3項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

附 則

- 1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、公布の日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

資料：2

教育行政評価委員名簿

委員長	天 日 守	社会教育委員長
副委員長	中 村 路 子	前市 PTA 連合会会長
委 員	中 田 昭 子	社会教育団体役員
委 員	高 谷 美 枝	市 PTA 連合会副会長

資料：3

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

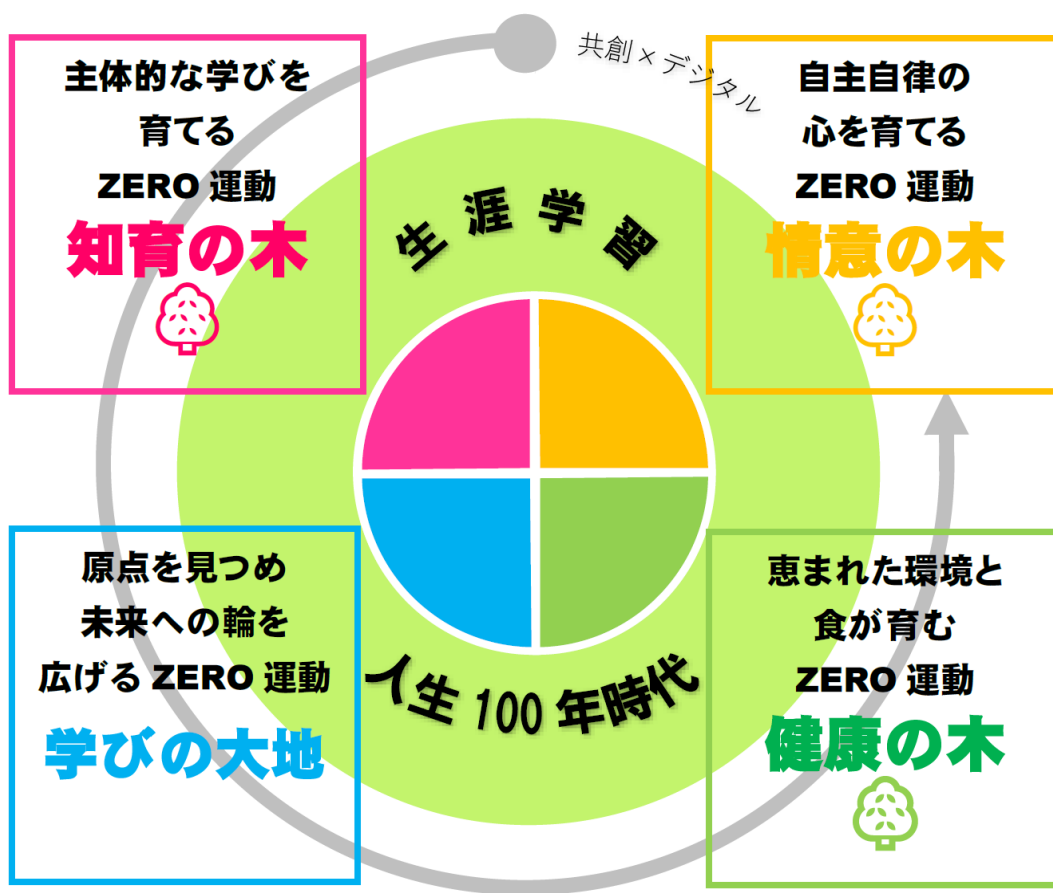
資料：4

令和5年度富良野市教育推進計画

令和5年度（2023年度）富良野市教育推進計画

基本理念

未来を切り拓く人づくり 豊かな心を育むまちづくり



富良野市 ZERO 運動で輝く。つながり合う。ひとのWA！（輪）

令和5年度 教育行政執行方針（抜粋）

< 学校教育について >

- 標準学力検査（N R T）を新たに中学生でも実施し、学力の経年変化分析し、各学校における学習指導方法の工夫や授業改善、家庭と学校の連携による家庭学習時間の確保などを行い、「学びに向かう」学習環境づくりに取り組んでまいります。
- 「英語が使えるふらのっ子」をめざし、校種間の接続を踏まえた富良野市C a n-D o リストの活用、I C Tの一層の活用促進、全ての学校へ外国語指導助手を派遣するなど、学校指導体制の充実を通して、国際社会を生き抜く資質・能力の育成に努めてまいります。
- 児童生徒1人1台の端末の更なる持続的な活用をするとともに、新たにI C T支援員の配置、学びの保障に向け、遠隔授業やオンライン学習などを積極的に推進し、不登校児童生徒や通信環境に支障がある家庭への通信機器支援などに努めてまいります。
- 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、幼保小の円滑な接続をより一層意識し、幼児教育と小学校教育カリキュラム、教育方法の充実・改善に向け、幼保小の関係者が連携した架け橋プログラムの開発・実施を進めてまいります。
- 特別な教育支援にあたっては、一人一人の教育的ニーズを把握し、個別の支援計画・指導計画を活用した効果的な支援や合理的配慮の提供に加え、本人や保護者の意向を最大限尊重した適切な就学先の決定、幼児教育保育施設・学校種間の円滑な引継ぎなど、障がいの状況に応じて適切な指導や必要な支援を受けられるよう努めてまいります。
- 「特別の教科道德」を要とした道德教育を推進するとともに富良野にゆかりのある講師陣による「心に響く道德教育」を実施し、生命の大切さや思いやり、感動する心など、豊かな心を育む「心の教育」の充実にあつてまいります。
- 自分らしいライフキャリアの実現を見据え、児童生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを理解し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成してまいります。
- 不登校児童生徒の多様な教育機会の確保に向けて、I C Tを活用した学習支援を含めた教育支援センターの機能強化などを図るとともに、児童生徒の健康状態や気持ちの変化を確認するスクリーニング体制を整備し、組織的・客観的な状況把握などによる社会的自立のためのアウトリーチ型の支援を充実させてまいります。
- いじめの積極的な認知、早期の組織的対応、関係機関との連携などを推進してまいります。

●森林学習プログラムの充実と活動体制の強化に努めるとともに、地域の自然環境を生かした体験活動、持続可能な開発のための教育（E S D）の推進により、本市が進めるゼロカーボンシティの実現に向けた認識を更に深め、持続可能な社会の創り手の育成に努めてまいります。

●子どもの発達段階に応じ、望ましい食習慣の定着に向けた指導の充実を図るとともに、学校・家庭・地域と連携した取組を推進してまいります。

●コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組を一層推進してまいります。また、各コミュニティ・スクール間の情報共有や委員などの交流を深めるため、研修会などを実施し、活動内容の一層の充実に努めてまいります。

●令和5年度末をもって布部小中学校が閉校となることから、児童生徒の円滑な移行に向け、学校・保護者・地域とともに準備を進めてまいります。

●高校教育につきましては、富良野市内の高等学校2校が令和7年4月新設校として再編されるにあたり、教育活動の充実による魅力的で地域から求められる高校づくりに向けて、協力支援を進めてまいります。

<社会教育について>

●家庭の教育力向上のための支援と子どもの望ましい生活習慣の定着に向け、市民団体との連携による家庭教育講演会やセミナーなどの開催。また、コミュニティ・スクールと連携した地域学校協働活動の取組により、地域で子どもたちを育てる意識の醸成を進めてまいります。

●子どもたちの安全・安心な居場所づくりとして、児童館・学童保育センター、放課後子ども教室の運営を継続し、地域の実情に応じ、市内小学校の空き教室等の活用による地域と連携した子どもの居場所づくりを検討してまいります。

●市民一人ひとりが生涯にわたり学習活動を継続し、学びの成果を暮らしの質的向上や地域社会に活かしていくことが出来るよう、多様な教育ニーズに対応した市民講座、講演会、学習プログラムを提供してまいります。

●多様なニーズに適応した図書資料の充実に努めるとともに、コロナ禍のため活動が縮小されていた図書館利用サークルや読書推進ボランティアとの連携のもと、快適な読書環境づくりに努めてまいります。

●郷土の貴重な文化財の調査と指定登録を進め、教育やまちづくりでの活用を推進するとともに、伝承活動を担う郷土芸能保存団体の活動についても引き続き支援してまいります。

●社会教育を通じた持続的な地域コミュニティの基盤形成に向け、社会教育士をはじめとした社会教育の専門指導者の育成、地域課題の解決や自己実現に向けた活動に多くの市民が参画できる環境を整えるとともに、安全で快適な環境整備を進めてまいります。

<切れ目のない子育て支援について>

●関係部署と連携し、全ての子どもたちが切れ目のない、安心して子育てができる包括的な相談・支援体制づくりのため、「こども家庭センター」の令和6年4月開設に向けて、施設整備を進めてまいります。

●乳幼児とその保護者が気軽に相互交流ができ、子育て相談や情報提供などを行う子育て支援センターを運営するとともに、地域で自主的に活動している幼児クラブなどへの支援及びファミリーサポートセンター事業の推進と、昨年10月複合庁舎内に開設した「へそキッズランド」を運営してまいります。

●社会的背景の変化に伴う様々なニーズに対応するために、認可保育所、へき地保育所、認可外保育所、幼稚園などと連携し、必要な保育事業の提供を行ってまいります。

●心身の発達に配慮や支援を必要とする子どもの早期発見に努め、療育支援の充実を図るとともに、保育所・幼稚園から小学校へスムーズな移行ができるよう切れ目のない支援を行ってまいります。また、「こども通園センター」の施設が老朽化していることから、保健センター2階の一部改修を行い、「こども家庭センター」の設置と併せ移転し、受入れ環境の整備を進めてまいります。

●保護者の育児不安、ひとり親の自立や就業などに対する支援の相談窓口を引き続き設置するとともに、関係部署や専門機関と連携し、情報の共有と共通理解により、課題解決を図ってまいります。



富良野市複合庁舎1階の幼児向け屋内遊具施設「へそキッズランド」

評価指標一覧

I 主体的な学びを育てる「知育の木」

	成果指標	基準値(R1)	R 4 年度	目標値(R7)
1	全国学力・学習状況調査において、「国語の授業はよく分かる」と回答した児童生徒の割合	小84.8% 中86.6%	小84.7% 中78.9%	小100% 中100%
2	全国学力・学習状況調査において、「算数・数学の授業はよく分かる」と回答した児童生徒の割合	小75.8% 中76.1%	小79.0% 中59.9%	小100% 中100%
3	全国学力・学習状況調査において、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日 金曜日）全く勉強をしない」と回答した児童生徒の割合	小0.6% 中4.5%	小1.3% 中3.4%	小 0% 中 0%
4	教育課程や学習・指導方法の改善と評価の一体化を図り、一貫性のある取組を組織的かつ計画的に進めている学校の割合	84.1%	100%	100%
5	国際理解教育を教育計画に位置付けている学校の割合	—	100%	100%
6	SDG s を理解し、授業ができる教員の割合	—	98.0%	100%
7	全国学力・学習状況調査において、「英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができた」と回答した児童生徒の割合	—	—	100%
8	学校における教育の情報化の実態等に関する調査において、「授業に I C T を活用して指導することができる」と回答した教員の割合	91.8%	96.0%	100%
9	学校における教育の情報化の実態等に関する調査において、「児童の I C T 活用を指導することができる」と回答した教員の割合	91.4%	96.7%	100%
10	公開保育を開催する幼児教育保育施設数	0 箇所	0箇所	2箇所
11	小学校において、幼稚園、保育所と連携してスタートカリキュラムを作成している学校の割合	33%	77.8%	100%
12	小学校において、体験入学以外に交流学習を行っている学校の割合	33%	66.7%	100%
13	経過観察を含め、支援を要する児童生徒の個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成している学校の割合	65.2%	100%	100%
14	北海道立特別支援教育センター巡回相談講座の受講修了者数	5 人	10人	12 人

II 自主自律の心を育てる「情意の木」

	成果指標	基準値(R1)	R 4 年度	目標値(R7)
1	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合	小79.4% 中81.8%	小87.9% 中89.5%	小100% 中100%
2	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「学校の授業時間以外に、1 日あたり10分以上読書する」と回答した児童生徒の割合	小65.7% 中51.7%	小63.1% 中39.5%	小100% 中100%
3	読み聞かせボランティアや学校司書、市立図書館等と連携した取組を行っている学校の割合	69.2%	92.9%	100%
4	キャリア教育の目標及び全体計画の様式、マイノートの書式統一に取り組んでいる学校の割合	76.9%	100%	100%
5	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合	小83.6% 中75.0%	小79.6% 中59.9%	小100% 中100%
6	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「児童生徒の間での話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童生徒の割合	小70.3% 中73.9%	小85.4% 中75.7%	小100% 中100%
7	地域資源や地域人材を活用し、表現力や感性を育成する取組を教育課程に位置付けている学校の割合	小100% 中100%	小100% 中100%	小100% 中100%
8	不登校児童生徒への対応について、関係機関との連携した支援体制の整備・充実に取り組んでいる学校の割合	—	100%	100%
9	不登校児童生徒への多様な教育機会確保のため、ICT 機器の活用や家庭学習の評価、適応指導教室などの学習活動を評価材料に生かしている学校の割合	—	85.7%	100%
10	いじめのアンケート調査において「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒の割合	小97.7% 中92.8%	小99.1% 中97.3%	小100% 中100%
11	いじめのアンケート調査において「いやな思いをした時、誰にも相談しない」と回答した児童生徒の割合	小 6.8% 中11.7%	小 7.4% 中6.0%	小 0% 中 0%

Ⅲ 恵まれた環境と食で育てる「健康の木」

	成果指標	基準値(R1)	R 4 年度	目標値(R7)
1	富良野市の自然環境や施設を生かした活動、清掃活動や自然愛護活動など、学校や地域の特色を生かした教育課程を編成している学校の割合	69.2%	100%	100%
2	各種通信、給食日よりや献立表を活用し、家庭に対して望ましい食習慣の啓発を行っている学校の割合	92.3%	100%	100%
3	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合	小94.5% 中93.7%	小91.7% 中94.6%	小100% 中100%
4	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童生徒の割合	小90.3% 中88.7%	小92.4% 中88.4%	小100% 中100%
5	家庭や地域、関係機関との共通理解を深め、児童生徒の発達段階に応じた組織的・計画的な性教育や薬物乱用防止教室、飲酒・喫煙防止教室等の充実を図っている学校の割合	92.3%	100%	100%
6	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問紙調査において、「運動が好き」と回答した児童生徒の割合	小69.2% 中62.7%	小89.5% 中61.1%	小100% 中100%
7	地域指導者やスポーツ団体等を積極的に活用し、組織的・体系的な指導体制の充実に努めている学校の割合	76.9%	85.7%	100%

Ⅳ 原点を見つめ未来への輪を広げる「学びの大地」

	成果指標	基準値(R1)	R 4 年度	目標値(R7)
1	近隣等の中学校（小学校）と合同で授業研究などの研修を行っている学校の割合	—	57.1%	100%
2	地域の学校として小中一貫した9年間を見通し、特色ある教育活動を推進している学校の割合	61.6%	71.4%	100%
3	市内の中学校卒業生の富良野市内の高等学校への進学率	69%	67.5%	75%
4	学校、保護者、地域住民による三位一体の体制を構築し、質の高い教育の実現や諸課題の解決に努めている学校の割合	92.3%	100%	100%
5	1カ月の時間外勤務45時間以内、1年間360時間以内の教職員の割合	—	66.0%	100%
6	校区内の危機管理マニュアルを共有している学校の割合	92.3%	100%	100%
7	地域の実態に応じた防災訓練を実施している学校の割合	92.3%	100%	100%

Ⅴ 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進（※は2月末現在）

	成果指標	基準値(R1)	R 4 年度	目標値(R7)
1	家庭教育セミナー(中学校区)の開催	3回	0回	3回
2	家庭教育講演会の開催	1回	2回	1回
3	児童館の休日開催	0館	1館	1館
4	子ども未来づくりフォーラム参加校	8校	全校	全校
5	少年の主張大会参加校	6校	全校	全校
6	ふらのまちづくり未来ラボ参加者数	3.0%	4.0%（※）	3.0%
7	児童館、学童保育センターの利用者数	45,226人	27,903人（※）	39,000人
8	学童保育センター開所時間の延長	0館	5館	5館

Ⅵ 人々の暮らしの向上と人生100年時代を見据えた生涯学習の推進（※は2月末現在）

	成果指標	基準値(R1)	R 4 年度	目標値(R7)
1	富良野市民講座の参加者数	4.1%	9.0%（※）	4.1%
2	ことぶき大学学習日数	30日	28日	30日
3	市民一人当たり図書貸出冊数	5.8冊	5.4%（※）	7.0冊

Ⅶ 文化伝統の保護継承と社会教育施設整備の推進

	成果指標	基準値(R1)	R 4 年度	目標値(R7)
1	指定・登録文化財の件数	4件	0件	6件
2	無形民俗文化財保存団体会員数	78人	79人	78人
3	文化的活動や郷土の歴史等に接する機会への参加者数	340人	349人	380人
4	専門職員（社会教育主事・学芸員・司書）の配置	5人	6人	5人

I 主体的な学びを育てる「知育の木」

基本施策1：確かな学力を育む教育の推進

実践項目1 学力向上の取組の推進

- ・ 全国学力・学習状況調査の結果分析による検証と改善
- ・ 家庭と学校の連携による家庭学習時間の確保
- ・ 小学生及び、新たに中学生を対象とした標準検査（N R T）の実施

実践項目2 授業改善の推進

- ・ 学校教育指導訪問の実施
- ・ 「分かる授業」への授業改善と情報発信
- ・ T T 指導・習熟度別指導の充実

基本施策2：社会のグローバル化に対応する教育の推進

実践項目1 国際理解教育の充実

- ・ イングリッシュキャンプ等の英語に関わる機会の充実

実践項目2 外国語教育の推進

- ・ 全ての学校へ外国語指導助手を派遣
- ・ 中学校英語教諭による小学校への乗り入れ授業実施

実践項目3 I C T 教育の推進

- ・ 授業支援ソフトの活用
- ・ 情報モラル教育の推進、情報セキュリティ等の情報活用能力の育成
- ・ 通信環境をもたない家庭への通信機器支援
- ・ I C T 支援員の配置



【イングリッシュキャンプ】

基本施策3：質の高い幼児教育の推進

実践項目1 幼児教育の質の向上

- ・ 幼保小 合同研修会の実施
- ・ 公開保育、授業実践交流の開催

実践項目2 小学校教育との円滑な接続

- ・ 幼児教育の学びを生かしたスタートカリキュラムの編成
- ・ 幼保小合同引継会の実施
- ・ 幼保小の関係者が連携した架け橋プログラムの開発・実施



【幼保小合同引継会】

基本施策4 一人一人のニーズに対応した取組の充実

実践項目1 特別支援教育の充実

- ・ 専門家チームによる相談業務、訪問指導
- ・ 個別の支援計画を活用した効果的な指導と支援
- ・ 切れ目のない一貫した指導や支援体制の確立
- ・ 学校種間の円滑な接続と情報交換による共通理解
- ・ 特別支援教育支援員の適正配置
- ・ 保護者向けガイドブック活用による理解促進

実践項目2 就園・就学に対する支援

- ・ 専門家チームによる就学前からの相談体制の確保
- ・ 医療、保健、福祉等 関係機関による連携体制の充実
- ・ 保護者への巡回教育相談等の機会の周知
- ・ 教育 相談担当者の育成



【保護者向けガイドブック】

Ⅱ 自主自律の心を育てる「情意の木」

基本施策 1：豊かな心を育む教育の推進

実践項目 1 道徳教育の推進

- ・ 指導方法の工夫改善
- ・ 授業公開による教員の資質能力の向上
- ・ 地域人材を活用した「心に響く道徳教育」の実施

実践項目 2 読書活動の推進

- ・ 引き続き市内全小中学校へ学校司書配置
- ・ 学校、市立図書館、学校司書との連携強化
- ・ 朝読書や読み聞かせなど児童生徒の読書習慣確立に向けた取組の推進



【講師による道徳科の授業】

実践項目 3 キャリア教育の推進

- ・ 富良野版キャリアパスポート「マイノート」等を活用したキャリア教育の推進
- ・ ふるさと富良野に対する理解の促進
- ・ キャリア教育の改善に生かす評価の工夫

実践項目 4 コミュニケーション能力の育成

- ・ 各教科等における言語活動の充実
- ・ 演劇手法を用いたワークショップの実施
- ・ 体験活動を通じた表現力、コミュニケーション能力の育成



【ふらの演劇工場俳優による表現力の育成】

実践項目 5 文化芸術活動による資質・能力の育成

- ・ ふらの演劇工房の事業を活用した取組実施
- ・ 伝統・文化・芸術の鑑賞及び体験機会の取組実施

基本施策 2：いじめや不登校児童生徒への対応

実践項目 1 不登校児童生徒への支援

- ・ 適応指導教室（教育支援センター）の機能強化とアウトリーチ型支援の充実
- ・ ICT機器活用による教育機会の確保
- ・ 学校、保護者、スクールカウンセラー等関係機関との連携強化

実践項目 2 いじめ防止基本方針に基づく取組の推進

- ・ 「特別の教科 道徳」の推進
- ・ 児童生徒の自主的・自律的ないじめZERO への取組
- ・ いじめの積極的な認知、早期の組織的な対応と関係機関との連携
- ・ 生徒指導提要进行を踏まえた課題予防



【不登校児童生徒支援ガイド】

Ⅲ 恵まれた環境と食で育てる「健康の木」

基本施策 1：体験活動等の推進

実践項目 1 環境教育の推進

- ・ 森林学習プログラムや富良野自然塾を活用した体験活動
- ・ 学校や地域の特色を生かした教育課程の改善と充実

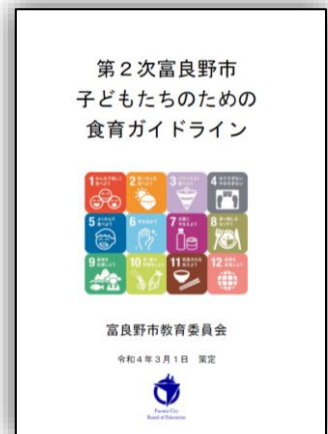


【富良野自然塾講師による環境教育】

基本施策 2：食育と学校給食の充実

実践項目 1 食に関する指導の充実

- ・ 望ましい食習慣の定着を図る指導計画の充実
- ・ 栄養教諭の効果的な活用
- ・ 学校、家庭、地域が連携・協働した食育の推進
- ・ 第2次富良野市子どもたちのための食育ガイドラインを活用した望ましい食習慣の啓発



【第2次食育ガイドライン】

基本施策 3：健やかな身体を育む教育の推進

実践項目 1 健康教育の充実

- ・ 発達段階に応じた性教育、薬物乱用防止教育の推進
- ・ 校内の相談体制の充実
- ・ 全小中学校でのフッ化物洗口実施

実践項目 2 学校体育の充実

- ・ 学校における体力向上の取組の推進
- ・ 体育・健康に関する指導工夫と改善
- ・ 地域と一体となった児童生徒の運動機会の創出



【体づくり運動】



【マット運動】

Ⅳ 原点を見つめ未来への輪を広げる 「学びの大地」

基本施策 1：学校段階間の円滑な接続

実践項目 1 学校段階間の円滑な接続

- ・ 学びの連続性を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施
- ・ 学校段階間の連携や一貫教育の充実を目指す指導の充実

実践項目 2 高校教育の推進

- ・ 中高連携による授業交流や学力の現状把握と分析
- ・ 教育ニーズに合わせた魅力ある高校づくりへの支援



【小中高合同研修会による互見授業】

基本施策 2：家庭・地域が一体となった学校運営の推進

実践項目 1 コミュニティ・スクールの推進

- ・ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
- ・ 地域学校協働活動の推進による地域との連携・協働体制の拡充
- ・ 学校運営協議会委員の研修や交流機会の拡充

実践項目 2 学校運営の推進

- ・ 地域に根差した学校経営の充実
- ・ 働き方改革に向けた適切な勤務環境づくり
- ・ 部活動の地域移行に向けた検討
- ・ コンプライアンスに関する研修の実施
- ・ 教職員の健康診断やストレスチェックの実施



【C S 委員による学校行事の見守り協力】

基本施策 3：防災・安全教育の充実

実践項目 1 防災・安全教育の充実

- ・ 地域の状況に応じた防災訓練の実施
- ・ 校区内幼保小中間での危機管理マニュアルの共有
- ・ 地域と連携した安全指導



【外部人材による防災教室】

V 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進

基本施策1：家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進

実践項目1：子ども子育て支援・家庭教育支援の充実

- 1 家庭教育講演会やセミナーの開催、家庭教育ハンドブック、子育てガイドブックの作成・配布
 - ・社会教育関係団体や子育て関係部署との連携
- 2 休日の子どもの居場所づくり（就学前の乳幼児対象）
 - ・へそキッズランドの利活用
- 3 親子体験活動の充実および子育てに関する市民講座の開催
 - ・子育て、または親子が一緒に参加できる講座の開催
 - ・主体的な学びを企画する子育てサークル等の支援
- 4 地域学校協働活動を推進
 - ・コミュニティ・スクールと連携した地域学校協働活動の取り組み
 - ・定期的な情報交換や研修をする機会の創出
 - ・学校支援ボランティアの育成と支援
- 5 ネットトラブル関係の情報提供（望ましい電子メディアとの関わり方）
 - ・講演会の実施や小冊子の配布



【家庭教育ハンドブック】



【家庭教育セミナー】

実践項目2：青少年教育の推進

- 1 子ども未来づくり事業の推進・拡大
 - ・子ども未来づくりフォーラム、少年の主張大会の開催
- 2 ふらのまちづくり未来ラガ推進事業の推進
 - ・ワークショップ学習による多世代交流を通じた郷土愛を感じる人材の育成
- 3 社会教育関係団体を育成・支援
 - ・子ども会、青少年サークル「ね〜びる」の育成支援
- 4 児童館・学童保育センター、放課後子ども教室の充実
 - ・児童厚生員、コーディネーター、サポーターの確保
- 5 富良野地域広域教育圏振興協議会の推進
 - ・沿線教育委員会との各種研修会や交流事業の実施
- 6 青少年健全育成を推進
 - ・青少年表彰、富良野市はたちを祝う会の実施
 - ・青少年補導センター、富良野市いじめ問題対策協議会との連携



【子ども未来づくりフォーラム】



【富良野市子ども会リーダー研修会】

Ⅵ 人々の暮らしの向上と人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

基本施策1：人々の暮らしの向上と人生100年時代を見据えた生涯学習の推進

実践項目1 成人・高齢者教育

- 1 市民講座、講演会、学習プログラム等の学びの場の提供
 - ・自主企画講座を通じた、市民が主体的に学ぶ場の提供
 - ・市民ニーズに対応した講座や講演会の開設
- 2 社会教育関係団体の育成・支援
 - ・PTA活動、中央婦人会の育成支援
- 3 「楽しく魅力ある」ことぶき大学の運営
 - ・「富良野校」「山部校」との連携協力
 - ・世代間交流事業、伝承活動の拡充
- 4 年齢ニーズに合った学習情報の提供や資料を整備
 - ・ホームページを主とした社会教育事業及び学びの情報の周知
 - ・生涯学習推進アドバイザーの配置



【ふらの市民講座 ふれあい講座】



【ことぶき大学】

実践項目2 読書活動の推進

- 1 利用者団体およびボランティア活動の積極的な情報提供
 - ・ボランティアの育成と活動の場の提供
 - ・団体、ボランティアとの協働による、各種行事の充実
- 2 図書館利用者等への図書サービスの継続
 - ・高齢者施設等へのいきいきサポートブックスの継続
- 3 図書館業務の省力化の推進と多様なサービスの検討
 - ・館内システムの更新準備と総体的なサービスの検討
- 4 子どもの読書推進プラン（第3次計画）の推進
 - ・ボランティアとの協働によるブックスタートの継続
 - ・学校司書との連携強化と学校図書館支援事業の推進
- 5 利用者ニーズに対応した図書資料および図書情報の提供
 - ・蔵書の充実と情報提供サービスの強化



【市立富良野図書館】



【ボランティアとの協働による行事風景】

VII 文化伝統の保護継承と社会教育施設整備の推進

基本施策 1：文化伝承活動と社会教育施設整備の推進

実践項目 1 文化伝統の保護継承

- 1 市内に現存する文化財のリストアップと、その登録・指定や保全活用方法等を調査
 - ・ 文化財保護審議会の開催による適切な保護措置の検討
 - ・ 文化財リスト掲載物件の調査推進
 - ・ 蒸気機関車D51954フラヌイ号の塗装保全
- 2 無形民俗文化財保存団体の会員数の維持・増加に向けた活動支援、活動状況等の情報発信と新たな人材の確保
 - ・ 郷土芸能保存団体活動費補助
 - ・ 用具類の補修・更新支援
 - ・ 生涯学習センターホームページへの活動情報掲載
- 3 郷土芸能伝習館の環境維持に向けた計画的かつ効果的な整備の実施
 - ・ 指定管理による適切な施設維持管理の実施



【富良野彌栄太鼓保存会】

実践項目 2 博物館活動の推進

- 1 市民の文化的活動や郷土の歴史等に接する機会の醸成、各種団体等との連携協力、効果的な学習機会の提供
 - ・ 博物館・大学・研究機関等との連携による調査研究の充実
 - ・ 調査研究活動に基づいた観察会や見学会、講演会などの開催
 - ・ 資料収集と収集した資料の活用・公開
 - ・ 資料の貸し出し、古写真・動画などの貸し出しと提供
 - ・ 展示解説や出前講座、講義などの依頼対応
 - ・ レファレンスサービス（調べもの相談）の充実
 - ・ ホームページ、SNSによる情報の発信
- 2 多様な展示や学習資料の作成等とおした教育普及
 - ・ 地域の自然・歴史・文化等を紹介する特別展や企画展の実施
 - ・ ガイドブックや郷土学習資料の発行
 - ・ ミュージアムボックスの貸し出し
- 3 各種調査研究活動による資料の公開
 - ・ 博物館年報やミュージアムレターなど機関紙の発行
- 4 インバウンドに対応した英語版展示解説システムの運用



【特別展 森の心、そして祈り】



【ふらの木の図鑑】

実践項目 3 社会教育施設機能の充実

- ・ 中央公民館
- ・ 生涯学習センター（山部公民館・博物館）
- ・ 東山公民館
- ・ 市立富良野図書館
- ・ 郷土芸能伝習館



【生涯学習センター】

令和 5 年度

富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点検・評価

学 校 第 三 者 評 価

発行：令和 6 年 8 月

富 良 野 市 教 育 委 員 会
